



オリンピック・パラリンピック教育 実践事例集

平成 28 年 7 月
東京都教育委員会

はじめに

4月から、東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育「ようい、ドン！」が、都内の全ての公立学校（園）で本格的にスタートしました。

これまでも、オリンピック・パラリンピックでは、世界のトップアスリートたちが、自らのベストを尽くし、フェアプレイの精神に基づいた世界最高峰の熱い戦いを繰り広げることで、多くの子供たちに勇気と感動を与えてきました。

まもなく、リオデジャネイロ 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。この大会も、先生方や子供たちへのオリンピック・パラリンピックへの関心を高める一つのきっかけとなり、各学校におけるオリンピック・パラリンピック教育が、ますます充実したものになっていくと考えています。

都教育委員会では、オリンピック・パラリンピック教育の全校展開に当たり、平成 27 年度は、「オリンピック・パラリンピック教育推進校」を 600 校に拡大し、幼児・児童・生徒の実態に応じた、実践的な取組を行っていただきました。

また、本年 1 月には、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針を策定し、全ての学校（園）において、「オリンピック・パラリンピックの精神」と、オリンピック・ムーブメントの 3 つの柱「スポーツ」、「文化」、「環境」を合わせた 4 つのテーマを設定し、「学ぶ（知る）」「観る」「する（体験・交流）」「支える」の 4 つのアクションを組み合わせた「4×4 の取組」により、多彩な教育活動を展開していくことをお願いしました。

さらに、オリンピック・パラリンピック教育の基本的な考え方を、各学校の先生方に理解していただくために、4 月から 5 月にかけて説明会を実施しました。この説明会においては、参加者から、「オリンピック・パラリンピック教育を進める上で参考になった。」という声とともに、「具体的な実践事例を示してほしい。」という声も多く寄せられました。

そこで、このたび、各学校における全体計画の例や各学年における 35 時間の計画例、推進校の工夫した取組を基にした実践例を「実践事例集」として取りまとめました。

今後、各学校において、本事例集を活用し、創意工夫を凝らした教育活動を展開することにより、子供たちに、ボランティアマインドや障害者理解、スポーツへの興味・関心、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等を確実に醸成していくことを期待しています。

東京都教育委員会

目次

はじめに

1	オリンピック・パラリンピック教育の基本的考え方・進め方	4
2	全体計画例	
	小学校	10
	中学校	11
	高等学校	12
3	35時間の指導計画例	
(1)	小学校第1学年	14
(2)	小学校第2学年	16
(3)	小学校第3学年	18
(4)	小学校第4学年	20
(5)	小学校第5学年	22
(6)	小学校第6学年	24
(7)	中学校第1学年	26
(8)	中学校第2学年	28
(9)	中学校第3学年	30
(10)	高等学校第1学年	32
(11)	高等学校第2学年	34
4	実践事例	
(1)	オリンピック・パラリンピック精神を学ぶ	
①	小学校第1学年 特別活動（学級活動） 「オリンピックについて知ろう！」	36
②	小学校第2学年 特別活動（学級活動） 「オリンピック・パラリンピック博士になろう」	38
③	小学校第3学年 総合的な学習の時間 「オリンピック調査隊」	40
④	小学校第4学年 総合的な学習の時間 「パラリンピック調査隊」	42
⑤	中学校第1学年 保健体育（体育理論） 「文化としてのスポーツの意義」	44
⑥	高等学校第2学年 保健体育（体育理論） 「運動・スポーツの文化的特徴」	46
(2)	スポーツ	
①	幼稚園年少4歳児 「動物オリンピック（運動遊び）」	48
②	小学校第2学年 体育 「マットメダルを集めよう」	50
③	小学校第3学年 道徳 「ワンダフル・ヒトミ 一人見 絹枝」	52
④	小学校第5学年 国語 「新聞記事を読み比べよう」	54
⑤	中学校第1学年 外国語（英語） 「Wheelchair Basketball（車いすバスケットボール）」	56
⑥	中学校第2学年 総合的な学習の時間 「福祉体験学習」	58

- ⑦ 中学校第3学年 国語
「15歳の主張～伝え合おう、私たちの思い～（意見発表会）」・・・ 60
- ⑧ 高等学校第2学年 芸術（美術） 「アスリート的美を表現しよう」・・・ 62
- ⑨ 高等学校第3学年 保健体育 「メンタルトレーニングの基礎」・・・ 64
- ⑩ 特別支援学校小学部1・2・3学年 特別活動 「ボッチャを通じた学校間交流」・・・ 66
- ⑪ 特別支援学校高等部第1学年 生活単元学習
「オリンピック・パラリンピック競技種目について」・・・ 68

(3) 文化

【伝統・文化】

- ① 小学校第6学年 図画工作 「ぼくらの浮世絵を作り上げよう」・・・ 70
- ② 小学校第6学年 音楽 「オリンピック・パラリンピックのマーチを作ろう」・・・ 72
- ③ 小学校第6学年 総合的な学習の時間 「茶道体験をしよう」・・・ 74
- ④ 中学校第2学年 技術・家庭科（家庭分野）
「和服の文化と世界の民族衣装について知ろう」・・・ 76
- ⑤ 高等学校第1学年 外国語(英語)
「日本の伝統・文化を英語で発信しよう～英語落語を通して～」・・・ 78
- ⑥ ろう学校中学部第2学年 総合的な学習の時間
「日本の伝統・文化、茶道を体験しよう」・・・ 80

【国際理解】

- ⑦ 小学校第6学年 総合的な学習の時間 「韓国とWeb交流をしよう」・・・ 82
- ⑧ 高等学校第1学年 総合的な学習の時間（ホームルーム活動）
「参加国・地域を調べよう」・・・ 84

(4) 環境

- ① 小学校第5学年 総合的な学習の時間 「見つめよう環境問題」・・・ 86
- ② 高等学校第3学年 生物基礎 「五大陸の自然と生物」・・・ 88

(5) ボランティア

- ① 小学校第4学年 総合的な学習の時間 「高齢者介護施設の方々との交流」・・・ 90
- ② 中学校第1学年 総合的な学習の時間 「障害者スポーツ大会でボランティア」・・・ 92
- ③ 高等学校全日制・定時制 総合的な学習の時間 「ボランティア活動」・・・ 94

(6) 興味・関心を高めるための校内環境の工夫

- ① 小学校 「オリンピックについてたくさん知ろう！」・・・ 96
- ② 小学校 「世界の国々の紹介（パネル展示）」・・・ 98
- ③ 中学校 「オリンピック・パラリンピック掲示板の取組」・・・ 100
- ④ 特別支援学校 「オリンピック花壇を作ろう！」・・・ 102

- 実践事例協力校一覧・・・ 104
- オリンピック・パラリンピック教育 参考図書・・・ 105

1 オリンピック・パラリンピック教育の基本的考え方・進め方

(1) オリンピック・パラリンピックを次代を担う子供たちの成長につなげるために

オリンピック・パラリンピック教育（以下、「本教育」という。）は、スポーツを通して、知・徳・体の調和の取れた人間を育成することを目指し、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地において、子供たちが、スポーツにより心身の調和的発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献できるよう計画・実施するものを指します。

東京都教育委員会では、平成28年1月に策定した「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針を踏まえ、平成28年度から本教育を都内全ての公立学校で実施し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）を、子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、東京都の幼児・児童・生徒のよいところを更に伸ばし、弱みを克服するための取組を推進していきます。

これにより、国際社会に貢献し、東京、そして日本の更なる発展の担い手となる人材を育成していくとともに、東京2020大会の経験を通じ、その後の人生の糧となるようなかけがえのないレガシーを子供たち一人一人の心と体に残していきます。

(2) 育成すべき人間像

- ① 自己を肯定し、自らの目標をもって、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- ② スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間
- ③ 日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間
- ④ 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間

(3) 基本的視点

- ① 全ての子供が大会に関わる

発達段階や興味・関心に応じて、オリンピック・パラリンピックに何らかの形で関わります。

- ② 体験や活動を通じて学ぶことを重視する

知識を習得するだけでなく、実際に体験や活動することを通じて学びを深めます。

- ③ 計画的・継続的に教育を展開する

東京2020大会と、更にその先を見据え、計画的・継続的に教育を展開します。

(4) オリンピック・パラリンピック教育の基本的枠組

各学校においては、学習指導要領の目標達成を図りつつ、各教科等の学習内容・活動とオリンピック・パラリンピックを関連付け、「4つのテーマ」と「4つのアクション」を組み合わせた多様な取組を展開します。

この際、「4×4の取組」の4つのテーマと4つのアクションをバランスよく取り入れていくことが大切です。

学年によって、各教科等や学習内容に違いがあるため、1学年で4テーマ及び4アクションをバランスよく取り入れることが難しい場合があります。小学校では6年間、中・高校では3年間を見通して、学校全体で計画的に取り入れて必要があります。



(5) 4つのテーマの意義と配慮する事項

① オリンピック・パラリンピックの精神

オリンピック・パラリンピック競技大会の究極の目標である「平和でより良い世界の構築に貢献すること」は、教育基本法及び学校教育法における「教育の目標」とも通じています。特に、卓越、友情、敬意／尊重の3つの中心的価値を実現することを目指すオリンピック精神（オリンピズム）と、勇気、決断、平等、鼓舞の4つの中心的価値を具現化するパラリンピック精神は、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う」「豊かな心を育む」ことを目標とする道徳をはじめとした学校教育との親和性が非常に高いものです。このため、オリンピック・パラリンピックの精神や意義は、本教育全体を貫く基本理念と捉え、本教育全体に関連付けて取組を展開することが大切です。

② スポーツ（オリンピック競技、パラリンピック競技・障害者スポーツ）

スポーツを人類の調和のとれた発展に役立てることはオリンピック精神の目的とされており、スポーツは正に人間の知・徳・体の均衡のとれた総体としての発達・形成にとって不可欠なものです。また、こうしたスポーツの意義や精神を学ぶことは、保健体育・体育科の目標の実現にもつながります。オリンピック、パラリンピック、アスリート、スポーツ指導者等、様々なスポーツ分野の人と直接交流する機会を設けるなどして、児童・生

徒がスポーツに親しみ、自ら進んでスポーツを行うようにします。

さらには、障害者スポーツの体験や特別支援学校の児童・生徒と公立小・中・高校の児童・生徒との交流などを通じ、障害者理解教育を充実させることも大切です。

③ 文化（日本文化、国際理解・交流）

東京2020 大会を通じて、我が国で長い年月を経て育まれた伝統・文化や、いわゆる「クールジャパン」と呼ばれる現代の文化や技術のすばらしさを、次代を担う子供たちに伝えます。また、東京2020大会に向けて外国人との交流機会が飛躍的に増大する機会を活用し、異文化に対する理解を深め、異なる文化をもつ人々と互いに認め合い、広い視野をもち、共に生きる態度などを育成します。

国際理解教育や国際交流を進める際には、学校の特色や地域の特性を踏まえ、地域に住む外国人や留学生との交流や、関係機関との連携を深めていきます。

伝統芸能・文化を学習する際には、専門家の指導に基づく体験的な学習や、地元の史跡・郷土資料館等の活用などを通じて日本人としてのアイデンティティを自覚し、その魅力を自ら発信できるような取組に努めます。

④ 環境（持続可能な開発のための教育 ESD : Education for Sustainable Development）

近年、国際オリンピック委員会（IOC）は環境保全を重視し、その徹底を図る取組等を推進しています。また、ユネスコにおいては、将来にわたって安心して生活できる持続可能な開発のための教育（ESD）を提唱しています。

こうした動向を踏まえ、オリンピック・パラリンピックを通じて環境問題について学習することにより、次代を担う子供たちが、自主的・積極的に環境保全活動に取り組み、世界の人々と協調し共存できる持続可能な社会の担い手となるよう取り組みます。

環境について学ぶ際には、各自治体はもとより企業、団体等の環境への取組や日常生活における環境への配慮について調べたり、校外清掃など地域の美化に努める活動に参加したりするなど体験的な活動を取り入れます。

（6）4つのアクションの意義

子供たちに、4つのテーマについて学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させます（「学ぶ（知る）」）。その上で、子供たち自身が興味・関心をもち、自ら抱いた疑問や課題を解決するために、実際に観たり（「観る」）、体験や交流をしたりする（「する（体験・交流）」）といった活動を重視します。

さらには、4年間かけて、子供たちに何らかの形で大会を支えていこうという意識（「支える」）を醸成し、できる限り多くの子供たちが大会や関連事業を直接・間接に支える取組を行っていきます。この4年間のプロセスにより、スポーツ、文化、福祉、環境等多くの分

野での「支える」活動を通じ、子供たちに、ボランティアマインドや社会貢献の心を醸成することを目指し、4つのテーマを横断して取り組みます。

これら4つのアクションがそれぞれ、4つのテーマにアプローチすることで、多彩な教育活動を展開することができます。

(7) オリンピック・パラリンピック教育の進め方

① 各学校において、本教育を進めるに当たっては、学校の特色及び校長の経営方針等に基づき、全体計画・年間指導計画を作成し、学校全体で組織的・計画的に実施することが重要です。

② 子供たちが、オリンピック・パラリンピックについて質・量ともに十分に学習するためには、年間35時間程度の時間が望まれます。

本教育は、教育課程内・外を問わず、現在実施している各教科・行事等の中に位置付けることが可能です。言い換えれば、これまで行ってきた教育活動と別な新たなものとして行うのではなく、現在行っている教育活動にオリンピック・パラリンピックを関連付けて行うことができます。また、必ずしも、毎週1単位時間実施するものではありません。

※ なお、総合的な学習の時間等で長時間かけて取り組む内容については、オリンピック・パラリンピック教育との関連を明確にし、学校全体でオリンピック・パラリンピック教育として位置付ける時間数を共通理解しておく必要があります。

③ 学習の効果を高めるためには、東京都教育委員会発行のオリンピック・パラリンピック学習読本や映像教材の活用はもとより、関連する書籍や資料、人材、体験活動、ウェブサイト等を十分に活用します。

④ 保護者や地域住民の参加を促す取組や、学校と家庭とが連携できる学習方法などを積極的に取り入れます。

⑤ 学習指導要領に基づき、我が国の国旗・国歌について、その意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗・国歌についても同様に尊重する態度を育てます。

(8) オリンピック・パラリンピック教育で重点的に育成すべき5つの資質

多彩な「4×4の取組」を展開することで、子供たちに多くの資質・能力を身に付けさせることが可能となりますが、特に「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」の5つの資質の育成に重点を置くことが大切です。

中でも、「ボランティアマインド」と「障害者理解」は特に重要です。

なお、重点的に育成すべき5つの資質は、一朝一夕で醸成できるものではないので、4年半かけて組織的、計画的に育成することが大切です。

<5つの資質>

① ボランティアマインド

発達段階に応じてボランティアに関わる取組を継続的・計画的に行い、社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心を育むとともに、子供たちの自尊心を高めます。

また、障害のある児童・生徒が社会貢献やボランティアに参加できる仕組みを構築します。

② 障害者理解

障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる真の「共生社会」を実現するため、障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じ、多様性を尊重し、障害者を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させます。

③ スポーツ志向

スポーツへの興味・関心を高め、様々なスポーツを体験することにより、子供たちにフェアプレーやチームワークの精神を身に付けさせるとともに、心身ともに健全な人間へと成長させます。

④ 日本人としての自覚と誇り

日本の伝統・文化や最新の技術などを学び、世界に発信する力を育てると共に、日本人の規範意識や公共の精神等を学ぶことを通じ、子供たちに日本人としての自覚と誇りを身に付けさせます。

⑤ 豊かな国際感覚

世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶとともに、留学生や外国人、海外の学校等との交流を促進し、世界各国の人々とコミュニケーションを図ろうとする態度や、豊かな国際感覚を養います。

(9) 5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト

各学校においては、前述の5つの資質を伸ばすために、「東京ユースボランティア」「スマイルプロジェクト」「夢・未来プロジェクト」「世界ともだちプロジェクト」を活用することにより、日常的に行っている独自の取組を更に活性化させていくことが大切です。

① 東京ユースボランティア (Tokyo Youth Volunteer)

子供たちのボランティアマインドを育むとともに、自尊感情を高めていくために、発達段階に応じて、ボランティア活動を計画的・継続的に行います。

② スマイルプロジェクト (Smile Project)

子供たちに、お互いの人格や個性についての理解を深め、主体的に他の人と関わる方法を考えさせ、思いやりの心を育成する取組や、障害の有無にかかわらず、相互理解を図る教育を充実・拡大します。

③ 夢・未来プロジェクト (Dream/Future Project)

オリンピックやパラリンピアン等のアスリート等を学校に派遣し、直接交流することにより、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックのすばらしさを実感できるようにすると共に、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり、困難を克服しようとする意欲を培います。

④ 世界ともだちプロジェクト (Global Friendship Project)

世界には多くの国があり、その国の様々な人種や言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するために、大会参加予定国を幅広く学び、可能な限り実際の交流へと深化する活動を行います。その際、これまで地域・学校が築いてきた姉妹都市や姉妹校等のつながりも生かした教育を展開します。

また、留学生が多く、多様な国籍の人々が住み、大使館が集中しているといった東京の特性を生かした国際交流も実施します。

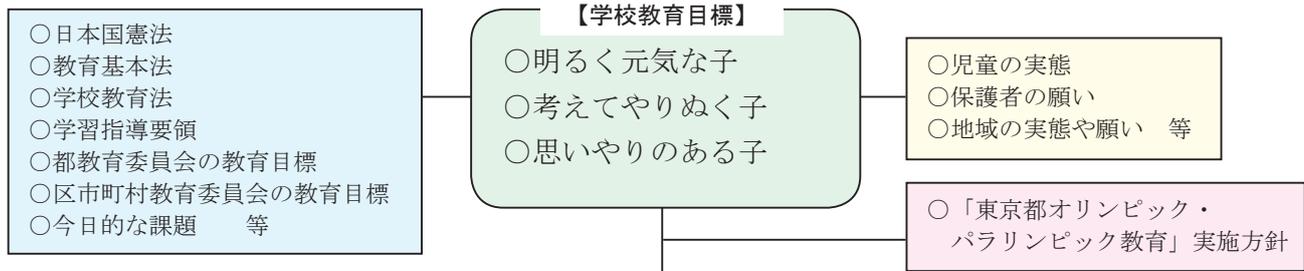
(10) オリンピック・パラリンピック教育の3つのレガシー

本教育では、東京2020大会後のレガシーを見据えた取組を行っていくことが大切です。

- ① 子供たち一人一人の心と体に残る、かけがえのないレガシーを形成
- ② 学校における多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等などの取組を、大会後も長く続く教育活動として発展
- ③ 家庭や地域を巻き込んだ取組により、共生・共助社会を形成

2 全体計画例

オリンピック・パラリンピック教育の全体計画例（小学校）



【オリンピック・パラリンピック教育の目標】

オリンピック・パラリンピック教育を通して、以下のような人材を育成する。

- 基礎的な学力や体力の向上、その基盤となる道徳性の向上に意欲的に取り組む人間
- 他人を思いやる心を持ち、共に助け合って生きようとする人間
- 我が国の郷土を愛し、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する人間

【「4×4の取組」における指導の重点】

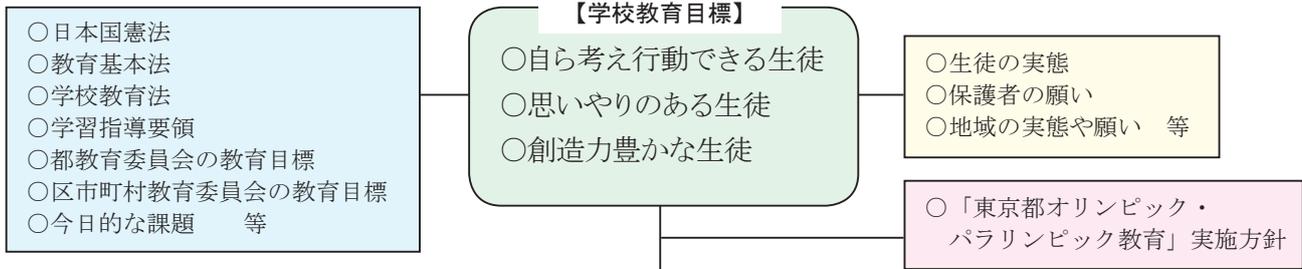
		学ぶ(知る)	観る	する(体験・交流)	支える
オリンピック・パラリンピックの精神		歴史・意義、価値、役割等について学ぶ。	映像教材や、1964年東京大会等、過去の大会の映像や写真を観る。	オリンピック・パラリンピックに関わる様々な行事やイベントに参加する。	高齢者施設等を訪問し、思いやりの気持ちをもって交流する。
スポーツ	オリンピック競技	競技種目の特徴やルール、歴史等について学ぶ。	実業団や大学生などのアスリートの実演を観る。	オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた体育授業や運動会を行う。	オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた運動会を係活動や応援で支える。
	パラリンピック競技・障害者スポーツ	競技種目の特徴やルール、歴史等について学ぶ。	パラリンピックスポーツや障害者スポーツを観る。	パラリンピックスポーツや障害者スポーツを体験する。	パラリンピックスポーツや障害者スポーツを応援する。
文化	日本文化	東京や郷土、日本の伝統・文化について学ぶ。	東京や郷土、日本の伝統・文化芸能等を見学する。	東京や郷土、日本の伝統・文化芸能等を体験する。	郷土の伝統・文化を伝承するために、発信する。
	国際理解・交流	参加国・地域の歴史・文化等について学ぶ。	地域の外国人、留学生等が紹介する伝統・文化芸能を観る。	地域の外国人や留学生等と文化交流をする。	もてなしの気持ちを持ち、外国人に進んで道案内をする。
環境		過去の大会や東京2020大会における環境への配慮を学ぶ。	東京2020大会会場予定地等の環境への配慮を観る。	CO ₂ 削減等、自分のできることを見付けて実践する。	地域の清掃活動等に積極的に参加する。

【教科等におけるオリンピック・パラリンピック教育のねらい】

日常的な指導	校長講話、集会、給食等を通してオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、精神を学ぶ。
各教科等	国語 自国及び外国の伝統や文化について理解を深め、オリンピック・パラリンピックを題材にした学習を通して適切に表現する能力を身に付ける。
	社会 オリンピックが社会に与えた影響や国際交流について理解を深め、公民的資質の基礎を養う。
	算数 オリンピック・パラリンピックを題材にした学習を通して、道筋を立てて考える能力を身に付ける。
	理科 オリンピック・パラリンピックを題材にした学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。
	生活 自国及び外国の伝統や文化を体験し、自立への基礎を養う。
	音楽 自国及び外国の伝統や文化を感じながら学習に取り組み、豊かな情操を養う。
	図画工作 オリンピック・パラリンピックを題材にした学習を通して、豊かな情操を養う。
	家庭 オリンピック・パラリンピックを題材にした学習を通して、生活を工夫しようとする実践的態度を身に付ける。
	体育 オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた学習を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う。
特別活動 オリンピック・パラリンピックの精神を理解し、自らの行動に生かそうとする態度を養う。	
総合的な学習の時間 オリンピック・パラリンピックに関連した課題を自ら見付け、主体的に解決しようとする。	
外国語活動 誰にでも進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望と勇気、努力と強い意志を身に付ける。 ○ 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする心情や態度を養う。 ○ 伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養う。

※ 幼稚園、特別支援学校については、各校種の計画を参考に、幼児・児童・生徒の実態に応じた全体計画を作成する。

オリンピック・パラリンピック教育の全体計画例（中学校）



【オリンピック・パラリンピック教育の目標】

オリンピック・パラリンピック教育を通して、以下のような人材を育成する。

- 学力、体力、道徳性の向上に、自ら主体的に取り組む人間
- 社会に貢献しようとする意欲や、共に助け合い、支え合って生きようとする人間
- 日本人としての自覚と誇りを持ち、他国を尊重し、国際社会の発展や環境保全に貢献し、未来を拓く主体性のある人間

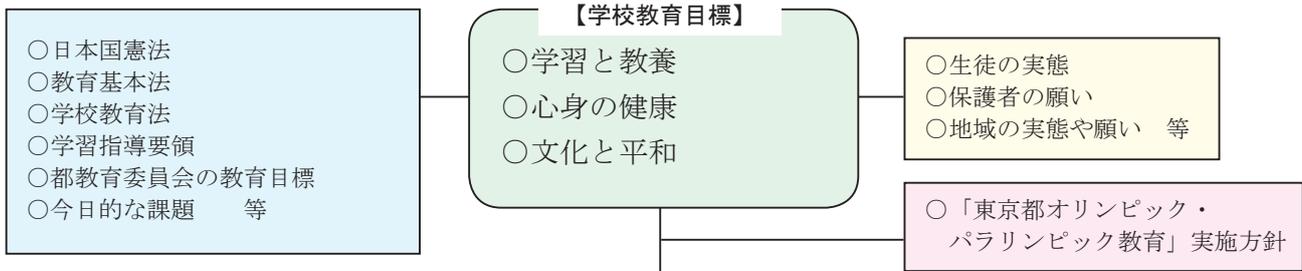
【「4×4の取組」における指導の重点】

		学ぶ(知る)	観る	する(体験・交流)	支える
オリンピック・パラリンピックの精神		学習読本を活用し、歴史・意義、価値、役割等について学ぶ。	映像教材や、1964年東京大会等過去の大会の映像や写真を観る。	オリンピック・パラリンピックに関わる様々な行事やイベントに参加する。	地域行事等の運営にボランティアとして参加する。
スポーツ	オリンピック競技	競技種目の特徴やルール、歴史等について学ぶ。	実業団や大学生などのアスリートの実演を観る。	オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた体育授業や運動会等を行う。	小学生の部活動体験やスポーツ指導等を通して、社会貢献の良さを味わう。
	パラリンピック競技・障害者スポーツ	競技の歴史や概要について調べる。	ライブサイト等で、リオ2016大会、平昌2018大会を観戦する。	特別支援学校の生徒と共に、障害者スポーツを体験する。	障害者スポーツ大会等の運営等にボランティアとして参加する。
文化	日本文化	東京や郷土、日本の伝統・文化について学ぶ。	東京や郷土、日本の伝統・文化芸術を見学する。	伝統・文化である武道に取り組む。	郷土の伝統・文化を伝承するために、発信する。
	国際理解・交流	大使館職員の講話を通して、対象国に対する理解を深める。	地域の外国人、留学生等が紹介する伝統・文化芸術を観る。	地域の外国人や留学生等との交流を通して、国際理解を深める。	「おもてなし親善大使」育成塾に参加する。
環境		過去の大会や東京2020大会における環境への配慮を学ぶ。	東京2020大会会場予定地等の環境への配慮を観る。	CO ₂ 削減等、自分のできることを見付けて実践する。	地域の清掃活動等に積極的に参加する。

【教科等におけるオリンピック・パラリンピック教育のねらい】

日常的な指導	校長講話、集会、給食等を通してオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、精神を学ぶ。	
各教科等	国語 社会 数学	伝統的な言語文化の学習を通して、国語に対する認識を深める。 地理的分野の学習を通して、参加国・地域の人々の生活や環境の多様性を理解する。 オリンピック・パラリンピックに関する資料を用いて、代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取る。
	理科	第1分野の学習を通して、自然環境の保全と科学技術の利用について認識する。
	音楽	参加国・地域の音楽の特徴をその国の文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する。
	美術	聖火リレーのトーチや各大会のポスターを鑑賞し、造形的な良さや美しさなどを説明し合う。
	保健体育	体育理論の学習を通して、国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解する。
	技術・家庭	オリンピック・パラリンピック競技大会で活用されている技術が産業の継承と発展に果たしていることについて理解する。
	外国語(英語)	オリンピック・パラリンピックについて、英語で自分の考えを話したり、書いたりすることができるようにする。
	総合的な学習の時間 特別活動	オリンピック・パラリンピックに関連した課題を自ら見付け、主体的に解決しようとする。 オリンピック・パラリンピックの精神を理解し、集団や社会の一員として自主的・実践的な態度を身に付ける。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに励まし合い、高め合いながら人間関係を深める。 ○ 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人への尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を養う。 ○ 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 	

オリンピック・パラリンピック教育の全体計画例（高等学校）



【オリンピック・パラリンピック教育の目標】

オリンピック・パラリンピック教育を通して、以下のような人材を育成する。

- スポーツに親しみ、「知」、「徳」、「体」の調和のとれた人間
- 社会に貢献しようとする意欲をもち、障害の有無にかかわらず共に助け合い、支え合って生きようとする人間
- 日本人としての自覚と誇りをもち、世界各国の文化と伝統の理解を深めるとともに国際社会で活躍する人間

【「4×4の取組」における指導の重点】

		学ぶ(知る)	観る	する(体験・交流)	支える
オリンピック・パラリンピックの精神		学習読本を活用し、歴史・意義等について学ぶ。	映像教材や、1964年東京大会等過去の大会の映像や写真を観る。	オリンピック・パラリンピックに関わる様々な行事やイベントに参加する。	地域行事やスポーツ大会の運営等にボランティアとして参加する。
スポーツ	オリンピック競技	競技種目の特徴やルール、歴史等について詳しく学ぶ。	実業団や大学生などのアスリートの実演を観る。	オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた体育授業や運動会を行う。	地域のスポーツ大会や近隣の小学校の運動会にボランティアとして参加する。
	パラリンピック競技・障害者スポーツ	競技種目の特徴やルール、歴史等について詳しく学ぶ。	パラリンピックスポーツや障害者スポーツを観る。	パラリンピックスポーツや障害者スポーツを体験する。	障害者スポーツ大会の運営等にボランティアとして参加する。
文化	日本文化	東京や郷土、日本の伝統・文化について学ぶ。	東京や郷土、日本の伝統・文化を見学する。	東京や郷土、日本の伝統・文化を体験する。	郷土の伝統・文化を伝承するために、発信する。
	国際理解・交流	参加国・地域の国々の歴史・文化等について学ぶ。	地域の外国人、留学生等が紹介する伝統・文化芸術を観る。	地域の外国人や留学生等と文化交流をする。	「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」に参加する。
環境		過去の大会や東京2020大会における環境への配慮を学ぶ。	東京2020大会会場予定地等の環境への配慮を観る。	CO ₂ 削減等、自分のできることを見付けて実践する。	地域の清掃活動等に積極的に参加する。

【教科等におけるオリンピック・パラリンピック教育のねらい】

日常的な指導	校長講話、集会、給食等を通してオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、精神を学ぶ。	
各教科等	国語 世界史 日本史 地理 公民 数学 理科	我が国と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。 オリンピアの祭典を取り上げ、ヨーロッパの文化や宗教について理解を深める。 1964年東京オリンピックを取り上げ、経済の発展と国民生活の変化について理解を深める。 近代オリンピックの開催都市を取り上げ、その分布や動向などについて考察する。 1964年東京オリンピックを取り上げ、経済社会と経済活動の在り方について考察する。 オリンピック競技におけるマラソン等の競技記録のデータを分析する。 オリンピック・パラリンピック競技における様々な物理現象とエネルギーの利用に関する探究活動を行い、物理学的に探究する能力を高める。
	保健体育 芸術(美術)	体育理論の学習を通してスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解する。 オリンピックについてのポスターやエンブレムのデザイン等の表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術文化についての理解を深める。
	外国語(英語)	オリンピック・パラリンピックについての英語の記述を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
	家庭	オリンピック・パラリンピック選手の食生活の学習を通して、健康で安全な食生活を営むための態度を養う。
	情報	情報を分かり易く表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得する。
	特別活動	オリンピック・パラリンピックの精神を理解し、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
	総合的な学習の時間	オリンピック・パラリンピックについて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行い、自己の在り方生き方を考える。
	人間と社会	ボランティア活動などの体験活動を通して、道徳性を養い、判断基準(価値観)を高めることで、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を身に付ける。

3 35時間の指導計画例

【小学校第1学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	1	2
教科等	国 語			算 数	
内 容	〔読むこと〕C(2)アイ 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○昔話や神話・伝承など①	〔読むこと〕C(2)アイ 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○昔話や神話・伝承など②	〔読むこと〕C(2)アイ 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○昔話や神話・伝承など③	〔数と計算〕A(1)オ 2位数の表し方について理解すること。 ○参加国・地域の選手数。	〔数と計算〕A(1)カ 簡単な場合について3位数の表し方を知ること。 ○参加国・地域の選手数。
補助教材の活用					

	6	7	8	9	1
教科等	生 活				
内 容	2(6) 昔遊びを体験しよう。		2(8) 参加国・地域の遊びを体験しよう。		〔鑑賞〕B(1) ○我が国のわらべ歌や遊び歌
補助教材の活用					

	1	2	3	4	5
教科等	体 育				
内 容	〔体づくり運動〕A(1)イ 多様な動きを作る運動遊び ○世界一周カードを用いて、様々な運動遊びに取り組む。		〔器械・器具を使つての運動遊び〕B(1)イ マットを使った運動遊び ○一人一人のよさを児童が作ったメダルで称賛		〔器械・器具を使つての鉄棒を使った運動遊び ○一人一人のよさを児童
補助教材の活用					

	3	1	2	3	4
教科等	道 徳	特 別 活 動			
内 容	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	【学級活動】(2) ○オリンピックについて知ろう	【学級活動】(2) ○パラリンピックについて知ろう	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式
補助教材の活用		㉞ P1～8	㉞ P9～12		

※ 小学校低学年用パンフレット㉞、映像教材㉞、東京ユースボランティア㉞、スマイルプロジェクト㉞、世界ともだちプロジェクト㉞

文化

環境

1	2	3	4	5
生活				
身近な自然の観察2(5) ○夏の様子	身近な自然の観察2(5) ○秋の様子	身近な自然の観察2(5) ○冬の様子	2(8) 参加国・地域の国旗を知ろう。 ㊦	

2	3	1	2	3
音楽		図工		
〔鑑賞〕B(1) ○外国のわらべ歌や遊び歌 ㊦	〔鑑賞〕B(1) ○外国の行進曲や踊りの音楽 ㊦	〔表現〕A(2) 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 ○動物オリンピック①	〔鑑賞〕B(1) 自分たちの作品を楽しく見ること。 ○動物オリンピック②	

6	7	8	1	2
			道徳	
運動遊び〕B(1)ウ が作ったメダルで称賛	〔器械・器具を使つての運動遊び〕B(1)工 跳び箱を使った運動遊び ○一人一人のよさを児童が作ったメダルで称賛		A 希望と勇気、努力と強い意志	B 親切、思いやり

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り
特別活動 【児童会活動】	○地域清掃への参加 ㊦ ○地域の高齢者施設の訪問 ㊧

【小学校第2学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	1	2
教科等	国 語			算 算	
内 容	〔話すこと・聞くこと〕 A (1) ○オリンピック・パラリンピックについて話してみよう。	〔読むこと〕 C (1) ウ 〔伝統的な言語文化に関する事項〕 (1) ア ○昔話や神話・伝承などの本や文章①	〔読むこと〕 C (1) ウ 〔伝統的な言語文化に関する事項〕 (1) ア ○昔話や神話・伝承などの本や文章②	〔数と計算〕 A (2) ○オリンピック・パラリンピックに関わる数字を使った加法及び減法。	〔量と測定〕 B(1)(3) ○オリンピック・パラリンピックに関わる距離・時間を様々な単位で表す。
補助教材の活用					

	1	2	3	1	2
教科等	図 工				
内 容	〔表現〕 A (2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す。 ○世界の国旗を見て、オリジナルの旗を作る。		〔鑑賞〕 B (1) イ ○自分たちの作品を鑑賞して、感じたことを話す。	〔表現リズム遊び〕 F (1) ○参加国・地域の音楽に合わせて踊る① ㊸	〔表現リズム遊び〕 F (1) ○参加国・地域の音楽に合わせて踊る② ㊸
補助教材の活用					

	2	3	1	2	1
教科等	道 徳		生 活		
内 容	C 規則の尊重 ○フェアプレーについてふれる。	C 公正、公平、社会正義 ○パラリンピックの価値の一つである「平等」を取り上げる。	(9) 自分自身の成長を振り返る ○東京2020大会(6年生)までに行きたいこと。	(4) 公共物や公共施設の利用 ○町探検で様々なマークを見付ける。	【学級活動】(1) ア ○参加国・地域の挨拶 ㊸
補助教材の活用			㊶ P17～P18	㊶ P16	

	7	8	9	10	11
教科等	特 別 活 動				
内 容	【学級活動】(2) ア ○オリンピック・パラリンピック博士になろう	【学級活動】(2) ア ○オリンピック・パラリンピック博士になろう	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピックにちなんだ学年種目(色・輪など)	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式
補助教材の活用					

※ 学習読本㊵、映像教材㊶、東京ユースボランティア㊷、スマイルプロジェクト㊸、夢・未来プロジェクト㊹、世界ともだちプロジェクト㊺

文化

環境

3	4	1	2	3
数		音楽		
〔図形〕 C ○国旗の中から三角形・四角形を見付ける。	〔数量関係〕 (3) ○メダルを表やグラフに表す。	〔鑑賞〕 B (2) ○参加国・地域の音楽を聴く。 ㊦	〔表現〕 A (2) ○参加国・地域の楽器を体験する① ㊦	〔表現〕 A (2) ○参加国・地域の楽器を体験する② ㊦
㊦ P 8・P 11・P 17 ～P 18				

3	4	5	6	1
体育				道徳
〔体づくり運動〕 A (1) ア ○伝承遊び	〔器械・器具を使つての運動遊び〕 B (1) ○マットメダルを集めよう①	〔器械・器具を使つての運動遊び〕 B (1) ○マットメダルを集めよう②	〔ゲーム〕 E (1) ○ミニオリンピックをしよう。	B 友情、信頼 ○オリンピックの価値の一つである「友情」を取り上げる。

2	3	4	5	6
特別活動				
〔学級活動〕 (2) ア ○参加国・地域の国旗 ㊦	〔学級活動〕 (2) キ ○参加国・地域の食事 ㊦	〔学級活動〕 (2) ア ○オリンピック・パラリンピック博士になろう ㊦ P1～P7、裏表紙	〔学級活動〕 (2) ア ○オリンピック・パラリンピック博士になろう ㊦ P9～P13、裏表紙	〔学級活動〕 (2) ア ○オリンピック・パラリンピック博士になろう

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○校外学習（施設見学等）
特別活動 【児童会活動】	○地域清掃への参加 ㊦ ○地域の高齢者施設の訪問 ㊦

【小学校第3学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	1	1
教科等	国語			社会	算数
内容	〔読むこと〕C(2)ア 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○俳句の音読や暗唱	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。) ^①	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。) ^②	(1)ア 交通の様子、古くから残る建造物	〔量と測定〕B(1)ア 長さの単位について知ること。 ○距離を測る。
補助教材の活用					

	1	2	1	2	3
教科等	体育		道徳		
内容	〔走・跳の運動〕 C(1)ア ○オリンピックの価値である「友情」を意識してリレーを行う。	〔器械運動〕 C(1)ウ ○パラリンピックの価値である「勇気」を意識して幅跳びを行う。	B(9)友情、信頼	B(11)規則の尊重	A(5)希望と勇気、努力と強い意志
補助教材の活用					

	5	6	7	8	9
教科等	総合的な				
内容	国際理解・交流 ^⑤ ○興味をもった参加国についての調べ学習 ^①	国際理解・交流 ^⑥ ○興味をもった参加国についての調べ学習 ^②	国際理解・交流 ^⑦ ○興味をもった参加国についての調べ学習 ^③	国際理解・交流 ^⑧ ○発表	オリンピック調査隊 ○オリエンテーション
補助教材の活用					

	15	16	1	2	3
教科等	総合的な学習の時間		特別活動		
内容	オリンピック調査隊 ○発表 ^①	オリンピック調査隊 ○発表 ^②	【学級活動】(2) ○オリンピックとは何か。	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式
補助教材の活用			① P.5,7 「日本で行われたオリンピック」		

※ 小学校低学年用パンフレット^①、学習読本^②、映像教材^③、東京ユースボランティア^④、スマイルプロジェクト^⑤、世界ともだちプロジェクト^⑥

文化

環境

1	1	1	2	3
理科	音楽	図工		
〔生命・地球〕B(2) 身近な自然の観察	〔鑑賞〕B(2)ア 諸外国の民謡 ㊦	〔表現〕A(2)ウ 表したいことに合わせて、表し方を考えて表すこと ○友達と一緒にスポーツをしている様子を絵で表す。	〔鑑賞〕B(1) 自分たちの作品を鑑賞	

4	1	2	3	4
総合的な学習の時間				
C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	国際理解・交流① オリエンテーション ㊦	国際理解・交流② ○地域の外国人、留学生との交流① ㊦	国際理解・交流③ ○地域の外国人、留学生との交流② ㊦	国際理解・交流④ ○課題設定 ㊦

10	11	12	13	14
学習の時間				
オリンピック調査隊 ○課題設定① ㊦	オリンピック調査隊 ○課題設定②	オリンピック調査隊 ○課題設定③	オリンピック調査隊 ○課題設定④	オリンピック調査隊 ○課題設定⑤
	○一人一人の課題に応じて、パンフレット、DVDを活用する。			

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○社会科見学(地域めぐり)
特別活動 【児童会活動】	○地域清掃への参加 ㊦ ○地域の高齢者施設の訪問 ㊦

【小学校第4学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	1	1
教科等	国語			社会	算数
内容	〔読むこと〕C(1)ア 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○俳句の音読や暗唱	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)①	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)②	(6)エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わり ㊸	〔数と計算〕A(5)ア 小数の仕組みとその計算 ○マラソンの距離等を小数で表す。
補助教材の活用					

	1	2	3	1	2
教科等	体育			道徳	
内容	〔器械運動〕B(1)ア マット運動 ○役割を分担して発表会	〔器械運動〕B(1)イ 鉄棒運動 ○役割を分担して発表会	〔器械運動〕B(1)ウ 跳び箱運動 ○役割を分担して発表会	A 希望と勇気、努力と強い意志	B 親切、思いやり
補助教材の活用					

	5	6	7	8	9
教科等	総合的な				
内容	住みよい町づくり(障害者理解) ○課題解決② ㊸	住みよい町づくり(障害者理解) ○障害のある人、高齢者等を招いた発表会 ㊸㊹	パラリンピックについて調べよう。 ○障害者スポーツ体験 ㊸	パラリンピックについて調べよう。 ○課題設定 ㊸	パラリンピックについて調べよう。 ○課題解決① ㊸
補助教材の活用			読 P34,35 「障害者スポーツを体験しよう」	読 P32,33 「パラリンピック」 ㊸第2巻「パラリンピック」	○一人一人の課題に応じて、

	15	16	1	2	3
教科等	総合的な学習の時間		特別活動		
内容	高齢者介護施設の方々との交流④ 2回目の交流 ㊸㊹	高齢者介護施設の方々との交流⑤ 振り返り ㊸㊹	【学級活動】(2) ○オリンピックとは何か。	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式	【学校行事】(3) 運動会 ○オリンピック模擬開会式
補助教材の活用			読 P22,23 「オリンピックが目ざすもの」 ㊸第1巻「オリンピック」		

※ 学習読本^読、映像教材^㊸、東京ユースボランティア^㊹、スマイルプロジェクト^㊸、世界ともだちプロジェクト^㊸

文化

環境

1	1	1	2	3
理科	音楽	図工		
〔生命・宇宙〕B(1) 人の体の作りと運動	〔鑑賞〕B(2)ア 諸外国の民謡 ㊄	〔表現〕A(2) 伝えたいことなどを絵で表す。 ○スポーツをしている人①	〔鑑賞〕B(1) 自分たちの作品を鑑賞 ○スポーツをしている人②	
	㊄ P62,63 「世界の人々と交流しよう」	㊄ P14～17 「オリンピック競技」 ㊄ P18,19 「パラリンピック競技」		

3	1	2	3	4
総合的な学習の時間				
C 文化の尊重、国や郷土を愛する態度	住みよい町づくり(障害者理解) ○アイマスク体験等、体機能を制限する体験活動 ㊄	住みよい町づくり(障害者理解) ○障害のある人、高齢者等との交流① ㊄㊄	住みよい町づくり(障害者理解) ○課題設定 ㊄	住みよい町づくり(障害者理解) ○課題解決① ㊄
㊄ P53～59 第IV章「日本の伝統」				

10	11	12	13	14
学習の時間				
パラリンピックについて調べよう。 ○課題解決② ㊄	パラリンピックについて調べよう。 ○体験活動を取り入れた発表会 ㊄	高齢者介護施設の方々との交流① 1回目の交流 ㊄㊄	高齢者介護施設の方々との交流② 2回目の交流に向けた計画づくり ㊄㊄	高齢者介護施設の方々との交流③ 2回目の交流に向けた計画づくり ㊄㊄
学習読本、DVDを活用する。				

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○社会科見学(都内めぐり 競技場等)
特別活動 【児童会活動】	○地域清掃への参加 ㊄ ○地域の高齢者施設の訪問 ㊄

【小学校第5学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	4	5
教科等	国 語				
内 容	〔読むこと〕C(1)ア 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○親しみやすい古典の音読や暗唱	〔読むこと〕C(1)ア 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(イ) ○昔の人のものの見方や感じ方を知る。	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)①	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)②	新聞記事を読み比べよう①
補助教材の活用					

	1	1	2	3	1
教科等	音 楽	図 工			
内 容	〔鑑賞〕B(2)ア 我が国の音楽や諸外国の音楽 ㊟	〔表現〕A(2) 伝えたいことなどを立体で表す。 ○スポーツをしている人		〔鑑賞〕B(1) 前時に作った作品を鑑賞 ○スポーツをしている人③	〔日常の食事と調理の基礎〕B(3)エ 米飯及びみそ汁の調理
補助教材の活用	㊟P 62 「世界の人々と交流しよう」	㊟P14～17 「オリンピック競技」 読 P18,19 「パラリンピック競技」			㊟P58,59 「世界に広がる日本の文化」

	2	3	1	2	3
教科等	道 徳		外国語活動		
内 容	B 思いやり、感謝	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	1(2) 「My name is ○○」	2(1) 「Hello! 世界のいろいろな言葉であいさつしよう」	2(1) 「How many?いろいろなものを数えよう」
補助教材の活用	㊟P54,55 「日本人の心」	㊟P28,29 「嘉納治五郎」 ㊟P58,59 「世界に広がる日本の文化」			

	1	2	3	4	5
教科等	特 別 活 動				
内 容	【学級活動】(2) ○オリンピックとは何か。	【学級活動】(2) ○パラリンピックとは何か。	【学校行事】(3) 運動会係活動	【学校行事】(3) 運動会 オリンピック模擬閉会式	【児童会活動】(3) 運動会 オリンピック模擬閉会式
補助教材の活用	㊟P22,23 「オリンピックが目ざすもの」 ㊟第1巻「オリンピック」	㊟P32,33 「パラリンピック」 ㊟第2巻「パラリンピック」			

※ 学習読本㊟、映像教材㊟、東京ユースボランティア㊟、スマイルプロジェクト㊟、世界ともだちプロジェクト㊟

文化

環境

6	1	2	1	1
	社 会		算 数	理 科
新聞記事を読み比べよう②	(1) ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ	(3) ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き	〔数量関係〕 D (3) 百分率 ○オリンピックを題材に勝率やシュートの成功率	〔生命・宇宙〕 B (3) ア ○カヌースラロームを例に流れる水の速さの違いを考える。
	📖 P36,37 「オリンピックと環境」	📖 P56,57 「世界にほこる日本の技術」		

2	3	1	2	1
家 庭		体 育		道 徳
〔日常の食事と調理の基礎〕 B (3) エ 米飯及びみそ汁の調理 ○実習①	〔日常の食事と調理の基礎〕 B (3) エ 米飯及びみそ汁の調理 ○実習②	〔陸上運動〕 C (1) 短距離走 ○オリンピック記録を体験	〔水泳〕 D (1) 水泳 ○オリンピック記録を体験	A 希望と勇気、努力と強い意志

4	1	2	3	4
	総合的な学習の時間			
2(2) 「給食を楽しんでもらおう」	環境① ○オリエンテーション	環境② ○課題設定	環境③ ○課題解決①	環境④ ○課題解決②

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○社会科見学（世界に誇る日本の技術に関連した工場見学）
特別活動 【児童会活動】	○運動会における児童会企画（メダル授与等の表彰式の工夫） ○地域清掃への協力 ㊟ ○地域の高齢者施設等の訪問 ㊠

【小学校第6学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	1	2
教科等	国語			社	
内容	〔C読むこと〕(1)ア 〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア) ○古文や漢文 近代以降の文語調の文章を音読する。	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)①	〔書写に関する事項〕ウ ○毛筆(我が国の伝統文化を身に付け、外国人との交流に役立てる。)②	(1)ケ オリンピックの開催	(3)ア つながりの深い国
補助教材の活用				読 P44～47 「1964年東京オリンピック」 ④第5巻「1964東京オリンピック」	読 P 62,63 「世界の人々と交流しよう」

	2	1	2	3	4
教科等	音楽	図工			
内容	オリンピック・パラリンピックのマーチを作ろう②	浮世絵を作り上げよう①	浮世絵を作り上げよう②	浮世絵を作り上げよう③	浮世絵を作り上げよう④
補助教材の活用					

	1	2	3	1	2
教科等	道徳			外国語活動	
内容	A 希望と勇気、克己と強い意志	B 友情、信頼	C 国際理解、国際貢献 ○参加国・地域の様子	1(2) 「Turn right・道案内をしよう」	2(2) 「Let's go to Italy. 友達を旅行にさそおう」
補助教材の活用		読 P42 「西田修平と大江季雄 - 友情のメダル -」			

	2	3	4	5	6
教科等	特別活動				
内容	【学級活動】(2) ○オリンピックが目ざすもの②	【学級活動】(2) ○パラリンピックとは何か。	【学校行事】(3) 運動会係活動	【学校行事】(3) 運動会 オリンピック模擬閉会式	【児童会活動】(3) 運動会係活動 オリンピック模擬閉会式
補助教材の活用	読 P26,27 「クーベルタン」 ④第3巻「クーベルタン」	読 P32,33 「パラリンピック」 ④第2巻「パラリンピック」			

※ 学習読本^読、映像教材^④、東京ユースボランティア^①、スマイルプロジェクト^②、世界ともだちプロジェクト^③

文化

環境

3	4	1	1	1
会		算 数	理 科	音 楽
(3) イ 国際交流(スポーツ)	(3) イ 国際協力(環境)	〔量と測定〕B(4) 陸上選手の速さを求める。	〔生命・地球〕B(3) ア 生物と環境	オリンピック・パラリンピックのマーチを作ろう①
読 P22,23 「オリンピックが目ざすもの」 P65 「世界のマナー」	読 P36,37 「オリンピックと環境」	①第1巻「オリンピック」	読 P36,37 「オリンピックと環境」	

5	6	1	1	2
		家 庭	体 育	
浮世絵を作り上げよう⑤	浮世絵を作り上げよう⑥	〔日常の食事と調理の基礎〕B(3) ○和食(日本の伝統)	〔ボール運動〕E(1) ア ゴール型 ○役割を決めて大会運営	〔ボール運動〕E(1) イ ネット型 ○役割を決めて大会運営
		読 P58,59 「世界に広がる日本の文化」	読 P30,31	読 P30,31

1	2	3	4	1
総合的な学習の時間				特別活動
茶道体験をしよう①	茶道体験をしよう②	茶道体験をしよう③	茶道体験をしよう④	【学級活動】(2) ○オリンピックが目ざすもの ①
				読 P22,23 「オリンピックが目ざすもの」 ①第1巻「オリンピック」

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○社会科見学(1964東京オリンピックのレガシー)
特別活動 【児童会活動】	○運動会における児童会企画(メダル授与等の表彰式の工夫) ○地域清掃への協力 ① ○地域の高齢者施設等の訪問 ②

【中学校第1学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	1	2	1	1
教科等	国語	社会		数学	理
内容	〔B書くこと〕(1)ウ(言語活動例)ア ○根拠を明確にして彫刻の鑑賞文を書く。	〔歴史的分野〕(2)ア 世界の古代文明 ○ギリシャ・ローマ文明	〔地理的分野〕(1)エ 世界の様々な地域の調査 ㊟	D〔数学的活動〕(1)イ ○100m世界記録の時速を求める。	〔第1分野〕(1)ア(イ) 凸レンズの働き ○聖火の採火方法
補助教材の活用	㊟P21 「古代オリンピックで行われていた競技パンクラチオン」	㊟P24,25 「古代オリンピック」 ㊟第3巻「クーベルタン」	㊟P26,27 「近代オリンピックとクーベルタン」 ㊟P 86,87「近代オリンピックの開催地」	㊟第1巻「オリンピック」	㊟P32,33 「聖火と聖火リレー」

	2	3	4	1	2
教科等	保健体育			技術・家庭	
内容	〔体育理論〕H(1)ア 運動やスポーツの必要性と楽しさ	〔体育理論〕H(1)イ 運動やスポーツへの多様な関わり方	〔体育理論〕H(2)イ 文化としてのスポーツの意義	〔技術分野〕A(1)ア 産業の継承と発展に果たしている役割	〔家庭分野〕D(2)ア 環境に配慮した消費生活
補助教材の活用	㊟P78,79 「スポーツが果たす重要な役割」	㊟P78,79 「スポーツが果たす重要な役割」	㊟P31 「オリンピック・シンボルの歴史」	㊟P72,73 「世界に発信する日本の技術」	㊟P71 「風呂敷～包む、結ぶ」

	2	3	1	2	3
教科等	道徳				
内容	B 礼儀	B 友情・信頼	環境① オリエンテーション ○大会の歴史と環境について知る。	環境② 調べ学習 ○環境テクノロジー、先進的な取組等について調べる。	環境③ 調べ学習のまとめ (例)壁新聞の作成
補助教材の活用	㊟P70 「道～美と礼と形の重視」 「お辞儀 - 相手を敬う日本人の心の表れ」	㊟P55 豆知識「友情のメダル」	㊟P36,37 「オリンピックと環境」	㊟P39 豆知識「美しいオリンピック」	㊟P63 豆知識「環境との共存」

	9	10	11	12	1
教科等	総合的な学習の時間				特別活動
内容	ボランティア活動⑥ 障害者スポーツ大会のボランティア③ ㊟	ボランティア活動⑦ 障害者スポーツ大会のボランティア④ ㊟	ボランティア活動⑧ 障害者スポーツ大会のボランティア⑤ ㊟	ボランティア活動⑨ 障害者スポーツ大会のボランティア⑥ ㊟	【学校行事】(3) 運動会 オリンピック模擬開会式
補助教材の活用					㊟P32,33 「聖火と聖火リレー」

※ 学習読本㊟、映像教材㊟、東京ユースボランティア㊟、スマイルプロジェクト㊟、世界ともだちプロジェクト㊟

文化

環境

2	1	2	1	1
科	音楽		美術	保健体育
〔第1分野〕(1)イ(ア)力の働き ○様々な運動に見られる力の働きについて知る。	A 表現 (1)ア ○国歌「君が代」	B 鑑賞 (1)イ ○「オリンピック讃歌」をその背景となる歴史と関連付けて鑑賞する。	B 鑑賞 (1)ア ○大会ポスターを鑑賞し、造形的な良さや美しさなどを説明し合う。	〔体育分野〕F (1)ア 武道(柔道)
読 P14～19 「オリンピックの実施競技」 「パラリンピックの実施競技」	読 P88,89 「国旗・国歌」	読 P96,97 「オリンピック讃歌」 読 P57 「オリンピック讃歌～約70年ぶりの大合唱」	読 P94,95 「過去大会のポスター」	①第4巻「嘉納治五郎」

1	2	3	4	1
外国語(英語)				道徳
車いすバスケットボールを見学した主人公のレポートに関する内容理解 ⊗	車いすバスケットボールのルールや得点方法などに関する内容理解① ⊗	車いすバスケットボールのルールや得点方法などに関する内容理解② ⊗	車いすバスケットボールについて書かれた文の内容理解、内容に関するペアワーク ⊗	A 希望と勇氣、克己と強い意志
				読 P57 豆知識「東京五輪スモーク作戦」

4	5	6	7	8
総合的な学習の時間				
ボランティア活動① ガイダンス ⊙	ボランティア活動② パラリンピックを知る ⊙	ボランティア活動③ パラリンピックを知る ⊙	ボランティア活動④ 障害者スポーツ大会のボランティア① ⊙	ボランティア活動⑤ 障害者スポーツ大会のボランティア② ⊙

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○弁論大会 ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○特別活動【学校行事】(4) 都内遠足(オリンピック・パラリンピックと係る日本の技術、日本の伝統・文化、オリンピック・レガシーを探そう)〈班行動〉
特別活動 【生徒会活動】	○運動会における生徒会企画(メダル授与等の表彰式の工夫等) ○地域の環境美化キャンペーンの運営補助 ⊙ ○地域の障害者スポーツ大会等におけるボランティア活動 ⊗⊙

【中学校第2学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	1	2	3	4
教科等	国語		社会		
内容	〔C読むこと〕(1)エ〔事項〕ア(イ) ○『平家物語』の「扇の的」を読み、武士のものの見方について考えを持つ。	〔歴史的分野〕(5)カ 昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き ○日中戦争の長期化	〔歴史的分野〕(6)ア 国際社会への復帰 ○国際協調と国際平和の実現	〔歴史的分野〕(6)イ 高度経済成長 ○戦後日本の復興と高度経済成長	〔歴史的分野〕(6)ア 現代の日本と世界 ○戦後日本の復興と高度経済成長
補助教材の活用	読P 34, 35 「フェアプレーとは何か」 ㊦第3巻「クーベルタン」	読P29「アジア初のIOC委員・日本へのオリンピック招致」 読P 52～55「1940年幻の東京大会」	読P32,33「聖火と聖火リレー」 読P46「1964東京オリンピック聖火リレー」	読P 56～59「1964東京オリンピックの開催」 ㊦第5巻「1964東京オリンピック」	読P38～41「オリンピック・レガシー」 ㊦第5巻「1964東京オリンピック」

	1	2	1	2	3
教科等	美術		保健体育		
内容	B 鑑賞 (1)ア ○目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、見方を深める。	A 表現 (2)イ ○伝えたい情報を分かりやすくデザインする。	〔体育分野〕C陸上競技 ○陸上競技で、アスリートの記録に挑戦する。	〔体育理論〕H(1)イ 運動やスポーツへの多様な関わり方	〔体育理論〕H(2)ア 運動やスポーツが心身に及ぼす効果
補助教材の活用	読P66「ピクトグラム」	読P66「ピクトグラム」	㊦第1巻「オリンピック」	読P42,43「パラリンピックが目指すもの」	読P78,79「スポーツが果たす重要な役割」

	5	1	1	2	1
教科等	技術・家庭	外国語(英語)	道徳		
内容	〔家庭分野〕C(1)ア 衣生活・住生活 ○和服文化と世界の民族衣装について知ろう③。	言語活動イ話すこと(オ) ○自分が「クールジャパン」と考えるものについて、簡単なスピーチをする。	B 思いやり、感謝	D よりよく生きる喜び	生き方① オリエンテーション 調べ学習
補助教材の活用	読P84,85「参加国や地域について調べよう」	読P74,75「世界が注目するクールジャパン」	読P82,83「震災復興に向けた取組」	読P48～51「過去のオリンピック大会における日本人選手の活躍」	読P48～51「過去のオリンピック大会における日本人選手の活躍」 読P59「記憶に残る海外の選手」

	7	8	9	1	2
教科等	総合的な学習の時間			特別活動	
内容	ボランティア④ ○福祉体験学習 ㊦	ボランティア⑤ ○福祉体験学習 ㊦	ボランティア⑥ ○福祉体験学習 ㊦	【学校行事】(3) 運動会 オリンピック模擬開会式	【学校行事】(5) 地域清掃(環境) ㊦
補助教材の活用		読P 44,45「障害者スポーツを体験しよう」	読P 44,45「障害者スポーツを体験しよう」	読P32,33「聖火と聖火リレー」	

※ 学習読本(読)、映像教材(㊦)、東京ユースボランティア(㊦)、スマイルプロジェクト(㊦)、世界ともだちプロジェクト(㊦)

文化

環境

1	2	1	1	2
数 学		理 科	音 楽	
C 関数(1) オ 一次関数 ○オリンピックの優勝記録の 予想	B 図形(1) ア 基本的な平面図形と平行 線の性質 ○国旗の中の図形	〔第1分野〕(3) イ(イ) 刺激と反応 ○陸上競技で用いられている 義足	A 表現 (1) ア ○我が国の自然や四季を感じ 取れる歌の表現を工夫して 歌う。	B 鑑賞 (1) ウ ○我が国や諸外国の様々な音 楽を鑑賞する。
㊦第1巻「オリンピック」	㊦P61 「国旗掲揚に秘められた 工夫」	㊦第2巻「パラリンピック」	㊦P84,85 「参加国や地域について調 べよう」	㊦P84,85 「参加国や地域について調 べよう」

4	1	2	3	4
技 術 ・ 家 庭				
〔体育理論〕H(2) イ 運動やスポーツが社会性 の発達に及ぼす効果	〔技術分野〕B(1) ウ エネルギー変換に関する 技術の適切な評価・活用	〔家庭分野〕B(3) イ 地域の食文化 ○日本の食文化や、日本各地 の郷土料理について学ぶ。	〔家庭分野〕C(1) ア 衣生活・住生活 ○和服文化と世界の民族衣装 について知ろう①。㊦	〔家庭分野〕C(1) ア 衣生活・住生活 ○和服文化と世界の民族衣装 について知ろう②。㊦
㊦P34,35 「フェアプレーとは何か」	㊦P36,37 「オリンピックと環境」	㊦P75 「東京から発信するクール ジャパン」	㊦P74,75 「世界が注目するクールジ ャパン」	㊦P84,85 「参加国や地域について調 べよう」

2	3	4	5	6
総 合 的 な 学 習 の 時 間				
生き方② 調べ学習 ○興味をもった選手や大会 を支えた人々について調べ る。	生き方③ まとめ ○調べた内容をカードにまと め、紹介する。	ボランティア① ○福祉体験学習 ㊦	ボランティア② ○福祉体験学習 ㊦	ボランティア③ ○福祉体験学習 ㊦
㊦P 60,61「オリンピッ クを支えた人々」 ㊦P57 豆知識「東京五 輪スモーク作戦」		㊦P 42,43 「パラリンピックが目指すも の」 ㊦第2巻「パラリンピック」	㊦P 42,43 「パラリンピックが目指すも の」 ㊦第2巻「パラリンピック」	

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○弁論大会 ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○特別活動【学校行事】(4) 遠足・移動教室(海外からの観光客に「おもてなし」をしよう) <班行動>
特別活動 【生徒会活動】	○運動会における生徒会企画(1964年東京大会を模した入場行進) ○地域の「花いっぱい運動」への参加 ㊦ ○地域の防災訓練におけるボランティア活動 ㊦

【中学校第3学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	2	3	4	1
教科等	国 語				社
内 容	〔C読むこと〕(1)ア ○俳句の特徴を学び、表現上の工夫に注意して読む。	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)ア ○松尾芭蕉の俳句を毛筆で短冊に書く。	〔A話すこと・聞くこと〕(1)ア 15歳の主張～伝え合おう、私たちの思い～	〔A話すこと・聞くこと〕(1)ア 15歳の主張～伝え合おう、私たちの思い～	〔公民的分野〕(4)ア 世界平和の実現 ㊦
補助教材の活用	㊦ P71 「世界で最も短い文学 Haiku」	㊦ P71 「世界で最も短い文学 Haiku」	㊦ 第11章「オリンピズム」	㊦ 第11章「オリンピズム」	㊦ P30 「平和の祭典オリンピック」 ㊦ 第3巻「クーベルタン」

	1	1	2	1	2
教科等	音 楽	美 術		保 健 体 育	
内 容	B鑑賞(1)イ ○他国の音楽の特徴をその国の文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する。 ㊦	B 鑑賞(1)ア ○過去大会のトーチを比較し、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取る。 ㊦	B 鑑賞(1)ウ ○日本の浮世絵が西洋の美術に与えた影響について理解する。 ㊦	〔体育理論〕H(1)ア 現代生活におけるスポーツの文化的意義	〔体育理論〕H(1)イ 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割
補助教材の活用	㊦ P84,85 「参加国や地域について調べよう」	P98,99 「過去のオリンピック・パラリンピック競技大会で使用されたトーチ」	㊦ P74 「ジャポニズムからクールジャパンへ」	㊦ P78,79 「スポーツが果たす重要な役割」	㊦ P8 「オリンピック憲章」 ㊦ P22,23 「オリンピックが目指すもの」

	2	3	1	2	3
教科等	道 徳				
内 容	C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	C 国際理解、国際貢献	日本の伝統・文化① オリエンテーション ○伝統・文化について調べ、体験することを知る。	日本の伝統・文化② 体験学習 ○茶道体験①	日本の伝統・文化③ 体験学習 ○茶道体験②
補助教材の活用	㊦ P70,P71 「世界に誇る和の心」	㊦ P28,29 「嘉納治五郎とオリンピック」 ㊦ 第4巻「嘉納治五郎」	㊦ P68～71 「和の心」	㊦ P70 「道～美と礼と形の重視」	

	9	1	2	3	4
教科等	総合的な学習の時間	特 別 活 動			
内 容	国際理解② 留学生等との交流 ○外国人と互いの伝統・文化を紹介し合う ㊦	【学校行事】(3) 運動会 運動会のコンセプトを考えよう。	【学校行事】(3) 運動会 運動会のマスコットを決めよう。	【学級活動】(2)カ ボランティア活動の意義の理解と参加 ㊦	【学校行事】(5) 地域清掃 ㊦
補助教材の活用		㊦ P11 「東京2020大会の基本コンセプト」	㊦ P76 「過去大会マスコット」		

※ 学習読本㊦、映像教材㊦、東京ユースボランティア㊦、スマイルプロジェクト㊦、世界ともだちプロジェクト㊦

文化

環境

2	1	1	2	3
会	数学	理科		
〔公民的分野〕(4) ア 国家間の相互の主権の 尊重と協力 ㊦	D資料の活用(1) ア ○テレビの視聴率はどのよう に調べているかを知る。	〔第1分野〕(6) ア(ウ) 化学変化と電池 ○燃料電池自動車の仕組みにつ いて理解する。	〔第1分野〕(7) ウ(ア) 自然環境の保全と科学技 術の利用	〔第1分野〕(7) イ(ア) 科学技術の発展
読 P88,89 「世界の中の日本人として 国際マナーを知ろう」	読 P39「1964 東京大 会会の無形のレガシー」 読 P63「オリンピック史 上初となった全大会カラ ー放送」	読 P37 「東京 2020 大会の環境 対策」	読 P36,37 「オリンピックと環境」	読 P72,73 「世界に発信する日本の技 術」 読 P74,75「江戸の夏を クールに〜花火大会」

3	1	2	1	1
	技術・家庭		外国語(英語)	道徳
〔体育理論〕H(1) ウ 人々を結び付けるスポー ツの文化的な働き	〔技術分野〕C(1) ア 生物の育成条件とと育成 環境の管理	〔家庭分野〕B(3) ウ 環境に配慮した食生活の 工夫	言語活動 ウ読むこと(1) ○書かれた内容を考えながら 音読する。	C 我が国の伝統と文化 の尊重、国を愛する態度
読 P10,11 「Discover Tomorrow」 読 P80,81 「スポーツと人権」	読 P72,73 「世界に発信する日本の技 術」	読 P36 「長野大会の環境対策」	読 P20 「東京 2020 大会招致最 終プレゼンテーション佐 藤真海選手」	読 P70,P71 「世界に誇る和の心」

4	5	6	7	8
総合的な学習の時間				
日本の伝統・文化④ 調べ学習 ○興味を持った日本の伝統・ 文化について調べる。	日本の伝統・文化⑤ 調べ学習 ○興味を持った日本の伝統・ 文化について調べる。	日本の伝統・文化⑥ 調べ学習のまとめ ○留学生等との交流会に向 けた準備を行う。	日本の伝統・文化⑦ 調べ学習のまとめ ○留学生等との交流会に向 けた準備を行う。	国際理解① 留学生等との交流 ○外国人と互いの伝統・文化 を紹介し合う ㊦

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○弁論大会 ○オリンピック・パラリンピックを題材にした道徳授業地区公開講座 ○土曜授業等の学校公開日を活用したオリンピック・パラリンピック発表会
学年	○学年便り ○学級便り ○特別活動【学校行事】(4) 修学旅行(日本の伝統・文化を発見しよう) <班行動>
特別活動 【生徒会活動】	○運動会における生徒会企画(運動会コンセプトとマスコットの公募) ○地域行事の運営補助と生徒への参加の呼び掛け ㊦ ○地域の障害者施設や高齢者施設等におけるボランティア運動 ㊦㊧

【高等学校第1学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	1	2	3	4
教科等	国語	地理歴史			
科目	国語総合	日本史A		地理A	
内容	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア) 伝統的な言語文化への興味・関心を広げる	(2)イ(イ) 二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての考察	(3)イ 経済の発展と国民生活の変化	(1)イ 世界の生活・文化の多様性 世	(1)ウ 地球的課題の地理的考察
補助教材の活用	読 P90～93 「和の心」	読 P65～85 第三章「オリンピック・パラリンピックと日本」 ①第5巻「1964年東京オリンピック」	読 P65～85 第三章「オリンピック・パラリンピックと日本」 ①第5巻「1964年東京オリンピック」	読 P11 「近代オリンピックの開催地」	読 P9～27「第I章」 P99～115「第V章」

	3	4	5	6	7
教科等	保健体育				
科目	体育				保健
内容	〔体育理論〕H(1)イ スポーツの技術や戦術	〔体育理論〕H(1)ウ オリンピックムーブメント	〔体育理論〕H(1)ウ オリンピックムーブメント	〔体育理論〕H(1)エ スポーツの経済的な波及効果	(2)イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関
補助教材の活用	読 P58,59 「大会を支える技術」 読 P94,95 「世界に誇る、日本の技術」	読 P29～63 第二章「オリビズム」	読 P106,107 「共生社会と世界平和」	読 P36,37 「近代オリンピック」	読 P48,49 「アンチ・ドーピング」

	2	3	4	5	6
教科等	総合的な学習の時間				
科目					
内容	環境② オリンピックと環境問題・対策	環境③ オリンピックと環境問題・対策	環境④ オリンピックと環境問題・対策	国際理解① 参加国・地域を調べよう 世	国際理解② 参加国・地域を調べよう 世
補助教材の活用	読 P52,53 「オリンピックと環境」 読 P85 「1998年冬季大会・長野」	読 P52,53 「オリンピックと環境」 読 P85 「1998年冬季大会・長野」	読 P52,53 「オリンピックと環境」 読 P85 「1998年冬季大会・長野」		

	4	5	6	7	8
教科等	特別活動				
科目	ホームルーム活動	生徒会活動		学校行事	
内容	(3)カ 学業と進路②	学校行事への協力① 文化祭におけるオリンピックについての展示	学校行事への協力② 文化祭におけるオリンピックについての展示	体育的行事① オリンピック模擬開会式・模擬聖火	体育的行事② オリンピック模擬閉会式
補助教材の活用	読 P66～69 「日本人選手の活躍」 読 P114,115 「未来へ」	読 P38,39 「近代オリンピックの父」 ①第1巻「オリンピック」	読 P65～85 第三章「オリンピック・パラリンピックと日本」	読 P44,45 「聖火と聖火リレー」 読 P64 「1964年東京オリンピック聖火リレー」	読 P42,43 「オリンピックと世界平和」

※ 学習読本(読)、映像教材(①)、東京ユースボランティア(②)、スマイルプロジェクト(③)、夢・未来プロジェクト(夢)、世界ともだちプロジェクト(世)

文化

環境

1	1	1	1	2
公民	数学	理科	保健体育	
現代社会	数学 I	科学と人間生活	体育	
(3) ともに生きる社会を目指して	(4)〔課題学習〕 黄金比	(1) 科学技術の発展	〔体育〕 F (2) 武道(柔道)	〔体育理論〕 H (1) ア スポーツの変容
① P106,107 「共生社会と世界平和」 ② P104,105 「スポーツと人権」	① P34,35 「古代オリンピック」	① P94,95 「世界に誇る、日本の技術」	① P40,41 「日本オリンピックの父」 ② 第4巻「嘉納治五郎」	① P36,37 「近代オリンピック」 ② 第1巻「オリンピック」

1	1	1	1	1
芸術	外国語(英語)	家庭	情報	総合的な学習の時間
音楽 I	コミュニケーション 英語 I	家庭基礎	社会と情報	
B鑑賞ウ 楽曲の文化的・歴史的 背景等による表現の特徴を 理解して鑑賞	(1) イ 説明などを読んで、情報 を理解し、要点を捉える。	(2) オ ライフスタイルと環境	(1) ウ 情報の表現と伝達	環境① オリンピックと環境問題・ 対策
① P78,120,121 「オリンピック讃歌」	① P8,P28 「オリンピック憲章」	① P54,56 「オリンピックと環境」	① P113 学習の扉	① P52,53 「オリンピックと環境」 ② P85 「1998年冬季大会・長野」

1	2	1	2	3
人間と社会		特別活動		
ホームルーム活動				
ボランティア活動などの 社会参画①	ボランティア活動などの 社会参画②	(2) キ 国際理解と国際交流①	(2) キ 国際理解と国際交流②	(3) カ 学業と進路①
①	①	②	②	③
① P106,107 「共生社会と世界平和」 ② P110,111 「ボランティアと社会貢 献」	① P106,107 「共生社会と世界平和」 ② P110,111 「ボランティアと社会貢 献」	① P11 「近代オリンピックの開催 地」	① P30,31 「オリンピック憲章」 ② P108 「国際儀礼(プロトコール)」	① P66～69 「日本人選手の活躍」 ② P114,115 「未来へ」

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○全体保護者会を活用した映像教材の上映会
学年	○学年集会講話 ○学年便り
特別活動 【生徒会活動】	○体育的行事における企画(開閉会式の工夫、実施競技) ○文化的行事における企画(オリンピック・パラリンピックについての展示) ○奉仕的行事における企画(地域のボランティア活動)

【高等学校第2学年 年間35時間の指導計画例】

オリ・パラ精神

スポーツ

	1	1	2	3	4
教科等	国語	地理歴史			
科目	古典A	世界史A		日本史A	
内容	(1)ア 古典などに表れた思想や感情の読取	(2)ア ユーラシアの諸文明	(3)ア 急変する人類社会	(3)イ 経済の発展と国民生活の変化	(3)イ 経済の発展と国民生活の変化
補助教材の活用	㊦ P90～93 「和の心」	㊦ P34,35 「古代オリンピック」 ㊦第3巻「クーベルタン」	㊦ P36,37 「近代オリンピック」 ㊦第3巻「クーベルタン」	㊦ P72～79 「悲願の東京大会、実現へ」 ㊦第5巻「1964年東京オリンピック」	㊦ P54,55 「オリンピック・レガシー」 ㊦第5巻「1964年東京オリンピック」

	3	4	5	6	7
教科等	保健体育				
科目	体育				
内容	〔体育理論〕H(2)イ 運動やスポーツの技能の上達過程	〔体育理論〕H(2)ウ 運動やスポーツの技能と体力	〔体育理論〕H(1)エ 運動やスポーツを行う際の危険回避	〔体育理論〕H(1)イ 運動・スポーツの文化的特徴①	〔体育理論〕H(1)イ 運動・スポーツの文化的特徴②
補助教材の活用	㊦ P46,47 「フェアプレー」	㊦ P9～27 第I章「第32回オリンピック競技大会・東京2020パラリンピック競技大会」	㊦ P65～85 第III章「オリンピック・パラリンピックと日本」	㊦ P30～33 ㊦第1巻「オリンピック」	㊦ P62,63 ㊦第2巻「パラリンピック」

	1	1	1	2	3
教科等	外国語(英語)	家庭	総合的な学習の時間		
科目	コミュニケーション英語Ⅱ	家庭総合			
内容	(1)イ 説明などについて、精読したりする。	(4)ア 食生活の科学と文化 (4)イ 衣生活の科学と文化	環境① オリンピック競技大会開催における持続可能な開発	環境② オリンピック競技大会開催における持続可能な開発	環境③ オリンピック競技大会開催における持続可能な開発
補助教材の活用	㊦ P8,P28 「オリンピック憲章」	㊦ P90～93 「和の心」 ㊦ P96～97 「世界に広がる日本の文化」	㊦ P52,53 「オリンピックと環境」 ㊦ P85 「1998年冬季大会・長野」	㊦ P52,53 「オリンピックと環境」 ㊦ P85 「1998年冬季大会・長野」	㊦ P52,53 「オリンピックと環境」 ㊦ P85 「1998年冬季大会・長野」

	6	7	8	9	10
教科等	特別活動				
科目	生徒会活動			学校行事	
内容	ボランティア活動などの社会参画② ㊦	学校行事への協力① 文化祭におけるパラリンピックについての展示	学校行事への協力② 文化祭におけるパラリンピックについての展示	体育的行事① オリンピック模擬開会式・模擬聖火	体育的行事② オリンピック模擬閉会式
補助教材の活用	㊦ P106,107 「共生社会と世界平和」 ㊦ P110,111 「ボランティアと社会貢献」	㊦ P60,61 「パラリンピックの歴史」 ㊦第2巻「パラリンピック」	㊦ P65～85 第III章「オリンピック・パラリンピックと日本」	㊦ P44,45 「聖火と聖火リレー」 ㊦ P64 「1964年東京オリンピック聖火リレー」	㊦ P42,43 「オリンピックと世界平和」

※ 学習読本㊦、映像教材㊦、東京ユースボランティア㊦、スマイルプロジェクト㊦、夢・未来プロジェクト㊦、世界ともだちプロジェクト㊦

文化

環境

1	1	1	1	2
公民	数学	理科	保健体育	
倫理	数学Ⅱ	物理基礎	体育	
(2) ア、イ 人間としての自覚、 国際社会に生きる日本人 としての自覚	(5) 微分・積分の考え方	(2) カ 様々な物理現象	〔体育〕 F (2) 武道（剣道または柔道）	〔体育理論〕 H (2) ア 運動やスポーツの技能
① P66～69 「日本人選手の活躍」 ② P104,105 「スポーツと人権」			① P40,41 「日本オリンピックの父」 ② 第4巻「嘉納治五郎」	① P36,37 「近代オリンピック」 ② 第1巻「オリンピック」 第2巻「パラリンピック」

8	1	2	3	4
	芸術			
保健	美術Ⅱ			
(3) ア 環境と健康	B鑑賞ウ アスリートの美を表現し よう①	B鑑賞ウ アスリートの美を表現し よう②	A表現(2)ウ アスリートの美を表現し よう③	A表現(2)ウ アスリートの美を表現し よう④
① P52,53 「オリンピックと環境」 ② P85 「長野大会での自然環境保 護」	① P118,119 「過去大会ポスター」 ② 第1巻「オリンピック」	① P118,119 「過去大会ポスター」 ② 第2巻「パラリンピック」		

1	2	3	4	5
特別活動				
ホームルーム活動			生徒会活動	
(2) キ 国際理解と国際交流① ③	(2) キ 国際理解と国際交流② ③	(3) カ 学業と進路① ④	(3) カ 学業と進路② ④	ボランティア活動などの 社会参画① ④
① P11 「近代オリンピックの開催 地」	① P108,109 「国際儀礼(プロトコール)」	① P66～69 「日本人選手の活躍」 ② P114,115 「未来へ」	① P66～69 「日本人選手の活躍」 ② P114,115 「未来へ」	① P106,107 「共生社会と世界平和」 ② P110,111 「ボランティアと社会貢献」

各学校の特色等に応じた活動	
学校全体	○校長講話 ○学校便り ○ホームページ ○全体保護者会を活用した映像教材の上映会
学年	○学年集会講話 ○学年便り
特別活動 【生徒会活動】	○体育的行事における企画（開閉会式の工夫、実施競技） ○文化的行事における企画（オリンピック・パラリンピックについての展示） ○奉仕的行事における企画（地域のボランティア活動）

※ 高等学校第3学年については、各学校の実態に応じた指導計画を作成する。

4 実践事例

(1) オリンピック・パラリンピック精神を学ぶ

① 小学校第1学年 特別活動（学級活動） 「オリンピックについて知ろう！」

I 単元目標

オリンピック・パラリンピックに対する理解を通して、日本だけでなく外国の人や生活にも関心をもち、他の人と仲良く助け合おうとする態度を育てる。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

(1) 映像・写真を活用する。

児童のオリンピック・パラリンピックに対する理解を深めるために、クイズの内容に合わせてオリンピックのマークや競技等の映像、写真を用意する。ICTを活用し、関心や興味を高めていく。

(2) 歴史や意義、理念、参加国、競技種目などを発達段階に合わせて具体的に取り上げる。

歴史や意義等、1年生にとっては難しい表現が多いため、普段、児童が身近に使っている言葉を用いて伝えるよう努める。参加国の紹介では、世界地図と身近な国の国旗を提示し、いろいろな国があることやたくさんの方が暮らしていることも伝えていく。

III 指導と評価の計画（1時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	○ オリンピック・パラリンピックに関する映像や写真を見ながら、クイズに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オリンピック・パラリンピックに関心をもち、意欲的にクイズに取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ■ 友達と仲良く助けあって生活するために話し合い、よりよく解決していく方法を考え、実践している。（事後） 【思考・判断】 ■ 楽しい学校生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活の仕方などについて理解している。（事後） 【知識・理解】

IV 本時の指導（第1時／1時間）

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		観る

(1) ねらい

オリンピック・パラリンピックに関心を持ち、意欲的にクイズに取り組もうとする。

(2) 指導の実際

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① オリンピックシンボルを提示する。 ・ このマークは何を表したマークかな？ 【クイズ1】	◎ オリンピックシンボルを示し、5つの輪と6つの色があることを伝える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">オリンピック・パラリンピックを知ろう！</div>	・ オリンピックの意義（国際親善）については児童に分かり易い言葉に変えて伝える。「みんななかよくなるう。」
展開	② オリンピックの歴史や意義について知る。 ・ オリンピックが始まったのは今から何年前でしょう。【クイズ2】 ・ オリンピックの大会中に灯し続けられている火は何と言うでしょう。【クイズ3】 ・ オリンピックは何年に一度開かれるでしょう。【クイズ4】	◎ 映像教材3巻アテネオリンピックの様子を見せ、オリンピックは昔から行われていることに気付かせる。 ◎ 開会式の点火の映像を見せて説明する。 ◎ 陸上競技以外に行われている現在の競技（28競技）を紹介する。
	③ オリンピックで行われてきた競技について知る。 ・ 昔のオリンピックで初めて行われたスポーツは何でしょう。【クイズ5】	◎ 2016年はリオデジャネイロで開催されること、その次は東京で行われることを伝え、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。
	④ 日本で行われたオリンピックについて知る。 ・ 冬のオリンピックは日本で何回開催されたでしょう。【クイズ6】 ⑤ パラリンピックについて知る。 ・ 「パラリンピック」とはどういう意味でしょう。【クイズ7】	◎ 前回の東京オリンピックの映像を見せ、日本でも行われてきたことを伝える。 ◎ 「もう一つの（パラレル）オリンピック」という意味であることを説明する。 ■ オリンピック・パラリンピックに関心を持ち、意欲的にクイズに取り組もうとしている。 (観察)
まとめ	⑥ ロンドン2012大会に出場した日本人選手の活躍について知る。 ・ アテネオリンピックの映像を視聴する。 ⑦ オリンピック・パラリンピックについて感じたことをまとめ、発表する。	

V 本事例を実施するに当たって

低学年でも意欲的に取り組むことができるように、クイズ形式を取り入れた学習活動を展開し、オリンピック・パラリンピックに関する写真・映像を豊富に活用した実践である。

国際親善に重点を置く場合には、参加国・地域の国旗や外国の遊びを取り上げるなど外国の人々の生活に触れることにより、「世界ともだちプロジェクト」に位置付けることも可能である。

② 小学校第2学年 特別活動（学級活動）「オリンピック・パラリンピック博士になろう」

I 単元の目標

オリンピック・パラリンピッククイズを作ったり、答えたりして、楽しむ活動を通して、仲良く助け合い、学級生活を楽しいものにしようとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) オリンピックシンボルや国旗、肖像画等を活用して、学校で独自に作成したオリンピック・パラリンピックノートを楽しくまとめ、大会や種目等への関心を高めるようにする。
- (2) 低学年向けパンフレットを活用し、視覚的に競技のイメージをもてるようにする。
- (3) 発表相手を明確に示し、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。

III 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピッククイズを楽しみながら、オリンピックについて知る。 ○ オリンピックシンボルの形や色、並び方などを知る。 ○ 平成 28（2016）年オリンピック・パラリンピック開催地がブラジルのリオであることや、平成 32（2020）年に東京で大会が開催されることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オリンピックに関する学習に意欲的に取り組もうとしている。【関心・意欲】 ■ オリンピックについて知ったことを、工夫してワークシートにまとめている。【思考】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピッククイズを楽しみながら、パラリンピックについて知る。 ○ 「スリー・アギトス」を知る。 ○ 映像教材を見て、競技について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パラリンピックに関する学習に意欲的に取り組もうとする。【関心・意欲】 ■ パラリンピックについて知ったことを、工夫してワークシートにまとめる。【思考・判断】
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域の方を招いて、オリンピック・パラリンピッククイズ大会を開くための伝え方やまとめ方等を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者や地域の方を対象にしたクイズ大会をどのように開催するかを話し合っている。【思考・判断】
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピッククイズを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習したことや調べたことをクイズ形式にまとめる。【知識・理解】
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピッククイズ大会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者や地域の方と一緒にクイズ大会を楽しんでいる。【実践】

Ⅳ 本時の指導（第1時／5時間）

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		学ぶ(知る)

(1) ねらい

オリンピッククイズを楽しみながら、オリンピックについて知る。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 黒板に円を一つずつ描いて、何を描いているかを児童に質問する。 ② 本時のめあてを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">オリンピック博士になろう!!!</div>	◎ クイズに答えながら、工夫してまとめる学習であることを伝える。 ◎ 重ねた五つの円は、オリンピックのマークであることを確認する。
展開	③ オリンピッククイズをする。 (1) 自分が考えた五色の組合せを発表する。 (2) 正しい五色の組合せを知り、並び方を考える。 ④ オリンピック・パラリンピックノートに平成 28（2016）年の夏の大会の開催都市と国旗をかく。 ⑤ オリンピック・パラリンピックノートに平成 32（2020）年の開催都市と国旗をかく。 ⑥ 肖像画を見て、近代オリンピックを考えた人についてのクイズをする。 ⑦ 正解を確認し、ピエール・ド・クーベルタンという名前を知る。 ⑧ クーベルタンの肖像画をワークシートに貼り、名前やフランスの国旗などをかく。	◎ 自分が正しいと思うオリンピックシンボルと、正しいオリンピックシンボルをかけるワークシートを用意する。 ◎ 2016年の夏の大会がブラジルのリオデジャネイロであることを確認する。 ◎ 2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることを確認する。 ◎ ベートーベン、アインシュタインなど児童が見たことのある肖像画をクーベルタンと並べ、クーベルタンを知らなくても正解できるように配慮する。 ◎ 三つの国の国旗から、シンボルマークの五色と白色を組み合わせると世界の国旗のほとんどが書けることを知る。 ■ オリンピッククイズを楽しみながら、オリンピックについて知っている。（観察・ワークシート）
まとめ	⑨ 次回はパラリンピックについて学習することを知らせる。	

Ⅴ 本事例を実施するに当たって

オリンピック・パラリンピック学習パンフレット、学習読本（小学校編）、映像教材を活用し、児童に考える機会を与えながら、教師が基礎的な知識について分かり易く説明した事例である。本事例では、学校独自のオリンピック・パラリンピックノートを使用しているが、都が配布するオリンピック・パラリンピック学習ノートを使用してもよい。第3時では、学習したことを基に、保護者や地域の方と共に学習する機会を設けている。このような保護者・地域の参加を促す取組や家庭と連携した取組も積極的に取り入れたい。

③ 小学校第3学年 総合的な学習の時間 「オリンピック調査隊」

I 単元目標

- (1) オリンピック・パラリンピック学習読本や図書資料を活用してオリンピックについて調べることを通して、オリンピックについての興味・関心が高まるようにする。
- (2) オリンピックについて、自己の課題を設定し、調べることができるようにする。
- (3) オリンピックについて、学習したことを整理してグループでまとめ、発表することができるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) アスリートとの交流経験
前学年でのアスリートとの交流経験を課題設定に生かす。
- (2) 図書資料の活用
図書室のオリンピック・パラリンピックコーナーにある、オリンピック関連図書資料を活用する。
- (3) 体育との関連付け
走る、投げる、跳ぶ、回転するなど体育の活動と、オリンピック競技との関連を意識するように声掛けをすることで、オリンピックへの興味・関心を高める。

III 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
第1次 1～2	○ 学級全体でオリンピックから連想する言葉をつないでイメージマップを作り、それをもとに自分の課題を設定する。	■ オリンピックについて、自分の興味・関心にあった課題を設定している。 【関心・意欲・態度】
第2次 3～5	○ 自分の課題について、オリンピック・パラリンピック学習読本やオリンピック・パラリンピックコーナーの図書資料を活用したり、家族に質問したりするなどして調べる。	■ 図書資料を活用するなどして、自分の課題を自分なりに解決しようとしている。 【思考・判断】
第3次 6～8 (本時)	○ テーマごとにグループを作り、各自が調べたことを生かして、発表の中心とする内容を決めて発表の準備をする。 ○ グループごとに、テーマについてまとめたことを発表する。 ○ 他のグループの発表を聞き、オリンピックについて広く知る。	■ グループで話し合い、調べたことをまとめている。【思考・判断】 ■ 自分たちが調べたことを分かりやすく発表している。【関心・意欲・態度】 ■ 他のグループの発表を聞き、オリンピックについての基礎的知識を身に付けている。【知識・理解】

IV 本時の指導（第7時／8時間）

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		学ぶ(知る)

(1) ねらい

オリンピックについて各自が調べたことを持ち寄り、グループで話し合いながら一番伝えたいことや発表方法を決めることができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> グループで話し合い、オリンピックについて一番伝えたいことを決めよう。 </div>	
展 開	② テーマごとにグループに分かれる。 （例）選手について、競技について セレモニー、歴史についてなど ③ 発表の中心となる内容を話し合っ決めて。 【話し合いの手順】 (1) 自分の調べた内容を伝える。 (2) グループで発表の中心を何にするか話し合 い、決定する。 ④ 発表方法について話し合い、決める。 （例）模造紙、クイズ形式、紙芝居、劇など	◎ あらかじめテーマごとに4人程度のグループを決めておく。 ◎ 一人一人が調べた内容の共通点を見付けるように促す。 ◎ 発表の中心を決めることができたグループは、まとめの内容の詳細や役割分担を決めるように声をかける。 ◎ 発表のテーマ、中心とする事柄、発表の方法などを記録するワークシートを用意する。 ■ グループで話し合い、オリンピックについて一番伝えたいことや発表方法を決めている。（観察・ワークシート） ◎ 発表方法が決まらないグループには、模造紙にまとめて発表する方法を勧める。
ま と め	⑤ 次回から発表の準備をすることを知らせる。	

V 本事例を実施するに当たって

本実践は、総合的な学習の時間に、児童一人一人の興味・関心に応じて課題を設定し、自分なりに解決し、友達と情報を交換している。そのため、テーマは「オリンピック・パラリンピック精神」以外にも広がる可能性を秘めている。児童の関心が「スポーツ」に偏るような実態であれば、学習読本等を活用してオリンピック・パラリンピックの目的を知らせるなど、課題設定の段階で配慮が必要である。

また、本事例のように、図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設け、関連図書（巻末参照）を充実させ、図書資料を活用することも効果的である。

児童の学習状況によっては、イメージマップをもとに全体でいくつかのテーマを設定し、選択できるようにしてもよい。

④ 小学校第4学年 総合的な学習の時間 「パラリンピック調査隊」

I 単元目標

- (1) オリンピック・パラリンピック学習読本や映像教材等を活用してパラリンピックに関する課題を設定し、調べようとする。
- (2) 自己の課題解決に必要な情報や資料を収集し、それらを使って調べるようにする。
- (3) 学習したことを整理し、自分が選んだ方法でまとめることができるようにする。
- (4) パラリンピアンの方の生き方を知ること、自分の生き方をよりよいものにしていこうとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) パラリンピックを目指すアスリートへの理解
 学習読本や映像教材等を活用することにより、パラリンピックスポーツや障害者スポーツについて正しい知識を得ることができ、本単元への興味・関心を高めるようにする。
- (2) 図書資料・映像等の活用
 学習読本や映像教材以外にも、新聞記事、映像、書籍等多くの資料を提示することにより、自己の課題を解決するための見通しをもったり、課題解決のために必要な情報を選択したりする資料活用能力を高めるようにする。

III 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
第1次 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映像教材を視聴し、パラリンピックに対する理解を深める。 ○ パラリンピックについて興味をもったことを基に自分の課題を選び、グループを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パラリンピックについて興味・関心をもつ。【関心・意欲・態度】 ■ 自分の興味・関心にあった自分の課題を選んでいる。【関心・意欲・態度】
第2次 2～4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題について、オリンピック・パラリンピック学習読本やオリンピック・パラリンピックコーナーの図書資料を活用したり、インターネットを活用したりするなどして調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図書資料やインターネットを活用して、自分の課題を自分なりに解決しようとしている。【思考・判断】
第3次 5～8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに、一人一人が調べた内容を持ち寄り、まとめ方や発表方法についての計画を立て、発表する資料等を作成する。 ○ 3年生に対して自分の課題について、調べたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調べたことを整理し、3年生に分かり易く伝えるようまとめ方や発表方法を工夫している。【思考・判断】 ■ 3年生に分かり易く伝えることができたか。【知識・理解】

IV 本時の指導（第7時／8時間）

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		学ぶ(知る)

(1) ねらい

パラリンピックについて自分が設定した課題について、相手に分かりやすく伝える。

(2) 指導の実際

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 「相手に分かりやすく伝わるように」を意識して、発表会のリハーサルをしよう。 </div>	◎ 3年生に伝える時には、どのようなことに気を付ければよいかを考えるように話す。
展 開	② グループに分かれて、お互いに発表し、聞き合う。 (1) グループで発表の内容や分担を確かめる。 (2) 他のグループの発表を聞き、アドバイスカードを書く。 〈課題例〉 パラリンピックの意義や歴史、競技種目、開会式・閉会式、日本人選手の活躍 等 ③ どんなアドバイスを友達にもらったか、グループで確認し合う。	◎ 相手グループのよく分かったところやもっと知りたいことを3年生の立場で考え、発表後にアドバイスカードを書いて渡すように伝える。 ■ 自分の課題について調べたことを、相手に分かりやすく伝えている。（発表・ワークシート） ◎ アドバイスカードを「よく分かったところ」、「もっと知りたいこと」のカードをそれぞれ分けて確認し、改善の材料とするように伝える。
ま と め	④ 本時の学習を振り返り、感想を書く。	◎ アドバイスカードを読んで改善しようと思ったことや、友達の発表を聞いて思ったことなどを具体的に書くようにする。

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、発表の対象を、パラリンピックについて未習の学年の児童としている。伝える相手を明確にすることは、学習効果を高める。この他に、保護者や地域の方を対象としたり、全校集会で発表したりする方法も考えられる。

本事例を実施することで育成できる資質・能力は「障害者理解」であり、多くの学校で総合的な学習の時間で実践されている「福祉」を題材とした学習と関連付けることで、「スマイルプロジェクト」として位置付けることも可能である。

その際は、本事例のようなパラリンピックの意義や歴史の学習に加えてパラリンピックスポーツや障害者スポーツや障害のある人が感じる不便や不安を直接体験する活動や、障害がある人との交流を取り入れると効果的である。

⑤ 中学校第1学年 保健体育（体育理論）「文化としてのスポーツの意義」

I 単元目標

- (1) 国際的なスポーツ大会にどのような役割があるかについて理解できるようにする。
- (2) 世界の人々と相互理解を深める活動について考えられるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) オリンピック精神についての理解を深めるため、オリンピック・パラリンピック学習読本や映像教材を活用する。
- (2) オリンピックシンボルや古代オリンピックの競技場跡の写真等を掲示して、生徒のオリンピックへの興味・関心を高めるようにする。

III 指導と評価の計画（1時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・シンボルについて考える。 ○ オリンピックの意義や歴史について知る。 ○ 学習したことを基に東京 2020 大会への関わり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オリンピックの歴史や意義などについて進んで学習しようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ オリンピックの歴史や意義について理解している。【知識・理解】

Ⅳ 本時の授業（第1時／1時間）

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		学ぶ(知る)、観る

(1) ねらい

オリンピックの意義や歴史について、理解を深める。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① オリンピックシンボルについて考える。 「オリンピックシンボルを描いてみよう。」 「五つの輪は何を表しているのだろう。」 ② 少人数グループで5つの輪の意味について話し合う。	◎ ワークシートに色鉛筆で自分が記憶しているオリンピックシンボルを描く。 ◎ 五つの輪が互いに交わり、世界が一つであることを表していることを知らせる。
展開	③ オリンピックの目的について考える。 「オリンピックに参加している国や地域はどれくらいあるのだろうか？」 「オリンピックを開催する目的は何だろうか？」 ④ 少人数グループで五つの輪の意味について話し合い、発表する。 ⑤ 近代オリンピックの開始 「近代オリンピックは、いつ、どのように開催されたのだろうか？」 ⑥ 映像教材第3巻「クーベルタンの生涯」を観てオリンピックの3つの価値「卓越」「友情」「敬意/尊重」について知る。	◎ IOC加盟国は国連加盟国よりも多いこと、難民などは国単位でなくても参加できる場合があることを説明する。 ◎ オリンピックの目的が、「スポーツを通じた人間形成、青少年の教育」、「国際親善、世界平和の実現」であることを説明する。 ◎ 五つの輪が五大陸の団結や世界中から選手が集うことを表現していることを知らせる。 ■ オリンピックの意義や歴史について理解している。（観察）
まとめ	⑦ 学習したことを基に、東京2020大会にどのように関わっていくかを考える。	◎ オリンピックの目的を確認し、東京2020大会にどのように関わるかを考えるように投げ掛ける。

V 本事例を実施するに当たって

スポーツ基本法の前文は、「スポーツは世界共通の人類の文化である。」という言葉で始まる。本事例のように、「文化としてのスポーツの意義」を学習するに当たって、まずオリンピックの目的を学習することは価値がある。

「卓越」「友情」「敬意/尊重」というオリンピックの3つの中心的な価値を知り、そうした価値が自分たちの日常生活においても重要であることに気付かせ、今後の生活にどのように生かしていくかを考えさせたい。

また、オリンピックの目的を理解した上で、体育祭や球技大会等をオリンピック・パラリンピックと関連付けて実施することも考えられる。

⑥ 高等学校第2学年 保健体育（体育理論） 「運動・スポーツの文化的特徴」

I 単元目標

- (1) オリンピックについて関心をもち、積極的に関わる態度を身に付けようとする。
- (2) オリンピック精神について学ぶことによって、フェアプレーの精神を学び、生徒が日常生活や部活動などに生かせるようにする。
- (3) 選手だけではなく、オリンピックという大舞台を支える審判等が実際に使用する道具について知ることにより、生徒一人一人が東京 2020 大会を実際に支えるという意識を高めるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) オリンピック・パラリンピック学習読本を用いて、オリンピック憲章やオリンピックの歴史を学び、全世界的な催しが東京で開催されることについて理解し、オリンピック・ムーブメントの活動を支えるという意識を高める。
- (2) 実際にオリンピックを体験した人の話を直接聞くことにより、生徒が興味・関心を深めるとともに、オリンピックが様々な施設や組織、人々によって支えられていることを理解する。
- (3) 体育実技種目、運動会種目をオリンピック・パラリンピック種目と関連付け、オリンピックでの競技方法やパラリンピック種目との違いを学習することによって興味を深める。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック憲章、オリンピック・ムーブメントについて学習読本を用いて学習する。 ○ 映像教材を視聴し、オリンピックで実際に使用された道具を見て、実際の大会への興味を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オリンピックの基礎的知識を理解し、まとめている。 【知識・理解】 ■ 積極的にオリンピックへの理解を深めようとしている。 【関心・意欲・態度】
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育実技種目の中で、オリンピック・パラリンピック種目となっているものについて、ルール・競技方法などを学ぶ。 ○ 自分が、具体的にどのように東京 2020 大会を支えることができるかをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 競技方法について理解し、知識を深めている。 【知識・理解】 ■ 大会を支える方法について、自分のこととして考えようとしている。 【思考・判断】

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		学ぶ(知る) 支える

IV 本時の指導 (第2時/2時間)

(1) ねらい

東京 2020 大会に実際にどのように関わられるかを考えようとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準 (評価方法)
導 入	① 前時を振り返り、近代オリンピックが開催された都市や、東京 2020 大会の競技会場を確認し、実感を深める。	◎ オリンピックの価値や現場の臨場感について想起できるようにする。
展 開	② 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">東京 2020 大会にどのように関わるか考えよう</div>	
	③ 体育実技でのラグビーやバスケットボールとオリンピックでの7人制ラグビーや、パラリンピックでの車いすバスケットボールの競技方法の違いについて知る。	◎ オリンピックの7人制ラグビーとパラリンピックの車いすバスケットボールの競技方法について簡単に説明し、体育実技種目との違いを考えられるようにする。
	④ 5～6人のグループでブレインストーミングを行う。 ・ オリンピック・パラリンピックの競技種目について ・ 興味のある競技について ・ 東京 2020 大会で、どのように大会に関わることができるかについて	◎ ノートに、自分が興味をもった種目とその理由、友達の意見をメモするように伝える。 ◎ 学習読本のボランティア活動の欄を参考にさせ、各自の関わり方について自由に意見を出すように促す。
	⑤ どのような意見が出たか、グループごとに発表する。	■ 東京 2020 大会にどのように関わるかを考えている。 (観察・ノート)
ま と め	⑥ 東京 2020 大会で自分自身がどのように関わりたいかをノートに記入する。	◎ 東京 2020 大会が開催されることが、貴重な機会であることを確認する。

V 本事例を実施するに当たって

本事例の体育理論での学習を体育実技と関連付けることで「スポーツ」をテーマとした学習として取り上げることにもできる。このように、単元全体のテーマは「オリンピック・パラリンピックの精神」であっても、各時間の内容によってはテーマが異なることも考えられる。

また、高校生は、大会ボランティアや都市ボランティア、応援、観戦等、東京 2020 大会に様々な形で関わるができるため、本単元を「東京ユースボランティア」に結び付けていくことが大切である。この際、東京 2020 大会への関心を高め、平成 32 (2020) 年の自分を想像し、関わり方を考え、4年間の計画を立てることが重要である。

(2)スポーツ

① 幼稚園年少4歳児 「動物オリンピック（運動遊び）」

I 活動の目標

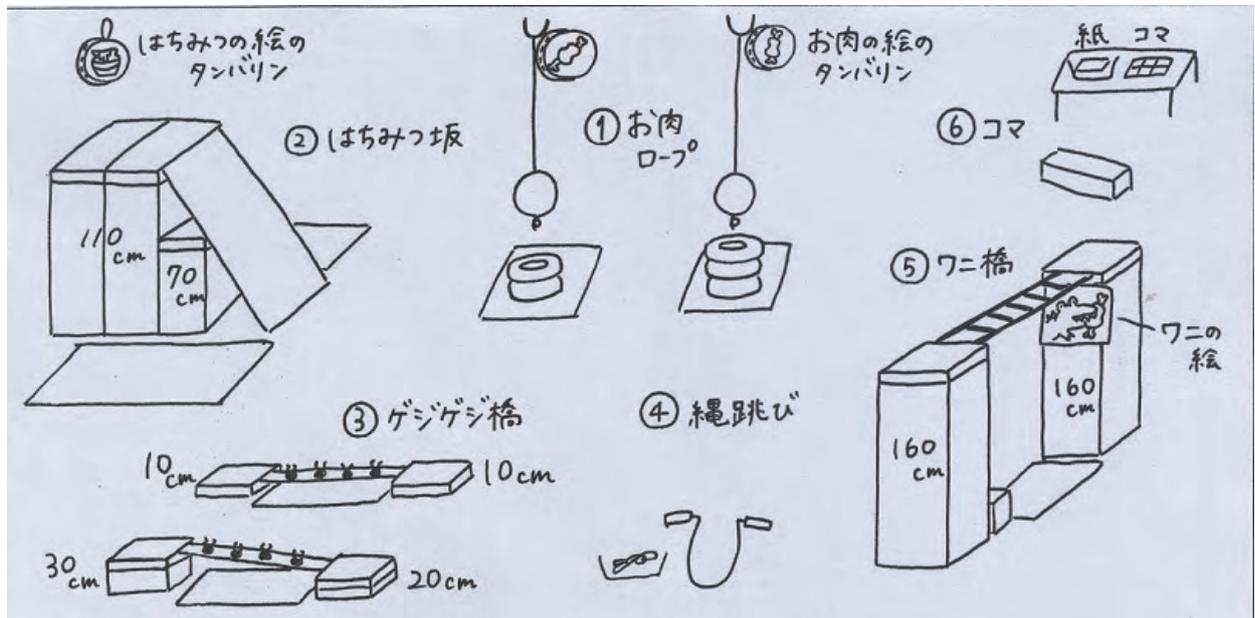
オリンピックの要素を取り入れた様々な運動遊びに進んで取り組むことで、体力を高めようとする。

II 活動の内容

幼児が東京 2020 大会を意識し、進んで運動遊びに取り組み十分に楽しむ中で、様々な動きを経験できるようにするために、「動物オリンピック」と名付けて、「イメージをもてる環境」「選べる環境」「ちょっと難しい環境」を視点として環境を設定し、様々な動きが経験できるようにする。

<物的環境の工夫>

- (1) イメージをもてる環境の工夫…地図や音楽を用意したり、教具を具体物に見立てたりする。（お肉、はちみつ、栗、ワニなど）
- (2) 選べる環境…1つの場に2通り、長さや高さの違う教具を用意することで、一人一人の幼児が自らやってみようと思えるようにする。
- (3) 挑戦意欲をもてる環境の工夫…1回でその活動を終わらせるのではなく、次に行う時は、前回よりも高くなっている、坂の斜度が高くなっているなど、ちょっと難しいと思える環境を工夫し、挑戦意欲をもてるようにする。



<人的環境の工夫>

- (1) 教師が見守るとともに、幼児をアスリートに見立てて励ましたり援助したりすることで自信をもたせるようにする。
- (2) 友達の間で取り組む姿を見られるようにすることで、刺激や次の活動への挑戦意欲がわいてくるようにする。
- (3) 次への目標や目的が自覚できるように、教師は幼児の動きを認めたり伝えたりする。

テーマ	×	アクション
スポーツ		する(体験)

Ⅲ 本時の指導

(1) ねらい

- ① 動物になりきり、ダイナミックに体を動かすことを楽しもうとする。
- ② 体のバランス感覚を身に付け、体幹を鍛える。

(2) 展開

	幼児の活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	① 平成 32（2020）年に東京でオリンピック・パラリンピックが行われることを知り、「動物オリンピック」に参加する気持ちをもつ。 ② 「動物オリンピック」の会場図を見て何をするかを考える。	◎ 学級で活動する楽しさを味わうため、ねらいを共通理解できるようにする。 ◎ どの幼児にも活動の場が分かるように、会場図を提示する。
展開	③ 幼児が挑戦したり自分なりに試したりする。 (1) お肉ロープ…恐竜になり、お肉を目指してロープを登る。 【ぶらさがる・登る・とびつく・とびおりなど】 (2) はちみつ坂…クマになりはちみつを目指して坂を登る。 【駆け上る・はいつくばる・滑り台の端を持って登るなど】 (3) ゲジゲジ橋…リスになり栗（ゲジゲジ）を踏まないように橋を渡る。 【歩いて渡る・走って渡る・跳ぶ・はうなど】 (4) なわ跳び…ウサギになりなわ跳びの得意技を披露する。 【跳ぶ】 (5) ワニ橋…サルになりワニを目指していろいろな方法で雲梯を渡る。 【ぶらさがる・登る・手と足を使って渡るなど】 (6) コマ…ネコになりコマの得意技を披露する。 【硬い紙や積木の上で回す・きのこ回しなど】	◎ 安全面に配慮しながら、見守ったり援助したりする。 (1) 頂上にお肉の絵を描いたタンバリンを吊るし、目標がもてるようにする。（イメージ） 踏み台になるタイヤを用意し、高さを調整できるようにする。（選択） 長さが違うロープを用意する。（挑戦） (2) 頂上にはちみつの絵を描いたタンバリンを置き、目標がもてるようにする。（イメージ） (3) 「ゲジゲジに触るとびりびりする」というイメージを伝える。（イメージ） 高さが違う橋を用意する。（選択） ゲジゲジを置く場所を自分たちで考えるように言葉を掛ける。（挑戦） (4) 様々な跳び方に挑戦するように働き掛ける。（挑戦） (5) 目標をもてるように雲梯のゴールにワニを付ける。（イメージ） (6) 紙を用意し、いろいろな回し方を試せるようにする。（選択）（挑戦） ◎ 「選べる環境」「挑戦意欲がもてる環境」を用意する。 ◎ 幼児をアスリートに見立て、「○○選手、新しい技に挑戦です。」「△△選手、新記録が出ました。」などの言葉掛けをする。 ■ 動物になりきり、ダイナミックに体を動かすことを楽しんでいる。（観察）
まとめ	④ ロープの長さや橋の高さなどを自ら選んで挑戦する。 ⑤ いろいろな動きに取り組んだことを伝えたり、手本を披露し、友達と見合ったりする。	◎ 活動を振り返る時間と友達の様子を見合う時間を設けることで、次の活動への刺激になるようにする。

スポーツ

Ⅳ 本事例を実施するに当たって

幼児がオリンピック・パラリンピックに関心をもち、体力の向上や健康づくりに自ら意欲的に取り組む態度の基礎を養うために、「動物オリンピック」という名称で運動遊びを実践した事例である。動物のオリンピックとして環境を工夫したり、アスリートに見立てて言葉掛けをしたりしている。幼稚園の場合、園児が意欲的に取り組み、小学校以降の活動へ効果的につなげていく上でも、教員の言葉掛けが大変重要である。

オリンピック・パラリンピックとの関連をより深めるために、映像や写真でそれぞれの種目を紹介したり、様々な国や地域の選手が集まることを伝えて、場を世界一周に見立てたりするなどの工夫をすることが考えられる。

② 小学校第2学年 体育 「マットメダルを集めよう」

I 単元目標

- (1) マットを使っていろいろな方向への転がり、手で支持して体の保持や回転をすることができるようにする。
- (2) 場の安全に気を付けながら、決まりを守って友達と仲良く運動することができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んだり、友達のよい動きを見付けたりすることができるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 東京がオリンピック・パラリンピック開催地となったことを子供たちが意識し、意欲を高めるために「〇〇小オリンピック」というテーマを設定する。
- (2) マットメダルを集めるために、進んでいろいろな動きに取り組み、それぞれの動きのポイントを身に付けられるようにする。
- (3) オリンピック・パラリンピックの7つの価値のうち、「友情」「勇気」を重点として学習に取り組むように伝える。

III 指導と評価の計画（8時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては2時間）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊び(柔軟体操・ゆりかご・おきあがりこぼし・かえるの足打ち・アンテナ)の行い方を知る。 ○ 動物歩き(くま・うさぎ・しゃくとり虫)をする。 ○ 転がる運動・逆立ちの運動を知る。前転がり・後ろ転がり・えんぴつまわり・川跳び・壁登り逆立ちをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 友達と協力して、マットの準備や片付けをしようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ マットを使った運動遊びの行い方を知っている。【知識・理解】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊びを行う。 ○ 動物歩き(くま・うさぎ)をする。 ○ 「〇〇小ころりんピック準備タイム」として、前転がり・後ろ転がり・えんぴつまわりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】 ■ マットを使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けている。【思考・判断】
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊びを行う。 ○ 動物歩き(くま・うさぎ)をする。 ○ 「勇気」を重点として、川コース・坂道コース・どこまでコース・一本道コースに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ マットに背中を順番に接触させて、いろいろな方向に転がることができる。【技能】
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊びを行う。 ○ 動物歩き(しゃくとり虫・うさぎ)をする。 ○ 「友情」を重点として、川跳びと壁登り逆立ちをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 友達のよい動きを見付けている。【思考・判断】
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊びを行う。 ○ 動物歩き(しゃくとり虫・うさぎ)をする。 ○ 「勇気」を重点として、川コース・ゴムコース・ろくぼくコース・壁よこ歩きコースに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 両手で体を支えて、マットを跳び越えることができる。【技能】 ■ 両手で体を支え、壁や肋木を使って逆立ちをすることができる。【技能】
6~8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主運動につながる運動遊びを行う。 ○ 動物歩き(くま・しゃくとり虫・うさぎの中から選ぶ。)をする。 ○ 「友情」を重点として、「〇〇小オリンピック」「〇〇小ころりんピック」「〇〇小ぎやくリンピック」の場を選んで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動の順番やきまりを守り、友達と仲良く運動をしようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ 運動をする場やマットの使い方などの安全に気を付けようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ 楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいく。【思考・判断】

テーマ	×	アクション
スポーツ		する(体験)

IV 本時の指導（第3時／8時間）

(1) ねらい

- ① マットに背中を順番に接触させて、いろいろな方向に転がることのできる。
- ② 運動の順番や決まりを守り、友達と仲良く運動をしようとしている。
- ③ マットを使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けている。

(2) 展開

	学習活動	◎教師の支援 ■評価規準（評価方法）
導入	① 集合・整列・挨拶 ② 場の準備 ③ 準備運動と主運動につながる運動遊び(ゆりかご・おきあがりこぼし・かえるの足打ち・背支持倒立・うさぎ・くま歩き)を行う。 ④ 本時の学習の流れ・めあてを知る。	◎ 主運動に必要な運動感覚を意識するように声を掛ける。 ◎ よい動きをしている児童を称賛する。 ◎ オノマトペを使って動きを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ころりんピック」でマットメダルを集めよう！！</div>		
展開	⑤ オリンピック・パラリンピックの7つの価値のうち「勇気」を重点として、4種類の場でいろいろな回り方に挑戦する。 (川コース・坂道コース・どこまでコース・一本道コース) ⑥ 集合して、めあてを確認する。 ⑦ 自分が取り組んでみたい場を選び、いろいろな転がり方をする。 ・ いろいろな転がり方を示したビンゴカードを用いて、挑戦した転がり方に丸を付ける。	◎ オリンピック・パラリンピックの7つの価値を知らせ、アスリートのように「勇気」を出して、いろいろな回り方に挑戦するように働き掛ける。 ◎ いろいろな回り方に挑戦した児童、上手に転がることのできた児童を全体の前で紹介する。 ◎ それぞれのコースを回り、児童が発見した動きのポイントや工夫を全体に広める。 ◎ 一通りローテーションした後で、自分の好きなコースを選ぶように声を掛ける。 ◎ 児童の意欲を高めるため、いろいろな転がり方を示したビンゴカードを用意する。 ■ マットに背中を順番に接触させて、いろいろな方向に転がることのできる。(観察)
まとめ	⑧ 片付け ⑨ 整理運動 ⑩ 振り返り（めあての振り返り）	◎ 協力して片付けるように声を掛ける。 ◎ 使った部位を意識して行うように声を掛ける。 ◎ いろいろな転がり方を示したビンゴカードで、ビンゴになった児童に、児童が作成したメダルを授与する。 ■ マットを使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けている。(観察)

スポーツ

V 本事例を実施するに当たって

スポーツを題材にした体育の授業を充実させることは、重点的に育成すべき資質である「スポーツ志向」を高めることにつながる。

その中でも、本事例のようにオリンピック・パラリンピックの価値を児童に意識させたり、児童が作成したメダルを活用したりすることは、運動・スポーツへの関心を高める手だてとして有効である。

その際、どの児童にもメダルを獲得するチャンスがあるよう、技能だけでなく、態度、思考・判断においてもよさを認めるなどの配慮が必要である。

③ 小学校第3学年 道徳 「ワンドフル・ヒトミ 一人見 絹枝ー」

I 題材名

最後まで諦めない [第3学年及び第4学年 1-(2)]

小学校三・四年生版「心しなやかに」(東京都教育委員会) p.54-p.61

II ねらい

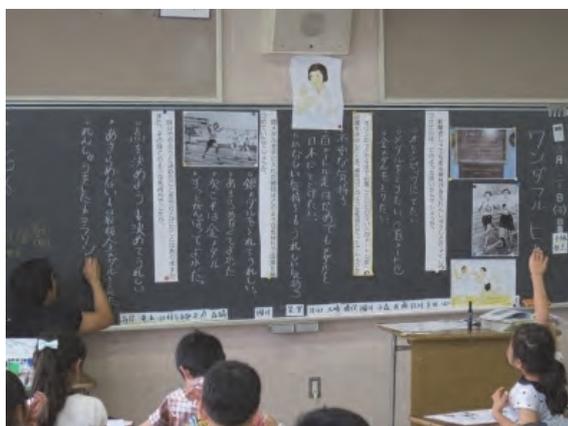
自分でやろうと決めたことは、諦めずに取り組み、粘り強くやり遂げる心情を育てる。

III ねらいとする道徳的価値

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことや自分が決めたことをしっかりとやり抜くことが大切である。そのためには、今よりもよくなりたいと願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが大切となる。

IV 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 導入において、プラハ(チェコ)にある人見絹江の記念碑やアムステルダム・オリンピックで活躍する人見絹枝の写真を提示し、資料への興味をもたせる。
- (2) 補助発問及び中心発問で、人見絹枝がオリンピックでメダルをとることを目標に、働きながら毎日練習に励み、困難や挫折を乗り越えてついに悲願を達成した心情について考えさせる。資料を読み、児童相互で意見を交わすことで、児童が自分の掲げた目標に向かって粘り強く努力していくことの大切さに気づき、自分も努力しようという意欲を育む。
- (3) 教師が自分自身の同様の体験について語ることで、オリンピック選手も自分たちも努力を続けて目標を達成することを大切にするという点において、共通していることに気付かせる。こうした心情を感じ取ることで、オリンピック選手の競技する姿だけでなく、そこに至るまでの努力や苦労についても想起しながら応援することができるようになる。



テーマ	×	アクション
スポーツ		学ぶ(知る)

V 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい【主題名 最後まで諦めない】

自分でやろうと決めたことは諦めずに取り組み、粘り強くやり遂げる心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 人見絹枝について知る。 「日本初の女性オリンピック選手の人見絹枝さんをご紹介します。」	◎ プラハ（チェコ）にある人見絹枝の記念碑や人見絹枝が活躍している写真を提示し、資料への興味をもたせる。 ◎ アムステルダム・オリンピックに出場した日本選手43名中、たった一人の女性選手であったことを付け加える。
展 開	② 資料を読み、話し合う。 「新聞記者でもある絹枝選手が、夜も練習し努力したのは、どのような思いからでしょうか。」 ③ 「100m走決勝レースに残ることができなかった絹枝は、どのような気持ちになったでしょうか。」 「銀メダルを手に入れた絹枝は、どのような気持ちで国旗を見つめていたのでしょうか。」 ③ 自分の生活について振り返る。 「自分でやろうと決めたことを粘り強くやり遂げたことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」	◎ 教師が範読する。 ◎ 何としてもオリンピックに出たい、すばらしい記録を出してメダルをとりたいという絹枝の強い思いを捉えさせる。 ◎ 100m走で決勝に進めなかったときの絹枝の思いに着目させ、そこから800m走への出場を決心するまでの心情の変化を捉えさせる。 ◎ 絹枝の達成感を捉えさせ、努力し続けることや最後まで諦めずにやり遂げることの大切さに気付かせる。 ◎ 児童が本時の話合いから道徳的価値について自分のものとして捉えられるようワークシートに記述させる。 ◎ 児童が記述したことがらを発表させ、その内容について称賛し、認め励ますことで実践への意欲を高める。 ■ 自分でやろうと決めたことに、あきらめずに取り組む、粘り強くやり遂げていこうとする意欲をもつことができたか。 (観察・ワークシート)
ま と め	④ 教師の説話を聞く。	◎ 教師自身が、諦めずに取り組み最後までやり遂げた体験を語る。

スポーツ

VI 本事例を実施するに当たって

オリンピック・パラリンピアンを題材にした資料を基に道徳を行うことは、様々な道徳的価値、生き方を学ぶために有効である。また、オリンピック・パラリンピックの題材を活用し、フェアプレーの精神を学ぶことも効果的である。こうした題材を、各学校の道徳の年間計画に位置付け、活用するとよい。

④ 小学校第5学年 国語 「新聞記事を読み比べよう」

I 単元目標

- (1) 記事と写真との関連に注意しながら読み比べ、書き手の意図を読み取ることができるようにする。
- (2) 自分で選んだ記事を紹介するための文章を書くことができるようにする。
- (3) 新聞記事を読み、記事の中の表現の工夫について気付くようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

「新聞記事を読み比べよう」という単元を学習する際、オリンピック・パラリンピックとの関連を深めるために、以下のような手だてをとった。

- (1) 学習の初めに、教師がオリンピック・パラリンピックの記事を提示し、その後の児童の「オリンピック・パラリンピックの新聞記事を探す」という活動への興味をもたせる。
- (2) 児童が普段から新聞やオリンピック・パラリンピックに目が向けられるように、廊下に新聞を置き、自由に読めるようにする。
- (3) ニュースや新聞でオリンピック・パラリンピックの内容が取り上げられた際には、随時、児童に知らせ、身近な話題として関心がもてるようにする。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記事の内容と写真を読み、書き手が伝えたいことを読み取る。 ○ 書き手の伝えたいことを基に、見出しにまとめる。 ○ 考えた見出しを友達と伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 書き手が伝えたいことを読み取っている。 【知識・理解】 ■ 書き手の意図を考え、記事の内容や写真に合う効果的な見出しを書いたり、理由を明らかにして発表したりしている。 【知識・理解】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスで、新聞記事を紹介し合う。 ○ 友達のよかったところを発表する。 ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 書き手の意図を考え、記事の内容や写真に合う効果的な見出しになっているかを確認しながら聞いている。 【思考・判断】

テーマ	×	アクション
スポーツ		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第1時／2時間）

(1) ねらい

記事の内容や写真から書き手の意図に合う見出しを考え、理由を明らかにして発表することができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 本時の学習課題と流れを知る。	◎ 黒板に学習の流れを掲示する。
	書き手の意図が伝わる見出しを考えよう	
展 開	② 各自が選んだオリンピック・パラリンピックに関する記事を読む。 ③ 記事の内容から書き手の意図をまとめる。 ④ 記事に書かれている内容の中で重要な言葉や書き出す。 ⑤ 書き手の意図が表されるような見出しを書く。 ⑥ 隣同士で記事を読み合い、記事の内容と見出しを発表する。 ⑦ 友達の意見のよいところや改善点を交流する。 ⑧ 友達の意見を参考に、修正をする。	◎ 児童に活動内容を事前に知らせ、新聞記事を収集する。 ◎ 児童が活用しやすい新聞記事を選べるように、様々な新聞記事を準備する。 ■ 書き手の意図を考え、記事の内容や写真に合う効果的な見出しを書いたり、理由を明らかにして発表したりしている。（発表・ノート） ◎ 友達の意見を基に、見出しの改善を図る時間を設ける。
ま と め	⑨本時の学習を振り返る。	

V 本事例を実施するに当たって

「スポーツ」は、「観る」「する(体験・交流)」といったアクションが中心になりがちであるが、本事例は、国語の単元を基に、オリンピック・パラリンピックを取り上げた新聞記事を提示し、身近な話題として関心がもてるように工夫している。このような学習も重点的に育成すべき資質である「スポーツ志向」を身に付けさせる取組として有効である。オリンピック・パラリンピックに関連した「文化」「環境」をテーマとした同様の授業も考えられる。

さらに、オリンピック・パラリンピックを支える人々を取り上げた記事は「東京ユースボランティア」に、またパラリンピック競技や障害者をテーマにしている記事は「スマイルプロジェクト」というように、ニュースや新聞は、「4×4の取組」や重点的に育成する5つの資質の育成に、幅広く活用できる可能性を秘めている。

児童の学習状況によっては、イメージマップをもとに全体でいくつかのテーマを設定し、選択して、それに合わせた新聞記事の見出しを考えても良い。

スポーツ

⑤ 中学校第1学年 外国語(英語)「Wheelchair Basketball(車いすバスケットボール)」

I 単元目標

- (1) 障害者とスポーツについての題材を通して、障害者の生き方や共生について関心をもてるようにする。
- (2) 能力を表す助動詞 can の意味や用法を理解することができるようにする。
- (3) 助動詞 can の表現を含む文の内容を理解したり、語と語のつながりを理解したりして、can の肯定文・否定文・疑問文を正しく書いたり話したりすることができるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 日本語になっている英語、basketball、handicap など身近な英単語を導入で提示したり、車いすバスケットボールに関する基礎的知識(ルール、競技用車いすの特徴、パラリンピアン人の活躍など)を題材に取り上げたりすることで、オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心を高める。
- (2) オリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だてとして、車いすバスケットボールを題材に取り上げ、文構造・文法について理解させるだけでなく、英語を通じて障害者とスポーツについて学び、共生について考えを深める機会とする。
- (3) 本単元では、助動詞 can について理解させ、語と語のつながりや形に注意し、読む・聞く・書く・話す活動全体を通して can の肯定文・否定文・疑問文を理解し、活用できることをねらいとしている。

III 指導と評価の計画(8時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては4時間)

時間	主な学習活動	評価
1~3	○ 助動詞 can の表現を用いた肯定文・否定文・疑問文の意味・用法の理解 [L. 7 part 1~2]	■ can の肯定文と否定文の用法、意味と形が理解できる。 【知識・理解】
4 (本時)	○ 車いすバスケットボールを見学した主人公のレポートに関する内容理解 [L. 7 Read①]	■ can の含まれている本文の内容を正しく理解できる。 【知識・理解】
5~7	○ 車いすバスケットボールのルールや得点方法などに関する内容読解 [L. 7 Read②] (読解)	■ 英問英答に答えて理解を深めている。 【思考・判断】
8	○ 車いすバスケットボールについて書かれた文の内容理解、内容に関するペアワーク(内容理解とその活用)	■ 本文の内容に関してペアで質問し合ったり、答えたりすることができる。 【知識・理解】

テーマ	×	アクション
スポーツ		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第4時／8時間）

(1) ねらい

- ① レポートの内容についての概要を捉えることができるようにする。
- ② 助動詞 can の用法を理解しながら、英文のレポートを読み、障害者スポーツや車いすバスケットボールの概要を捉えることができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 既習の can の用法、意味について確認し、can の用法に着目しながら教科書の本文を音読する。	◎ 助動詞としての can の用法について復習する。
展 開	② 車いすバスケットボールを見学した主人公のレポートを音読し、概要を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新出単語の理解 ・ 助動詞 can の用法についての確認 ・ 本文の音読 <ul style="list-style-type: none"> ・ 印象に残った語句（表現）を書き出す。 ・ 内容の概要を理解し、簡単な質問（英語）に答える。 	◎ 交通事故で下半身不随となった京谷和幸選手（車いすバスケットボール選手）の例を取り上げ、競技用車いすの特徴や競技規則の違い、パラリンピアン活躍などに触れ、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を引き出す。 ◎ 単語・語句レベルの気付きを自由に捉えさせる。 ■ 助動詞 can の用法を理解しながら英文のレポートを読み、障害者スポーツや車いすバスケットボールの概要を捉えることができる。（観察）
ま と め	③本文の内容理解のまとめ	

V 本事例を実施するに当たって

本事例は英語の教材を活用して障害者理解を深める取組である。こうした学習で障害者スポーツへの興味・関心を高め、「夢・未来プロジェクト」やパラリンピックスポーツ、障害者スポーツの体験活動につなげ、学習効果をより高めていくことが重要である。

他にも英語の教材を活用することで「オリンピック・パラリンピックの精神」「文化」「環境」をテーマとした授業も実施可能である。

スポーツ

⑥ 中学校第2学年 総合的な学習の時間 「福祉体験学習」

I 単元目標

- (1) 障害者との交流を通して、障害についての正しい理解を深められるようにする。
- (2) 互いの人権を尊重しながら、共に生きていく社会の実現に向けて、望ましい態度を身に付けられるようにする。



II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 障害者とのスポーツを通じた交流を通し、共生の意識を育てるとともに、パラリンピックへの関心をもたせる。
- (2) 車いす体験やアイマスク・白つえ体験を通し、障害者に対する適切な支援を考えさせるとともに、東京2020大会実施時に多数訪れる障害者への支援ボランティアとして協力する気持ちを育てる。
- (3) 障害者と健常者が共に楽しめる新しい競技を考えたり、障害のある方に配慮したスポーツ施設や道具を考えたりするなど、共生社会にふさわしい生涯スポーツの在り方を考えさせる。

III 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉体験学習ガイダンス ○ 映像教材第2巻や、事故で身体の一部を失った後、パラスポーツの選手として活躍している方を取り上げたDVDを視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害のある方が、スポーツと出会い、どのような生き方をしているかについて考えている。 【思考・判断】
3・4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害のある方の話を聞くとともに意見交流を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害のある方にどのような配慮が望ましいのか考えている。 【思考・判断】
5・6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害のある方との直接交流をする。(歩行障害のある方との車いす交流、視覚障害のある方とのサウンドテーブルテニスを通しての交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害のある方と、スポーツを通して積極的に交流しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ■ 障害のある方の気持ちを理解し、望ましい支援について考えている。 【知識・理解】

IV 本時の展開（第5・6時／6時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ		する(体験・交流)

(1) ねらい

- ① 共に地域で生活をする方として、障害のある方とのスポーツを通して、意欲的に交流しようとする。
- ② 車いすやアイマスク・白つえを体験することで、望ましい支援の在り方を考えようとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 障害のある方が取り組んでいるスポーツにはどのようなものがあるのかを知り、どのような工夫がなされているのかを考える。	◎ 本単元の初めに視聴したDVDの内容を振り返り、障害がある方が講師として来てくださっていることを紹介する。 ◎ パラリンピック・スポーツをいくつか紹介する。
展開	② サウンドテーブルテニスについて学ぶ 講師である視覚障害のある方からサウンドテーブルテニスのルールを聞く。 ③ サウンドテーブルテニスの体験をする 二人一組になり、一人はアイマスクを着用し、もう一人は支援者として、卓球台までの誘導を行ったり、ボールを拾ったりする役を担う。 ④ アイマスクを着用して体験したこと、支援をする立場で気付いたこと、分かったことなどについて意見を交流する。	◎ サウンドテーブルテニスについて理解が深められるよう講師に積極的に質問等をするよう働き掛ける。 ■ 障害のある方と、スポーツを通して積極的に交流しようとしている。 ◎ 二人組や対戦相手等については、あらかじめ決めておき、実際の体験に多くの時間が使えるように配慮する。 ◎ 体験して気付いたことや考えたことを記録し、四人一組の小グループで意見が交流できるようにする。
まとめ	⑤ 各グループの代表者が意見交流で出された意見を発表、共有する。 ⑥ 講師の感想を聞き、自分の感想をワークシートに記入する。	◎ 講師の感想を聞いた後に、自分の感想をワークシートに書くように伝える。 ■ 障害のある方の気持ちを理解し、望ましい支援について考えている。（感想）

V 本事例を実施するに当たって

体験や活動は学びを深めるために大変重要であり、積極的に取り入れていくことが望まれる。その際、本事例のように事前学習を十分に行うことが学びを深めることにつながる。

今回の活動をきっかけに交流活動を継続させていくとともに、「スマイルプロジェクト」等を通して、生徒たちがボランティア活動に関わることのできるよう働きかけていくことが重要である。

スポーツ

⑦ 中学校第3学年 国語 「15歳の主張～伝え合おう、私たちの思い～(意見発表会)」

I 単元の目標

- (1) 社会生活の中から課題を決め、自分の意見や考えを、相手に分かりやすく、適切な言葉遣いで話すことができるようにする。
- (2) 相手の意見や考えを聞くことにより、自分の考えを深めるとともに、聞き取った内容や表現の仕方よさを自分の表現に生かすことができるようにする。



II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

【テーマ設定の工夫】

オリンピック・パラリンピック教育の4つのテーマに関連したものを意見文のテーマに設定することにより、日頃から取り組んでいるオリンピック・パラリンピック教育の学習や取組の中から問題意識を見いだすことにつなげる。

III 指導と評価の計画(5時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては2時間)

時間	主な学習活動	評価
0(事前)	○ 国語の授業において、右記のテーマから各自が意見文を作成する。	①生命 ②平和 ③福祉 ④自分の夢 ⑤人権 ⑥友情 ⑦スポーツ ⑧言葉 ⑨国際交流・国際理解 ⑩環境
1～3	○ 各自が書いた意見文を基に、「学級意見発表会」を実施する。	■ テーマについて自分の考えを深め、根拠を明確にし、分かり易い言葉遣いで論理的な発表を行っている。【思考・判断】 ■ 意欲的に意見発表に臨もうとしている。【関心・意欲・態度】 ■ 友達の意見発表を聞き、気付いたこと等を積極的にメモし、自分の考えを深めている。【知識・理解】
4	○ 同じテーマを選んだ生徒同士でグループを作り、意見発表を聞いて気付いたこと、考えが深まったこと等を交流し合う。 ○ グループで話し合った内容を発表し合う。	■ グループでの意見交流を通して、自分のものの見方や考え方を深めている。【知識・理解】
5(本時)	○ 学年意見発表会を行う。 ・ 各学級から選出された代表生徒が、学年意見発表会に臨む。 ・ 学年意見発表会の感想をワークシートに記入する。	■ 意見発表会のねらいについて理解し、意欲的に臨もうとしている。【関心・意欲・態度】 ■ 代表生徒の意見発表を聞き、聞き取った内容を自分の表現の参考にしたり、自分のものの見方や考え方を深めたりしている。【知識・理解】

IV 本時の指導（第5時／5時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ 文化 環境		学ぶ

(1) ねらい

自らの考えについて、根拠を明確にして論述する力を高めるとともに、友達の意見発表を聞いて、自分のものの見方や考え方を深めようとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 学年意見発表会のねらいと流れを確認する。	◎ 司会進行は、国語系の生徒が担当する。 ◎ 司会の生徒が学年意見発表会のねらいについて伝えるよう、事前に指導する。 ■ 意見発表会のねらいを理解し、意欲的に意見発表会に臨もうとしている。（観察）
展開	② オリンピック・パラリンピック教育の4つのテーマについて、各学級から選出された代表生徒の意見発表を聞く。（約3分間×8名） ③ 代表生徒の意見発表を聞いた感想、気付いたこと等を交流し合う。	◎ 授業のまとめとして記入するワークシートをあらかじめ配布し、目的意識をもって代表生徒の意見発表を聞くよう指導する。 ◎ 必要なことは適宜メモを取らせながら、代表生徒の意見発表を聞くように伝える。
まとめ	④ 教師による講評を聞く。 ⑤ 意見発表会の感想等をワークシートに記入する。	◎ 学級・学年意見発表会の感想、友達の発表を聞いて気付いたこと、考えが深まったこと等を記入するように指導する。 ■ 聞き取った内容や表現の仕方を、自分の表現の参考にするとともに、自分のものの見方や考え方を深めている。（ワークシート）

V 本事例を実施するに当たって

本事例では、障害のあるアスリートや留学生との交流、諸外国の歴史や文化についての学習など、オリンピック・パラリンピックについての調べ学習と関連付けてテーマを設定することで、自己の考えを効果的に深めさせている。国語科の意見発表会と英語科スピーチ発表会を全学年で実施することで、生徒は二つ以上のテーマで自らの意見を発表することができる。意見発表会を保護者・地域にも公開することで、生徒の意欲、自負が一層高められる。

本事例では主として、「オリンピック精神」「環境」をテーマとしているが、内容によっては「スポーツ」「文化」を取り上げることも可能である。

⑧ 高等学校第2学年 芸術（美術） 「アスリート的美を表現しよう」

I 単元目標

- (1) オリンピック・パラリンピックの映像や写真から、アスリート的美しさや思いを自分なりに感じとるようにする。
- (2) 人体の構造について学び、主題の立体的な形や動きを想像できるようにする。
- (3) 材料の特性を生かして、工夫しながら主題を追求し、表現しようとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 生徒が課題に対して意欲的に取り組めるようにオリンピック・パラリンピックの動画や写真の鑑賞を取り入れる。
- (2) 生徒が体の動かし方や特徴等を見付け出せるように、同年代の選手の活躍する姿の映像を見させるなどの工夫を行う。
- (3) 鑑賞した内容は、できるだけ言葉にして書き出し、自分が作り上げたい物を具体的にイメージさせ、制作の方向性を明確にする。
- (4) 制作を通して、スポーツと自分の関わりを考える時間となるように工夫する。

III 指導と評価の計画（18時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては4時間）

時間	主な学習活動	評価
1～4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツの魅力や人体の動きの美しさを自分なりに感じ取るため、オリンピック・パラリンピック等の動画を鑑賞する。 ○ どのような作品を制作するか方向性を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツの魅力や人体の動きの美しさを感じ取り、進んで制作に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ■ 制作の方向性を決めている 【思考、判断】
5～18	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表現したいスポーツを決定し、作品を制作する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 人体の構造について ② クロッキー ③ 芯の制作 ④ 粘土作業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人体の構造について理解し、主題を決定しようとしているか。【思考・判断】 ■ 材料の特性や道具の使い方を理解し、効果的かつ安全に取り組んでいるか。【知識・理解】

テーマ	×	アクション
スポーツ		学ぶ(知る) 観る

IV 本時の指導（第1時／18時間）

(1) ねらい

動画の鑑賞を通してスポーツの魅力や人体の美しさを感じ取る。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① オリンピック・パラリンピック招致の様子の動画を見る。	◎ 教室にスポーツに関する資料や写真等を準備しておく。 ◎ 課題に取り組む前に鑑賞から感じ取ってほしいことについて説明する。
展開	② ロンドン2012大会のハイライトシーンを鑑賞する。 ・ 興味・関心をもった場面やスポーツについてメモをとる。 ③ 動画から興味・関心をもったスポーツについて自分なりに言葉でまとめ、感じ取った魅力を具体化する。	◎ スポーツの名場面集だけでなく、選手のインタビューシーン等も見せることで、選手自身の声や言葉も聞くことができるようにする。 ◎ 数名の生徒にまとめたことを発表してもらう。 ■ スポーツの魅力や人体の動きの美しさを感じ、進んで制作に取り組もうとしている。 (観察、発表)
まとめ	④ 次回までに、自分の選んだスポーツについて調べ、資料を持参する。	◎ 本時の活動を基に制作の準備をすることを伝え、写真だけでなく、スポーツの成り立ちや特性も調べることでより深く制作のイメージをもつよう働き掛ける。

V 本事例を実施するに当たって

本事例はスポーツのもつ美的価値に着目して行った取組である。資料や映像を基にイメージを十分に作り上げた後に、作品制作を行っている。オリンピック・ムーブメントの3つの柱は、「スポーツ」「文化」「環境」であり、オリンピック・パラリンピックの精神を理解した上で「文化」「環境」をテーマとした作品を制作することもオリンピック・パラリンピック教育として位置付けられる。

今後、東京2020大会に向けて、演劇、音楽、ダンス、美術等の文化プログラムが数多く実施されると、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックに関わるチャンスがある。そうした文化プログラムへの参加を視野に入れた授業を工夫したい。

生徒の学習状況によっては、一つのテーマにしぼって取り組み、互いの意見について話し合う学習も、テーマを深めるために有効である。

スポーツ

⑨ 高等学校第3学年 保健体育 「メンタルトレーニングの基礎」

I 単元目標

オリンピック・パラリンピックは、多くの人や技術に支えられていることを知り、トップアスリートが実施している、メンタルトレーニングの基礎を体験し、自己評価、相互評価を通して未知の自分を発見する。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) トップアスリートが行っている集団で行う行動認知療法的アプローチを体験することでオリンピック・パラリンピアンとの取組を知り、「スポーツ志向」を高める。
- (2) アスリートを支えるスタッフから選手を支えようと思った動機、仕事の様子、大切に思っていることなどを直接聞くことにより、「ボランティアマインド」を醸成する。
- (3) 国立スポーツ科学センター（JISS）のトレーナーの方に、講義と実技指導を依頼する。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準(評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習読本等を活用し、オリンピック・パラリンピックでは多くの人や技術が大会を支えていることを学ぶ。その上で、ナショナルチームを指導している JISS のトレーナーから話を聞く。 ・アスリートを支えようと思った動機 ・アスリートを支えることのやりがい ・メンタルトレーニングの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンタルトレーニングの目的や内容を理解している。 【知識・理解】
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ JISS のトレーナーの指導を受け、ナショナルチームが実施している集団で行う行動認知療法的アプローチを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 集団で行う行動認知療法的アプローチの結果を分析し、未知の自分を発見している。 【思考・判断】

IV 本時の指導（第2時／2時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ		する(体験) 学ぶ(知る)

(1) ねらい

集団で行う行動認知療法的アプローチの結果を分析し、未知の自分を発見できるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① JISS の先生のプロフィールの中でなぜ心理学に携わるようになったか話を聞く。 ・ JISS の先生の心理学のスポーツにおける実際の話聞く。	◎ トップアスリートの指導時間を割いてきてくれている理由を考えるように話す。 ■ JISS の先生の話を中心に聞き、質問しようとしている。（観察）
展 開	② トップアスリートが実施している、集団で行う行動認知療法的アプローチを体験する。 (1) 6人1組のグループで分析シートに記載された25項目から「自分らしい!」と思う項目を五つ選んでチェックする。 (2) 分析シートを自分以外の5人の生徒に回し、自身に対する印象を記載してもらう。 (3) 自身が思い描いている自分と他者から見た自分との比較を行い、自己評価する。 (4) 自己分析と他者の印象が異なる部分が自身未開発の部分となり得ることを学ぶ。	◎ 男女が偏らないようにグルーピングする。 ◎ 他者の記入が見えないように書いた後に用紙を折らせる。 ◎ 記入相手をよく見て、真剣に記入させる。 ■ 相互評価から自身を分析し、未知の自分を発見している。（分析シート）
ま と め	③ 今後、試合やトレーニング、チームスポーツでこれらを活用できることを知る。	◎ 未知の自分を発見できたかを振り返り、今後の生活に活かすように促す。

V 本事例を実施するに当たって

オリンピック・パラリンピックでは、アスリートだけではなく、選手や大会を支える人や技術が大きな役割を果たしていることを理解させることは、「スポーツ志向」を高めるとともに、「ボランティアマインド」を醸成する上でも重要である。この際、本事例のように地域や外部団体と連携し、実際に体験を通して学ぶことは効果的である。

家庭や地域との連携により体験活動の機会を増やしていくことは、子供たちの学びを深めることにもつながり、体験活動を充実していくことが望まれる。

また、今後のオリンピック・パラリンピック教育で蓄積されるノウハウや人的ネットワーク等を発展させていくことにより、継続的な教育活動が可能となる。

⑩ 特別支援学校小学部1・2・3学年 特別活動「ボッチャを通じた学校間交流」

I 交流のねらい

- (1) 地域の小学生との交流を通して、友達を増やし、お互いのことを知り合えるようにする。
- (2) 施設見学を通して、交流小学校児童が特別支援学校を理解できるようにする。
- (3) 車いす体験を通して、障害のある児童を理解できるようにする。

II 交流学習とオリンピック・パラリンピックとの関連について

- (1) 特別支援学校児童が「ボッチャ」に授業で取り組んだり、交流小学校児童とともに取り組んだりすることで生涯にわたってスポーツに親しむようにする。
- (2) 交流小学校児童が、「ボッチャ」を経験することで、パラリンピックスポーツや障害者スポーツへの興味・関心をもつようにする。
- (3) 東京2020大会では、オリンピックだけでなく、パラリンピックも開催されることを理解し、障害者スポーツに興味をもち、理解する契機となるようにする。
- (4) 障害者と健常者が共同で取り組むスポーツを通して、共生社会の実現に貢献する人材を育成する。

III 指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	主な活動内容	評価
1	○ 事前学習（交流校の児童） ・ 校内の見学を通して、特別支援学校について知る。 ・ 車いす体験を通して、障害について理解する。	■ 交流校の児童と意欲的に交流しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ■ 車いす体験を通して、障害を理解している。 【知識・理解】
2	○ プログラム交流 交流校の児童が来校し、運動会・展覧会・文化祭等の行事のプログラムに参加する。	■ 交流校の児童と意欲的に交流しようとしている。 【関心・意欲・態度】
3	○ 作品交流 ・ 文化祭への交流校の児童による作品の出展 ・ 交流校である小学校の展覧会への特別支援学校児童の作品の出展	■ 展覧会への出展に向けて、意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】
4 (本時)	○ 直接交流 パラリンピック競技種目であるボッチャ等を通じた交流の実施	■ 交流校の児童とボッチャを通して、意欲的に交流しようとしている。 【関心・意欲・態度】

IV 本時の指導（第4時／4時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ		する

展開

	児童の活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 交流の始めに当たって ・ 特別支援学校長挨拶 ・ ボッチャについての説明（保健体育科教員）	◎ 特別支援学校の児童と交流校の児童が向かい合って並ぶ。
展 開	② 交流プログラム (1) 挨拶（特別支援学校2年生児童） (2) 児童の紹介 (3) 特別支援学校の発表 ○ 手をつなごう『Handing Hand』 ・ グループごとに集まる ・ 歌に合わせて握手をする (4) ボッチャゲーム ・ 簡易版ボッチャゲームの説明を聞く。 ・ 8グループ4組で対戦をする。 ・ 点数を集計する。 (5) 交流校である小学生の発表（ダンス）	【ボッチャゲームの留意点】 ◎ あらかじめグループ分けをしておく。 ◎ 教員は、両校の児童が握手に限らず、手や肩、腕などに軽く触れるなど、スキンシップを取れるように促す ■ 交流校の児童と意欲的に交流しようとしている。（観察） ◎ ゲームだけではなく、顔を見る、応援する、言葉を掛ける等、児童間の交流を促す。 ◎ 特別支援学校児童の活動の手伝い（ボールを渡すなど）を促す。 ◎ 交流校の小学生は、ボッチャのボールを自由的に投げる。 ◎ 特別支援学校児童が投球する際は、投球台の向きを交流校の小学生が調整するように支援する。 ◎ 得点の集計を交流校児童が行う。
ま と め	③ 交流小学校長の挨拶 ④ 終わりの挨拶（特別支援学校児童）	◎ 継続的な交流ができるように児童に言葉掛けを行う。

スポーツ

V 本事例を実施するに当たって

特別支援学校と小学校との交流を効果的に行っていくためには、子供たちが主体的に交流できるように事前に手紙等のやりとりを通して、両校の関係を構築しておくことが大切である。

また、本交流を「スマイルプロジェクト」に位置付けて、継続的に交流を行い、思いやりの心を育て、障害の有無にかかわらず、子供たちの相互理解を図っていくことも重要である。さらに、保護者等の地域社会にも参加を促すことによって、より交流における教育的効果が上がる。

本事例を参考に高齢者介護施設や障害者施設との交流へと発展させていくことで「東京ユースボランティア」として位置付けることも可能である。

⑪ 特別支援学校高等部第1学年 生活単元学習 「オリンピック・パラリンピック競技種目について」

I 単元の目標

- (1) オリンピック・パラリンピックの目指す精神や競技種目について知る。
- (2) パラリンピックスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさを味わう。
- (3) 友達と協力して、調べたこと、感じたことをまとめ、発表する。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 映像資料やタブレット端末の活用、パラリンピックスポーツの体験等を取り入れ、仲間と楽しさを共感しながらオリンピック・パラリンピックについて学ぶ。
- (2) 知的障害のある生徒の多くは、考え、調べ、発表するという機会をもつことが多くないことから、障害特性に合った配慮をしつつ、生徒が発表する機会を設定する。
- (3) 主体的に知識を獲得する活動を取り入れた学習を進めることで、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。

III 指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	○ 学習教材・映像教材・ICT機器等を活用し、オリンピックの歴史や種目等について理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICT機器を操作できる。【技能】 ■ 関心のある種目を発表している。【思考・判断】
2	○ ICT機器を活用し、パラリンピックの歴史や種目等について調べたり、発表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 種目の違いに気付いている。【知識・理解】 ■ やってみたい種目を発表している。【思考・判断】
3 (本時)	○ ルールを工夫しながら、友達とボッチャを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 用具の特性に気付いている。【知識・理解】 ■ 自分の役割を最後までやり遂げている。【関心・意欲・態度】
4	○ リーダーを中心に役割分担を決め、オリンピック・パラリンピックの競技種目について調べたことを模造紙にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 準備から片付けまで協力して進めている。【関心・意欲・態度】

IV 本時の指導（第3時／4時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ		する(体験) 学ぶ(知る)

(1) ねらい

- ① 友達と話し合い、役割を決めて活動しようとする。
- ② ルール等を工夫し、ボッチャを楽しもうとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 前時の学習を振り返り、本時の流れを知る。	◎ 生徒各自の役割を明確にし、自ら教室環境を整えるようにする。
展 開	② ボッチャの用具に触れる。 ③ 投げ方、試合の進め方を知る。 試合が行える教室環境に整える。 ④ チーム分けと役割分担をする。 1チーム3人から4人のチームに分かれる。 ⑤ チームに分かれ試合をする。 ※ ケンステップの位置により得点数を変え、チームの合計得点で勝敗を決める。 ⑥ 全員が協力して用具を片付ける。	◎ 中・重度の生徒も振り返りが行きやすいように、T2が本時の活動の様子を撮影する。 ◎ 教室環境上、正規の広さでコートが取れない場合、広さを変えて行ってもよいことを伝える。 ◎ リーダーが中心となって役割を決めるように促す。 ◎ 投げる順番等、適宜チームごとの作戦タイムを設定する。 ■ チームリーダー、得点記録係、ボール回収係等の役割を果たしながら活動している。（観察）
ま と め	⑦ 映像を基に振り返りをする。 ⑧ 机配置等、教室環境を元に戻す。 ⑨ 次回の授業についての説明を聞く。	◎ 映像に注目するように、T2、T3が促す。 ◎ 感想が言える生徒には、言葉で表現するように伝える。

準備物

- ・タブレット端末 1台
- ・プロジェクター 1台
- ・ボッチャセット 一式
- ・ケンステップ 5～6個
- ・得点表示用（紙等）

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、ICT機器を活用してオリンピック・パラリンピックについて調べたり、まとめたりする活動とパラリンピック競技種目であるボッチャを体験する活動で構成されている。

生徒の実態に応じて、学習読本や映像教材を活用して、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を学習した上で、一人一人の興味・関心に応じた課題解決学習に取り組むことが有効である。

また、「スマイルプロジェクト」としても位置付けることも可能であり、この取組を、小・中・高校と特別支援学校等との交流へと発展させていきたい。

(3) 文化

① 小学校第6学年 図画工作 「ぼくらの浮世絵を作り上げよう」

I 単元の目標

- (1) 日本の伝統芸術である浮世絵について理解を深め、一版多色木版に意欲的に表そうとする。
- (2) 表したいことに合うように技法を工夫して彫ったり刷ったりしながら、線や色の調子、重なりを確かめて、一版多色木版に表そうとする。
- (3) 浮世絵の表し方の特徴や良さを感じ取り、我が国の伝統文化芸術を発信する態度と能力を身に付けようとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

次の手だてにより、児童の日本の伝統芸術への理解を深め、海外の方々との交流に生かしていく。

(1) 浮世絵の活用

日本を代表する伝統芸術であり、その価値は国内よりも海外で価値を認められている浮世絵を扱うことで、日本の伝統芸術に対する理解を深める。

(2) 導入における鑑賞

本単元の始めに浮世絵の鑑賞を行うことで、技法について理解するとともに、児童の制作への興味・関心を高める。

(3) 児童同士の交流

制作した作品の鑑賞を通して、児童同士で工夫した点を発信し、作品のよさを伝え合うことで、作品のよさを知る。

III 指導と評価の計画（6時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては2時間）

時間	主な学習活動	評価
1・2	<ul style="list-style-type: none">浮世絵を鑑賞し、浮世絵が海外で高く評価されていることや、平成31(2019)年度からパスポートへの導入を目指していることを知り、世界ともだちプロジェクトで交流する時にプレゼントしようという気持ちをもつ。一版多色木版での表し方を理解し、表したい絵を選んで下絵を描く。	<ul style="list-style-type: none">制作手順を理解し、一版多色木版に進んで表そうとしている。 【関心・意欲・態度】
3・4	<ul style="list-style-type: none">下絵に沿って、線の太さを工夫して彫る。(黒い用紙に刷るため、黒くしたい部分を彫る。)	<ul style="list-style-type: none">自分の表したいことに合うように、彫る線の太さを工夫している。 【思考・判断】
5・6 (本時)	<ul style="list-style-type: none">彫った版木に色をおいて刷っていく。効果的な色の組合せを考えて絵の具の濃さや配色を工夫して刷る。できた作品を友達と互いに鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none">絵の具の濃さや配色を工夫して刷っている。 【技能】作品を見せ合いながら表したかったことなどについて話し合い、表し方の特徴やよさを感じ取っている。 【思考・判断】

テーマ	×	アクション
文化		する(体験)

IV 本時の指導(第5・6時/6時間)

(1) ねらい

- ① 自分の表したいことが表現できるよう、絵の具の濃さ、配色について工夫して刷ることができるようにする。
- ② 作品を見せ合いながら、表したかったことなどについて話し合い、表し方の特徴やよさを感じられるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準(評価方法)
導入	① 浮世絵が使用されたパスポートのデザインを見て、日本のよさを大切にしようという気持ちをもつ。	◎ 次期パスポートの基本デザインに使用する浮世絵の画像を提示し、東京2020大会に向けて外国人と交流する際に見せようと話し、意欲を高める。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">絵の具の濃さや組合せを工夫して刷ろう。</div> ② 面ごとに版木に色を置いて刷っていく。 ③ 同じ面にも何回か色を重ね、色合いを確かめながら刷る。 ④ 刷り上がった作品を掲示し、お互いに作品を見合う。 ⑤ 自分が工夫した点を発表したり、友達の作品のよさを伝えたりする。	◎ 彫った線で区切られた面ごとに版木に色を付け、一色ずつ刷っていくことを説明する。 ◎ 何度も刷り重ねるため、黒い版画用紙がずれないように版木の上部に貼ってから刷るとよいことを伝える。 ■ 絵の具の濃さや配色を工夫して刷っている。(観察)
まとめ	⑥ 学習を振り返り、伝統文化である浮世絵を制作した感想を伝え合う。	◎ オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の文化を発信していけるよう意欲をもたせる。

文化

V 本事例を実施するに当たって

本実践は、本来は多版多色刷り木版である浮世絵を、黒い用紙に色をのせていく一版多色木版で製作することで、小学生でも無理なく制作することができるようにしている。また、下絵は葛飾北斎の作品を基にしながら、配色については児童の発想を生かせるよう原画とは異なってもよいことにしたため、意外性のある作品を制作することができよう工夫をしている。

「文化」をテーマにした学習の中で、オリンピック・パラリンピックとの関連を明確にして日本の伝統・文化を学び、他国へ発信する態度を養うことは、重点的に育成する5つの資質の「日本人としての自覚と誇り」にも結び付く。この際、海外の作品も取り上げ、そのよさにも気付かせるなど、海外の文化に目を向けさせることで「世界ともだちプロジェクト」に発展させることができる効果的な取組である。

② 小学校第6学年 音楽 「オリンピック・パラリンピックのマーチを作ろう」

I 単元目標

- (1) 東京 2020 大会への興味・関心を高め、国際理解を深めようとする。
- (2) マーチ作りを通して、地域の良さや魅力を再発見する。
- (3) 作詞活動や作曲活動を通して、豊かな表現力を育む。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) オリンピック・パラリンピック学習の教科横断的な取り上げ方
 本単元を実施する前に総合的な学習の時間にオリンピック・パラリンピックの歴史に関してクイズを通して学んだり、体育で陸上競技の世界記録を実際に体感したりすることで、オリンピック・パラリンピックへの理解を深める。
- (2) 外部人材の活用
 作曲について専門性の高い方に、外部講師として授業に参加していただく。長野オリンピックの開会式に使われた入場行進マーチがどのように作られたのか、どのような思いが込められているのかを知ること、自分たちのマーチ作りに生かしていく。
- (3) 作詞活動における視点の明確化
 作詞活動を行うに当たり、「自分の住んでいる地域」「世界」「オリンピック・パラリンピック」三つの視点から言葉を集めた。視点を明確にすることで、「地域から世界へ、そして世界のつながりへ」という意識を高めていく。

III 指導と評価の計画（7時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては2時間）

時間	主な学習活動	評価
1～2	○ マーチの歌詞を考える。自分の住んでいる地域、世界、オリンピック・パラリンピックに関する言葉を集める。	・ 三つの視点に沿った言葉を集めている。 【関心・意欲・態度】
3～4	○ 前時までに集めた言葉から連想される音やリズムの言葉を集める。	・ 三つの視点に沿った音やリズムの言葉を集めている。 【関心・意欲・態度】
5～6 (本時)	○ 外部講師の指導を受け、完成した歌詞にメロディーをつける。歌詞のイメージに合わせて音の強弱や高低、リズム等を考える。	・ 歌詞からイメージしたことを基にメロディーを考えている。 【思考・判断】
7	○ 完成した曲を全員で歌う。	・ オリンピック・パラリンピックへの思いを大切にしながら歌っている。 【技能】

テーマ	×	アクション
文化 オリンピック・パラリンピックの精神		する(体験)

IV 本時の指導（第5時／7時間）

(1) ねらい

オリンピック・パラリンピックマーチの歌詞に合うメロディーを考えようとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 前時までの学習を振り返り、完成した歌詞を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> オリンピック・パラリンピックマーチの歌詞にメロディーを付けよう。 </div>	◎ 自分たちで集めた言葉が歌詞になっているという達成感をもてるようにする。
展 開	② 歌詞を声に出しながら、イメージに合う音やリズムを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の高い、低い ・ 音の強い、弱い ・ テンポの速い、遅い ・ 繰り返しのあり、なし ③ 本時で考えたメロディーに合わせて、オリンピック・パラリンピックマーチを歌う。	◎ 歌詞から受けるイメージを随時、児童に確認しながら作曲作業を進められるようにする。 ◎ 外部講師が、児童の考えた音をその場で楽譜に書いていく。
ま と め	④ 本時の学習を振り返る。	◎ 本時の学習を通して、思ったことや気付いたことを書くように言葉を掛ける。 ■ オリンピック・パラリンピックマーチの歌詞に合うメロディーを考えている。 (発言・ワークシート)



V 本事例を実施するに当たって

本実践は、小学校においてオリンピック・パラリンピックマーチのメロディを考える学習であり、オリンピック精神を歌詞に取り入れながら、作曲していることから、「文化」のテーマとして位置付けている。

中学校・高等学校版の学習読本には、「オリンピック賛歌」が掲載してある。本事例の発展型として、オリンピックの歴史や「オリンピック賛歌」が継承されてきた経緯を学びながら、実際に音楽の時間等に歌ってみる場合は、「オリンピック・パラリンピックの精神」として位置付けられる。また、海外の音楽へと目を向ければ「文化」あるいは「世界ともだちプロジェクト」にもつながる学習であり、本事例から工夫、発展させる様々な取組が考えられる。

③ 小学校第6学年 総合的な学習の時間 「茶道体験をしよう」

I 単元目標

- (1) 地域の茶道の専門家から指導を受けることで、日本の文化のよさを、体験を通して学ぶことができるようにする。
- (2) JET 青年との交流を行い、日本の文化を伝えるとともに、外国人の視点から話を聞くことによって、日本の文化のよさを改めて学ぶことができるようにする。
- (3) JET 青年から、その国に関する伝統的な文化を学び、他国の文化に関心をもてるようにする。



II 本単元（題材）とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) テーマ「文化」を取り上げ、4つのアクションを取り入れた授業内容とする。
- (2) 重点的に育成すべき5つの資質の中で、「ボランティアマインド」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の3つを踏まえ、特に茶道体験から「ボランティアマインド」につながる「おもてなし」の精神を学ぶ。
- (3) 「東京ユースボランティア」として位置付け、茶道体験等、主に高齢者が守っている伝統・文化を継承していく仕組みを作っていく。また、JET 青年との交流を通じ、「世界ともだちプロジェクト」を進めていくための発展的な交流活動を実施していく。

III 指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶道についての歴史や習わしについて知る。 ○ JET 青年の国について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 茶道やJET青年の国の文化について興味をもって学ぼうとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
2・3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶道について講師から指導を受け、体験をする。 ○ JET 青年との交流する機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 茶道体験を通じて日本の伝統・文化のよさを知る。 【知識・理解】 ■ 外国の方が感じている日本の文化についての思いや考えを知る。 <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶道体験から日本の伝統・文化のよさについて話し合う。 ○ 国際理解の必要性について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の伝統・文化のよさや国際理解の必要性について自分の考えをもつ。 <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p>

IV 本時の指導（第2・3時／4時間）

テーマ	×	アクション
文化		する(体験・交流)

(1) ねらい

- ① 茶道体験を通して、日本の伝統・文化のよさを知る。
- ② JET 青年に日本の伝統・文化のよさを伝えるとともに、外国の方が感じている日本の伝統・文化についての思いや考えを知る。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 学習課題を知る JET 青年と一緒に日本の伝統・文化の良さを体験しよう	◎ 畳ルームで実施するため、正座の仕方等を事前に伝えておく。
	② 講師の方から茶道についての歴史や作法等について、講義を受ける。 ③ JET 青年から自己紹介とともに、日本の伝統・文化についての思いを話してもらう。	■ 外国の方が感じている日本の伝統・文化についての思いや考えを知る。（観察）
展 開	④ 講師の方から茶道の作法を学び、体験する。 ・ お椀の持ち方 ・ お茶の飲み方 ・ お礼の仕方 ・ お菓子の食べ方	◎ 講師の方々からの指導を、児童に適切に伝える。
ま と め	⑤ 茶道体験の感想を発表する。 ⑥ JET 青年からの感想を聞き、それを踏まえて児童から感想を発表する。	◎ 感想を発表する前に今日の学習課題を踏まえて考える時間をとる。 ■ 茶道体験を通して、日本の伝統・文化のよさを知っている。（観察）

文化

V 本事例を実施するに当たって

本実践は、総合的な学習の時間で、「文化」をテーマとして、4つのアクションを網羅し、日本の伝統文化について幅広く授業を展開したものである。

このような幅広い学習は、重点的に育成すべき5つの資質の中でも、日本人としての自覚と誇りの涵養だけでなく、ボランティアマインドや豊かな国際感覚等の醸成にもつながる貴重な経験となり得る。

さらには、この事例を基にして体験活動を重視し、「東京ユースボランティア」として位置付け、主に高齢者が守っている伝統・文化を継承していく仕組みを作る取組や「世界ともだちプロジェクト」として位置付け、外国人との交流を通じ、お互いの文化についての理解を深める取組を進めるなど、学習を更に発展させていくことも可能である。

④ 中学校第2学年 技術・家庭科（家庭分野）「和服の文化と世界の民族衣装について知ろう」

I 単元の目標

- (1) 和服と洋服の構成や裁ち方、縫製の違いに気付き、衣文化について関心をもつようにする。
- (2) 地域の専門家から、和服の歴史、種類、各部の名称、畳み方などを学ぶとともに、実際に浴衣を着用することを通して、和服のよさについて理解できるようにする。
- (3) 和服についての理解を深め、伝統・文化を継承する意欲をもつとともに、他国の民族衣装を調べることで、それぞれの風土に根差した衣文化に対する関心を高めるようにする。



II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 四季に恵まれた日本の自然や日本人の生活様式によって育まれてきた和服について学習し、和服の歴史や洋服との相違など基礎的な知識を身に付けることで、日本を訪れた外国人に和服のよさについて紹介ができるようにする。
- (2) 「世界ともだちプロジェクト」と関連付け、本校の対象国の民族衣装を調べ、染色や織り、デザイン、機能について知ること、他国の衣文化への理解を深め、世界の文化の多様性を受容する力を身に付ける。
- (3) 和服のリペア、リフォーム、リメイクの考え方、何度でも使える風呂敷のよさに触れることで、地球環境への配慮について気付く。

III 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	○ 和服と洋服の構成や機能の違いについて知る。	■ 和服と洋服の構成や裁ち方、縫製の違いについて理解している。 【知識・理解】
2 (本時)	○ 浴衣を着るときに必要な道具（帯・帯板・ひも）を知り、浴衣を着たり、畳んだりする。 ○ 浴衣を風呂敷で包む。	■ 浴衣を一人で着たり、浴衣を折り目正しく縫い目に沿って、畳むことができる。 【技能】 ■ 和服に関心を持ち、外国人に紹介しようとしている。 【関心・意欲・態度】
3	○ 世界の民族衣装について調べ、和服との類似点や相違点について気付く。	■ 風土や文化に根差したそれぞれの民族衣装の良さについて理解している。 【知識・理解】

テーマ	×	アクション
文化		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第2時／3時間）

(1) ねらい

- ① 浴衣を一人で着たり、浴衣を折り目正しく畳むことができるようにする。
- ② 和服に関心を持ち、外国人に紹介できるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 一年（一生）を通して、どのような時に和服を着るのか考え、発表し合う。 ② 和服と洋服の違いについて気付く。	◎ 世界の民族衣装を写真等で提示し、和服への関心を高める。 ◎ 七五三や成人式など、人生の節目の行事を思い起こさせる。
展 開	③ 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">和服の良さを知り、一人で着られるようになるう。</div> ④ 浴衣の各部の名称や構成を知る。 ⑤ 浴衣の着方について学び、実際に着たり、畳んだりする。 ⑥ 風呂敷で浴衣を包む。	◎ 浴衣、標準服、体育着を提示することで、和服と洋服の違いに気付かせる。 ◎ 5人から6人程度のグループに分かれ、班ごとにゲストティーチャーが指導する。 ◎ 男性と女性の着方の違いに気付かせる。 ◎ 浴衣を畳む過程から、和服は平面構成であることに気付かせ、その利点について考えさせる。 ■ 浴衣を一人で着たり、浴衣を折り目正しく縫い目に沿って、畳むことができる。
ま と め	⑦ 学習を振り返り、自分の生活の中で、和服を生かせる場面を考える。	◎ 「世界ともだちプロジェクト」等、外国人との交流活動にも、浴衣が生かせることに気付かせる。 ■ 和服に関心をもち、外国人に紹介しようとしている。 （感想）

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、ゲストティーチャーとして、地元の和裁士や着付の講師を招き、専門的な指導を受けることで、体験活動の充実を図っている。また、浴衣を包む風呂敷の役割や使い方についても説明することで、日本の伝統・文化である「環境に優しい風呂敷」のよさについても学ぶことができるようにしており、「環境」をテーマとした学習でもある。

第3時には「世界ともだちプロジェクト」の対象国の民族衣装を調べ、他国の衣文化への理解を深めており、世界の文化の多様性を理解する学習となっている。



⑤ 高等学校第1学年 外国語（英語）

「日本の伝統・文化を英語で発信しよう～英語落語を通して～」

I 単元の目標

- (1) 英語落語を通して、言語や文化に対する理解を深めようとする。
- (2) 英語落語の発表を通して、他者の考えを的確に理解したり、自己の考えを適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 古典芸能である落語を通して、日本の伝統・文化である古典芸能の落語を学ぶ。
- (2) 東京 2020 大会の開催を踏まえ、東京には外国からの訪問客が増加することが予想され、英語での交流がますます重要となってくる。日本の伝統・文化である落語を理解し、その落語を英語で他者に適切に伝えられるようにする。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語落語の教材を活用して、生徒各自が英語落語を作成する。 ○ 各自が作成した英語落語を、グループ内で発表する。 ○ 学級内での代表生徒を選ぶ。 ○ 内容を添削してもらい、学年全体での発表に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 伝統・文化である落語を外国語で表現しようとしている。 【思考・判断】 ■ 英語落語を通して、自分の考えをグループ内で伝えている。 【思考・判断】
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロの英語落語家を招聘し、学年全体で英語落語の世界を体験する。 ○ 各学級代表生徒が高座に上がり、落語を披露し、英語落語家の方から講評を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語落語の内容を理解している。 【知識・理解】 ■ 英語で自分の考え方を伝えることの大切さを理解し、英語で日本の伝統・文化を発信しようとしている。 【関心・意欲・態度】

テーマ	×	アクション
文化		する

IV 本時の指導（第2時／2時間）

(1) ねらい

- ① プロの英語落語家の発表を通して、日本の伝統・文化を理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。
- ② 英語で日本の伝統・文化を発信しようとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① プロの英語落語家の経歴を知る。	◎ 興味・関心を高めるために、講演前に英語落語家の経歴等を紹介する。
展 開	② プロの英語落語家から海外公演の様子についての話を聞く。 ③ プロの英語落語を鑑賞する。 ④ 代表生徒の英語落語を鑑賞する。 ⑤ プロの英語落語家からの講評を聞く。 ⑥ 本時の感想を書く。	◎ 日本語での落語と同様に座布団を用意するなど環境を整える。 ■ 英語落語の内容を理解している。 (観察) ■ 代表生徒の英語落語を理解している。 (観察) ◎ 事前にプロの英語落語家に各クラスの取組状況等を伝える。 ■ 英語で自分の考えを伝えることの大切さを理解し、英語で日本の伝統・文化を発信しようとしている。 (感想)
ま と め	⑦ 代表生徒による御礼のことば	

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、日本の伝統・文化と国際理解の学習の両側面から取り組んだ事例である。「文化」をテーマにした学習では、落語を日本の伝統・文化として位置付け、JET青年を活用することで国際交流と関連付けて日本文化を発信していく力を養うものである。

また、本事例を「世界ともだちプロジェクト」に位置付け、取り組んだ英語落語を近隣の留学生や外国人に披露する場を設定することでさらに効果的な取組となる。



⑥ ろう学校中学部第2学年 総合的な学習の時間

「日本の伝統・文化、茶道を体験しよう」

I 単元の目標

- (1) 茶道の学習を通して、日本の伝統的な礼儀作法やもてなしの心などを学ぶようにする。
- (2) 日本の伝統文化に興味をもち、自ら調べ学ぼうとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 東京 2020 大会の開催に向けて、茶道の体験を通して、日本独自の礼儀作法やもてなしの心を学び、日本の伝統・文化について考える機会とする。
- (2) 日本の伝統・文化に触れることで、日本人としての誇りを育てるとともに、東京 2020 大会の際には、スポーツに関心をもち観戦・応援するとともに、他国にも興味をもって観戦できる態度を養うようにする。
- (3) 生徒が「外国人が日本で体験したいランキング」を調べたところ、茶道体験が上位に入っていた。そのため、単元の導入において、「オリンピック・パラリンピックで日本に海外からたくさんのお客さんが訪れるに当たり、日本が誇る伝統・文化について調べよう」とテーマを設定した。

III 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none">○ 日本の伝統・文化について調べたことを発表する。○ 茶道の基本的なことについて調べる。○ 茶道体験学習の講師の先生への質問を考える。	<ul style="list-style-type: none">■ 日本の伝統・文化に関心をもち、積極的に親しもうとしている。 【関心・意欲・態度】
2 ・ 3 (本時)	<ul style="list-style-type: none">○ 茶道体験をする。○ お運び、お客様、亭主（点前）の三役を交代しながら体験する。	<ul style="list-style-type: none">■ お茶のたて方、お茶やお菓子の出し方や頂き方に、相手を思いやる気持ちや敬う気持ち、感謝する気持ちを込めて取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】

IV 本時の指導（第2・3時／3時間）

テーマ	×	アクション
文化		する

(1) ねらい

- ① 茶道体験を通して、日本の伝統的な礼儀作法を理解できるようにする。
- ② 相手を思いやり、敬う気持ちを今後の生活に生かそうとする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	<ol style="list-style-type: none"> ① 挨拶、講師の紹介を聞く。 ② 本時の流れを知る。 	<p>◎ 本時の流れと、体験の中で使う茶道の主な道具についてプレゼンテーションソフトを活用して、簡単な説明をする。</p> <p>■ 茶道に興味・関心をもち、積極的に参加しようとしている。 (観察)</p>
展開	<ol style="list-style-type: none"> ③ 講師の先生が亭主（点前）、教員がお客様となつてのデモンストレーションを見学する。 ④ お運び、お客様、亭主（点前）の3グループに分かれ、ローテーションして全てを体験する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) お菓子を水屋よりお運びが運ぶ。 (運び方の説明を聞く。)【お運びグループ】 (2) お菓子の頂き方を聞く。【お客様】 (3) 茶碗を受け取り、抹茶の点て方の説明を聞く。【点前グループ】 (4) 抹茶を実際に点てる。【点前グループ】 (5) お茶をお客様に運ぶ。【お運びグループ】 (6) 抹茶の頂き方の説明を聞く。 【お客様グループ】 (7) 抹茶を頂く。【お客様グループ】 (8) 茶碗を下げる。【お運びグループ】 ⑤ 茶道講師への質問タイム 	<p>◎ デモンストレーションでは、毛せんの上に正座をし、本来の作法を見せる。生徒の体験では、足が痛くなることによる抵抗をなくすために、机と椅子を使用する。</p> <p>◎ 背筋を伸ばし、正しい座り方の姿勢を保ち、心を落ち着かせるよう言葉掛けする。</p> <p>◎ 電子教材や手話通訳を活用し、講師の話や指導についての生徒の理解を援助する。</p> <p>◎ 生徒が理解できるように講師の先生のお話を教員が手話通訳する。</p> <p>■ 日本の伝統的な礼儀作法を理解している。 (観察)</p>
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> ⑥ 感想を発表する。 ⑦ お礼と挨拶 	<p>■ 相手を思いやり、敬う気持ちを今後の生活に生かそうとしている。 (感想)</p>



V 本事例を実施するに当たって

本事例は事前に、日本の伝統・文化について調べ学習を行い、茶道についての知識も得た上で、体験学習を設定している。体験学習を実施する際は、生徒の学びを深めるため、事前・事後の学習が重要である。特別支援学校の生徒の特性を考慮して、ICT機器を活用することで、より効果的な学習を促すことできる。

今回の茶道体験を日本の伝統・文化の紹介として、地域の留学生や外国人との交流に結び付けることによって、「世界ともだちプロジェクト」に位置付けて世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解することにつなげることも可能である。

⑦ 小学校第6学年 総合的な学習の時間 「韓国と Web 交流をしよう」

I 単元の目標

- (1) グループの仲間と関わりながら調べ、我が国の文化について知ろうとする。
- (2) 調べたことや体験したことを韓国の交流小学校の児童に分かり易く伝えようとする。
- (3) 韓国の文化について知り、国際的な理解を深めようとする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 我が国の文化等を調べる活動を通して、日本の伝統文化について学んだり、日本人としての規範意識を高めたりする。
- (2) 韓国の小学校との交流の際に、「I like ○○」「Japan is ○○」といった簡単な英語で思いや考えを伝える。一文ではあるが、英語で伝えることにより、英語力を高めるとともに、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める。
- (3) 日本と韓国の文化の違いや共通点を見出させることで、世界の多様性を受け入れる力を高める。

III 指導と評価の計画（9時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1 2	○ 韓国の小学校と Web 交流をすることを 知り、計画を立てる。 ○ 我が国の文化について話し合い、テーマ設 定をする。	■ 我が国の文化について、自分の興味や関心を 基に、課題を設定している。 【関心・意欲・態度】
3 4	○ 決定したテーマについて、図書資料やイン ターネット資料で調べたり、取材活動をし たりする。	■ 課題を解決するために計画を立て、見通しを もちながら追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ■ 仲間と協力して、調査や取材活動をしている。 【関心・意欲・態度】
5 6	○ 調査した内容を分かり易くまとめ、グルー プの仲間で紹介し合う。	■ 活動を振り返り、自分や友達の良さに気付い ている。 【知識・理解】 ■ 仲間に調査内容や分かったことを伝えてい る。 【思考・判断】
7	○ 伝えたいことの中から一文を英語にし、発 表の練習をする。	■ 調査内容や伝えたいことを分かりやすく伝え ようと工夫している。 【思考・判断】
8 (本時)	○ 韓国の小学校の児童に日本の文化を伝え るとともに、韓国の文化を知る。	■ 我が国の文化について絵や文章、英語、韓国 語等で分かりやすく表現している。 【知識・理解】 ■ 韓国の文化について知り、我が国の文化との 違いや共通点を見つけている。 【知識・理解】
9	○ Web 交流を通して考えたことをまとめ たり、仲間に伝え合ったりして、自分の考え を深める。	■ Web 交流で感じたことや学んだことを伝え 合い、考えを深めている。 【思考・判断】

IV 本時の指導（第8時／9時間）

テーマ	×	アクション
文化		する(交流)

(1) ねらい

- ・ 我が国の文化について調べたことや考えたことを伝えることができるようにする。
- ・ 韓国の文化について知り、自国の文化との違いや共通点を見付けることができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 調べたことを分かりやすく伝えよう。 日本との違いや同じところを意識して聞こう。 </div> ② 全員で挨拶をする。 「アニョハセヨ！」（おはようございます） 「チョアハ ヌンコツ〇〇」（好きなこと） 「チョアハ ムルゴン〇〇」（好きなもの）	◎ 学習が始まる前にWebカメラやマイク、回線のテストを行い、スムーズに学習が始められるようにする。
展開	③ 日本グループから発表を開始する。 ◎ 日本の文化等について、絵や文章で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツグループ①（バスケットボール、ダンス） ・ スポーツグループ②（バレエ、テニス） ・ スポーツグループ③（野球） ・ スポーツグループ④（サッカー） ・ アニメグループ ・ テレビゲームグループ ・ ソーインググループ ④ 韓国の児童から質問を受ける。 ⑤ 韓国の発表を聞く。 ⑥ 韓国の児童へ質問をする。	◎ 具体物を見せたり、説明したりする場合は、相手が見易い位置を考慮するように声を掛ける。 ◎ マイクとの距離が適切になるよう指導する。 ◎ 日本語で話をする場合は現地の通訳に訳してもらうよう依頼する。 ■ 日本の文化について絵や文章、英語、韓国語等で分かりやすく表現している。 （行動分析、記録分析）
まとめ	⑦ 終わりの挨拶をする。 全員で挨拶をする。 「See you again！」	◎ 必要に応じてメモを取らせる。 ■ 韓国の文化について知り、日本の文化との違いや共通点を見付けている。 （記録分析） ◎ 分からなかったところや更に聞きたいことなどを質問させる。

V 本事例を実施するに当たって

「世界ともだちプロジェクト」の目的は、世界の国の様々な人種や言語、文化等を学ぶことを通して、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解することである。

まずは、調べ学習で、大会参加国・地域の基本情報を幅広く学ぶ。その上で、本事例のように、可能な限り実際の交流へと進化させていくことを目指している。

その際、本事例のように、これまで地域や学校が築いてきた姉妹都市や姉妹校等のつながりを生かして展開することが有効である。また、直接交流だけではなく、ICT機器を活用したWebによる交流は、交流の幅を広げ、多くの国との交流を可能とする手段として、非常に効果的である。

⑧ 高等学校第1学年 総合的な学習の時間（ホームルーム活動）「参加国・地域を調べよう」

I 題材の目標

- (1) オリンピック・パラリンピックに参加する国と地域について調べ学習を行い、理解を深めるようにする。
- (2) グループごとにテーマを話し合い、調べることでお互いに意見交換をしたり、調べたりする学習のスキルを身に付けるようにする。



II 本単元（題材）とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 「オリンピック・パラリンピックと国際理解」というタイトルでワークシートを作成する。
- (2) 日本と参加国・地域との比較を行う。比較項目の中に各国・地域で積極的に取り組まれている競技や文化、芸術などの項目を盛り込む。
- (3) 各グループで調べる国・地域別の深めるテーマとしてオリンピック・パラリンピックに関することや国内での社会問題、人気のあるスポーツのことなどを盛り込む。
- (4) オリンピック・パラリンピック競技大会の開会式等を連想できるように、各国・地域の国旗を描いたり、国歌を調べたりできるようワークシートを工夫する。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級ごとに調べる国・地域を決定する。 ○ グループごとにワークシートで日本とその国地域の比較を行う。 ○ グループごとに深めるテーマについて、更に話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループでの話し合い活動を通して、話し合いのルールを身に付けている。 【知識・理解】 ■ 参加国・地域に対する理解を深めている。 【知識・理解】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで決めたテーマについて調べる。 ○ 比較した項目や国旗、深めたテーマを取り入れ、グループごとに模造紙を活用して発表を行う。 ○ 発表について、互いに評価する。 ○ 各グループの発表について、意見を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各グループで模造紙を活用した発表をしている。 【知識・理解】 ■ 各グループの発表について、意見を言っている。 【関心・意欲・態度】

テーマ	×	アクション
文化		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第1時／2時間）

(1) ねらい

- ① 日本と参加国・地域とを比較することで様々な国・地域に対する理解を深めるようにする。
- ② グループでの話し合い活動を通して、話し合いのルールを身に付けるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① オリンピック・パラリンピックの参加国・地域の中から調べる国を選ぶ。 ② グループ内での役割を分担する。	◎ 候補の国は、事前に用意しておく。 ◎ 国選びの参考となるように各国の国旗などを提示する。
展 開	③ ワークシートを記入する。 →項目ごとに日本とその国を比較する。 <主な項目> 人口、首都、国旗、通貨、芸術、人気のあるスポーツなど ④ ワークシート記入後に深めるテーマについてグループごとに話し合う。 →各国の社会情勢やオリンピックとの関連などについて触れながらテーマを選ぶ。	◎ 班ごとに調べることで記入できない生徒などが出ないように進めていく。 ◎ 各国・地域を調べることができるようにPC室やタブレットPCなどのインターネット環境を用意する。 ■ 日本と参加国・地域とを比較することで、様々な国・地域に対する理解を深めている。 (ワークシート) ◎ 最新の社会情勢の情報を提示することで深めるテーマ決めに支援する。
ま と め	⑤ 模造紙を活用した発表に向けた準備をする。まとめる。 ⑥ 深めるテーマの調べ方を決めておく。	■ 深めるテーマについての話し合い活動を通して、話し合いのルールを身に付けている。(観察)

文化

V 本事例を実施するに当たって

本事例は総合的な学習の時間において学年全体で取り組んだ例である。「様々な国々を学習することをきっかけとして国際理解教育を学校全体で取り組む活動へと広げていくことが重要である。今後は世界のともだちプロジェクトとして調べ学習とともに、留学生や大使館との交流等、実際の交流へと深化させていく活動につなげていきたい。

ワークシートの工夫や図書館との連携により、調べ学習の効果がより一層期待できることから、学校でチームを立ち上げ、内容について組織的に検討を行うことが大切である。

(4)環境

① 小学校第5学年 総合的な学習の時間 「見つめよう環境問題」

I 単元の目標

- (1) 課題解決に向けて、グループごとにお互いが意見を交流し、考えを広げることができるようにする。
- (2) 環境問題の原因を知り、環境問題に対する社会の取組を調べるとともに、自分たちができることを考え、実行できるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) オリンピック・パラリンピック開催国を含めた世界の様々な地域で起こっている環境問題や、それらの環境問題に関連して起きている事象について取り上げる。
- (2) 自分たちの将来と環境問題を結び付けて、東京 2020 大会を機に、持続可能な社会を実現するために自分たちができる対応策（プロジェクト）を考え、実行する。
- (3) 学習したことを他学年の児童や家庭（保護者）、地域に発表することを通して、自分たちだけでなく、より多くの人と協働的に環境保全活動に取り組む。

III 指導と評価の計画（16時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては4時間）

時間	主な学習活動	評価
2	○ 資料映像や体験活動を通して、オリンピック・パラリンピック開催国を含めた世界の環境に目を向ける。	■ 自分の問題として、環境問題を捉えている。 【関心・意欲・態度】
6	○ 追究したい課題を設定する。 ○ 世界の環境問題や東京 2020 大会で計画されている環境への配慮について調べる。 ○ 調べた内容を学級内で共有し、意見交流する。	■ 課題を明確にすることができる。 【知識・理解】 ■ 課題解決のために情報を収集したり選択したりすることができる。 【思考・判断】 ■ 発表内容に沿った意見交流をすることができる。 【思考・判断】
6 (本時)	○ 環境保全のために自分たちができる対応策を考え、実行する。 ○ 他学年の児童や保護者、地域に対応策を発信する。	■ 多面的に考え、根拠を示しながら話し合うことができる。 【思考・判断】 ■ 相手や内容に応じた発表方法で伝えることができる。 【知識・理解】
2	○ 行動の振り返りをし、新たな課題について考える。	■ 自己の生き方を考え、新たな問題について考えることができる。 【思考・判断】

テーマ	×	アクション
環境		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第14時／16時間）

(1) ねらい

東京 2020 大会以降の「東京の未来」を考え、より良い環境を作っていくために、自分たちにできることを考える。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① オリンピック・パラリンピック開催国・地域で行われた環境保護活動を確認し、これまでの学習を振り返る。	◎ オリンピック・パラリンピックでも環境保護を重視していることを確認する。
展 開	② 本時の学習活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 東京の未来の環境をよりよくするために、自分たちができることを考えよう </div> ③ 自分たちにできる環境に優しい行動について、グループごとに提案する。 ④ グループの提案を聞き、意見交換をする。 ⑤ 話し合いを受けて、グループで再検討する。	◎ 2つの視点（①実際に行動可能か、②本当に環境に優しいのか）に沿うように意識させる。 ◎ 各グループの提案内容が2つの視点に沿っているかを考えながら聞くように伝える。 ■ 東京 2020 大会以降の「東京の未来」をより良い環境にするためにできることを多面的に考えている。（観察） ◎ 二つの視点を再確認し、環境に優しい行動について考え直させる。
ま と め	⑥ 本時を振り返る。	◎ 振り返りの視点をもって、自己評価を行う。

環境

V 本事例を実施するに当たって

近年、国際オリンピック委員会は、環境保全を重視し、その徹底を図る取組等を推進している。また、ユネスコにおいては、将来にわたって安心して生活できる持続可能な開発のための教育(ESD)を提唱している。

こうしたことから、本実践のように、総合的な学習の時間で、東京 2020 大会時の環境に対する工夫した取組を学ぶとともに、将来にわたって「自分たちに何ができるか」を考えさせることは、有効である。

また、持続可能な社会を作るために、考えた対応策を実行するとともに、環境保全のための社会や企業の取組を学び、それらを家庭、地域へも発信し、協働的に取り組むようにすることが大切である。

本事例のように長時間かけて実施する場合には、オリンピック・パラリンピック教育との関連を明確にし、オリンピック・パラリンピック教育に位置付ける時間数を共通理解しておく必要がある。

② 高等学校第3学年 生物基礎 「五大陸の自然と生物」

I 単元の目標

- (1) 中学校で学んだオリンピックのシンボルマークの意味の理解をさらに深めるため、各国の友好のシンボルであるオリンピックシンボルにちなんで地球を五大陸に分け、それぞれの自然と生物相の違いを学習し、気候や生物進化の過程によって大陸毎の生物相が違うことを理解できるようにする。
- (2) オリンピック・パラリンピック参加国・地域の自然や生物相を調べることで諸外国に対しての興味・関心を高める。
- (3) 学習したことがらを文化祭でポスター発表し、文化祭来場者に分かり易く伝えることができるようにする。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 中学校で学んだオリンピックのシンボルマークの意味の理解をさらに深めるため、各国の友好のシンボルであるオリンピックシンボルにちなんで地球を五大陸に分け（ユーラシア/アフリカ/南北アメリカ/オセアニア/南極・北極・海洋）、それぞれの自然と生物相（バイオーム）の違いを班ごとに調べて、ポスター発表を行う。大陸毎の生物相を調べることで、気候や生物進化の過程、大陸移動等の要因によって大陸毎に生物相が違うことを理解することができる。また、日本との生物相の違いも比較できるため、諸外国の自然や生物相に対しての理解を深めることや多様性を実感することができると思う。
- (2) ポスター発表を見た文化祭来場者が世界の諸外国の多様性や特色が理解できるよう、ポスター発表の仕方を各班で工夫し、イラストやクイズ等を用いた分かり易い発表となるよう心掛ける。また、来場者に投票も行ってもらい、発表方法の工夫が生徒に還元できるようにする。

III 指導と評価の計画（4時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては2時間）

時間	主な学習活動	評価
1・2	○ クラスを5つのグループに分け、5大陸ごとの自然や生物相について班ごとに資料等を用いて調査を行う。	■ グループで役割を決め、自然や生物相を調べている。 【知識・理解】
3・4 (本時)	○ 調べた結果をポスターにまとめる。	■ 調べたことを分かり易くまとめている。 【思考・判断】 ■ 他のグループの発表を聞き、諸外国の多様性について理解している。 【知識・理解】

テーマ	×	アクション
環境		学ぶ(知る)

IV 本時の指導（第3時／4時間）

(1) 本時の目標

- ① 調べた結果を見る人に伝わるような分かり易い表現を工夫して、ポスターにまとめようとする。
- ② 他グループのポスター発表を見ることで諸外国の多様性についての理解を深めるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 前時までの学習を振り返る。	◎ 前時までに調べたことが残るよう、レポート（メモ）にまとめさせ、記録を残す。
展 開	② グループごとに協力して調査・学習内容をポスターにまとめる。 ③ 完成したポスターをクラスで共有し、お互いに発表を見合う。	◎ 来場者に伝わるようイラストを用いたり、クイズを用いるなど、表現の方法を工夫し、ポスターの目的が伝わるように指導する。 ■ 調べた結果を、見る人に伝わるように工夫して、ポスターにまとめている。 (観察)
ま と め	④ 他のグループのポスターを見て、分かったことをワークシートに書く。	■ 他のグループのポスターを見て大陸ごとの多様性を理解している。 (ワークシート)

環境

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、オリンピックシンボルの示す五つの大陸に着目して調べ学習を行った例である。中学校で学んだ内容（ここではオリンピックシンボルマークの意味）を、高校でさらに深化させていくことは、オリンピック・パラリンピック教育を充実・発展させていく上で大切なことである。

また、オリンピックと関連付けて授業を行うことにより、大会に対する興味・関心を高めるとともに、国際理解にもつながると考えられる。本事例で学習した内容を、外国の歴史や文化、言語等とあわせて、留学生との交流や姉妹校交流の際の話題とすることで、「世界ともだちプロジェクト」と関連付けて授業を展開することも有効である。

(5) ボランティア

① 小学校第4学年 総合的な学習の時間 「高齢者介護施設の方々との交流」

I 単元目標

- (1) 高齢者介護施設の方々との交流をすることを通して、様々な人の気持ちを理解し寄り添う気持ちや敬意をもつことができる。
- (2) 高齢者の方々との触れ合いを通して、高齢者の豊富な体験や知恵を知り、生き方を学ぶことができる。
- (3) 高齢者の方々との触れ合いを通して、共生社会の実現に向けて自分たちができることについて考えられる。

II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 東京 2020 大会では、「年齢、国籍、文化の違いや障害の有無などにかかわらず、あらゆる人々が互いの人権を尊重し合い、ともに力を合わせて生活する共生社会を実現する。」ことが重要視されていることから、高齢者介護施設を利用するの方々との関わりを通して、高齢者の方々の気持ちや考えを学ぶ。
- (2) 交流活動を「する」中で、「支える」気持ちであるボランティアマインドを育てていく。
- (3) 学習の最後に、交流活動を振り返るとともに、日常生活及び東京 2020 大会に向けて、自分自身が今後「できること」について考えさせる。

III 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 回目の交流 ・ サザエさん家のすき焼きジャンケンゲーム ・ コミュニケーションタイム（グループ） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の方々との交流活動に進んで取り組んでいる。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
2, 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2 回目の交流に向けた計画づくり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 利用者の方々を楽しませるためには、どのようなことをすればよいのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しませるための計画づくり ・ グループごとの打合せ、練習 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の方々の気持ちを考え、楽しんでもらうために自分たちができることについて計画を立てている。 <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p>
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2 回目の交流 ・ グループごとの出し物 ・ コミュニケーションタイム 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 相手意識をもって、交流活動を自分たちで進めている。 <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の方々の思いを知る。 <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り ・ グループごとの振り返り ・ 今後「自分ができること」の話合い 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 交流活動で学んだことを振り返り、自分たちがこれからできることについて考えることができたか。 <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p>

テーマ	×	アクション
オリンピック・パラリンピックの精神		支える

IV 本時の展開（第4時／5時間）

(1) ねらい

- ① 相手意識をもって、交流活動を自分たちで進めることができるようにする。
- ② 利用者の方々の思いを知ることができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 始めの言葉の中で、今日の活動のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">利用者の方々に楽しんでいただこう。</div>	◎ 利用者の方々にも子供たちの活動のめあてを知っていただく。
展開	② グループごとの出し物を行う。 ・手づくりのおみくじ ・なわとびの披露 ・一緒に的あて ・クイズ ・しりとり など	◎ 児童一人一人の思いやコミュニケーションの取り方を大切にする。 ◎ 言葉遣いなど適切な接し方を考えるよう助言する。 ■ 相手意識をもって、交流活動を自分たちで進めている。（観察）
まとめ	③ コミュニケーションタイムをとる。 ・利用者の方との懇談 ・利用者の方との合唱 ・一人一人との握手	◎ 利用者の方々の思いや気持ちを読み取るように働きかける。 ■ 利用者の方々の思いを知る。（感想）

V 本事例を実施するに当たって

本実践は、アクション「支える」により、重点的に育成すべき5つの資質のうち、ボランティアマインドを醸成する「東京ユースボランティア」の取組である。

ボランティアマインドは、一朝一夕で醸成できるものではなく、各学校においては、計画的・継続的な取組が重要である。

本事例の実践の後に、第5学年では地域の保育園や幼稚園の園児との交流活動に広げることが考えられる。

さらには、第6学年では、障害者施設でのボランティア活動へと発展させることにより、障害者理解にもつなげることができる。

こうした活動を通じて、子供たちのボランティアマインドを醸成するのみならず、自尊感情を高めるとともに、共生社会の実現に向け、思いやりの心を育てていくことが可能となる。

ボランティア

② 中学校第1学年 総合的な学習の時間 「障害者スポーツ大会でボランティア」

I 単元の目標

- (1) 生徒が障害者との触れ合いを通して、障害の有無にかかわらず、スポーツを通して人生を楽しんでいることを知るようにする。
- (2) 障害者スポーツやその愛好家の生き方について知るとともに、障害そのものについても理解を深める。
- (3) 大会の運営を手伝うことにより、オリンピックやパラリンピックを運営する人々に関心を持ち、自分自身がその担い手となる可能性があることを知るようにする。

II 本単元（題材）とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 障害者スポーツ大会のボランティア活動を通して、障害のある人も自分たちのできるスポーツを楽しみ、精一杯努力をしていることを理解できるようにする。
- (2) 障害とは環境要因から作り出されるものであることを知り、自ら進んで地域の環境を整える感性を醸成させる。
- (3) 障害者との直接交流を通して、ボランティア・マインドの醸成につなげる。

III 指導と評価の計画（17時間扱い このうち、オリンピック・パラリンピック教育としては9時間）

時間	主な学習活動	評価
1	○ ガイダンス「パラリンピックを知ろう」	■ パラリンピックについて、意欲的に学習しようとしている。 【関心・意欲・態度】
2～4	○ パラリンピアンの方の生き方、努力について知る。 ・トライアスロン選手 ・車いすテニス選手 ・ゴールボール選手	■ パラリンピアンの方の努力について進んで学ぼうとしている。 【関心・意欲・態度】
5・6 夏季休業課題	○ パラリンピックの歴史、競技種目、選手について調べる。	■ パラリンピックについて、調べたことをまとめている。 【知識・理解】
7・8	○ 視覚障害について知る。	■ 視覚障害や点字について理解している。 ■ 視覚障害者のサポートの仕方について理解している。 【知識・理解】
9・10	○ 障害者理解新聞を作成する。	■ 学習した内容を障害者理解新聞として作成している。 【思考・判断】
11～15 (本時)	○ ブラインドサッカー選手との交流。 ○ ブラインドサッカーについて知る。 ○ ブラインドサッカー大会のボランティアを体験し、選手と交流する。	■ ブラインドサッカーについて理解している。 【知識・理解】 ■ ボランティアについて積極的に取り組み、選手と交流しようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ ボランティア体験を通して、パラリンピックやオリンピックにどのように関わるか考えている。 【思考・判断】
16・17	○ ウィルチェアラグビー選手と交流する。	■ ウィルチェアラグビーの魅力や楽しさを知ろうとしている。 【関心・意欲・態度】

IV 本時の指導（第14・15時／17時間）

テーマ	×	アクション
スポーツ		支える

(1) ねらい

- ① ブラインドサッカーの魅力を知るとともに、選手たちの努力や熱意を知り、パラリンピックやオリンピックにどのように関わるかを考えられるようにする。
- ② 障害者理解学習で学んだことを生かし、実際にボランティア体験を行うことで、大会を運営するための苦労や喜びを知る。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	① 自分の担当するチーム名、グループ名、ビブスの色、番号を覚える。	◎ 協会のスタッフが自分の担当する生徒であることが一目で分かるようにビブスを活用する。
	② 校庭の集合場所に整列し、ブラインドサッカー協会のスタッフとミーティングを行い、本日の流れを理解する。	◎ 協会のスタッフと生徒との顔合わせを丁寧に行い、その後の運営に支障がないように留意する。
展開	③ 大会会場の設営を行う。 ・ フェンス及び受付ブース、体験会ゴール等の設営	◎ 全員で会場設営を行う。
	④ 担当するチームのゲームにおける自己の役割を果たす。 <ボールパーソン> ・ 試合中のボールパーソン ・ 各試合2名から4名 <チーム付き> ・ チームに帯同し練習や試合中の選手サポート補助など ・ 各チームに3名から4名 <体験会> ・ 体験会への集客及び体験の補助	◎ アップ中のチームに付いている生徒には、選手を更衣室やトイレなどに案内するように言葉を掛ける。 ◎ 大会に応援に来ている小学生等にブラインドサッカー体験を案内するとともに、自分たちも体験する。 ■ 自分の役割を理解し、臨機応変に周囲に気を配りながら対応している。（観察）
まとめ	⑤ サポートしたチームの方や協会スタッフと挨拶をする。	■ 大会を運営するための苦労や喜びやブラインドサッカーの魅力を理解している。（感想）

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、障害について考える学習を踏まえた上で、ボランティア活動を実施している。ボランティアマインドの醸成には、計画的・継続的な取組が必要である。本事例では、「スマイルプロジェクト」と「東京ユースボランティア」の2つのプロジェクトに関わっている。

「スマイルプロジェクト」の視点からは、障害の有無にかかわらず、子供たちの相互理解を図る取組として、本実践から高齢者介護施設等と連携した活動等へ拡大させていくことができる。

「東京ユースボランティア」の視点からは、社会奉仕の精神を養う取組として、本事例からさらに地域行事や地域防災活動等のボランティアへ拡大させていくことができる。

このように、障害者スポーツ大会におけるボランティアの実践は、共生社会の実現に向けた思いやりの心を育てるのみならず、ボランティアマインドの醸成にもつながり、ひいては自尊感情を高めていくことにつながる。

ボランティア

③ 高等学校 全日制・定時制 総合的な学習の時間 「ボランティア活動」

I 単元目標

- (1) 地域の運動会へのボランティア活動を通して、その意義を理解し、進んで参画しようとする。
- (2) ボランティア活動を通して、道徳性を養い、価値観を高めることで、よりよい生き方を主体的に選択できるようにする。
- (3) 近隣の福祉園でのボランティア活動を通して、「共生社会」の実現に向けて、お互いの人格や個性についての理解を深め、主体的に取り組もうとする。



II 本単元とオリンピック・パラリンピックとの関連を深める手だて

- (1) 地域の運動会のボランティア活動を通して、ボランティアマインドを育むとともに自尊感情を高める。
- (2) 地域の運動会のボランティア活動を通して、スポーツに親しむことやフェアプレーの大切さを知ると共に、体力の向上や健康づくりに意欲的に取り組む態度を養う。
- (3) 福祉施設でのボランティア活動を通して、思いやりの心を育成する。
- (4) 東京 2020 大会開催に向けて、自分自身ができることを考える。

III 指導と評価の計画（2時間扱い）

【地域運動会の運営ボランティア（全日制）】

時間	主な学習活動	評価
1	○ 近隣の小学校で開催される地域の運動会の運営ボランティアの事前打ち合わせを通して、役割を知る。	■ 運営ボランティアの役割について主体的に理解しようとしている。【関心・意欲・態度】
2 (本時)	○ 近隣の小学校で開催される地域運動会の運営ボランティアに取り組む。	■ 運営ボランティアに積極的に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 ■ 東京 2020 大会に向けて自分ができることを考えている。【思考・判断】

【近隣の福祉施設のお祭りにおける運営ボランティア（定時制）】

時間	主な学習活動	評価
1	○ 近隣の福祉施設のお祭りにおける運営ボランティアの事前打ち合わせを通して、役割を知る。 ○ 障害のある方への対応方法について知る。	■ 運営ボランティアの役割について理解しようとしている。【関心・意欲・態度】 ■ 障害のある方への対応方法について理解する。【知識・理解】
2 (本時)	○ 近隣の福祉施設のお祭りに運営ボランティアとして取り組む。	■ 運営ボランティアに積極的に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 ■ 東京 2020 大会に向けて自分ができることを考えている。【思考・判断】

テーマ	×	アクション
スポーツ		支える

IV 本時の指導

【地域運動会の運営ボランティア（全日制）】

(1) ねらい

地域運動会のボランティア活動を通して、ボランティアマインドを育む。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① ボランティア活動の内容について確認する。	◎ ボランティア活動の各内容における配慮事項を確認する。
展 開	② 運営ボランティアとして取り組む。 ③ 地域の子供たちと交流する。	◎ 生徒に積極的に声かけを行うなど、安全に配慮してボランティア活動を行うように配慮する。 ■ 運動会の運営補助として、積極的に参加者と関わり、ボランティア活動に取り組んでいる。（観察）
ま と め	④ ボランティア活動を振り返る。	■ 東京2020大会に向けて自分ができることを考えている。（感想）

【近隣の福祉施設のお祭りにおける運営ボランティア（定時制）】

(1) ねらい

近隣の福祉施設のボランティア活動を通して、ボランティアマインドを育む。

(2) 展開

	学習活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	① 障害者に対する配慮について確認する。	◎ ボランティア活動の各内容における障害者に対する配慮事項を確認する。
展 開	② 模擬店、ストラックアウトや輪投げ等の運営補助のボランティア活動を行う。 ③ 景品所における景品交換の補助のボランティア活動を行う。	◎ 安全に配慮してボランティア活動を行うように言葉を掛ける。 ■ お祭りの運営補助として、積極的に参加者と関わり、ボランティア活動に取り組もうとしている。（観察）
ま と め	④ ボランティア活動を振り返る。	■ 東京2020大会に向けて自分ができることを考えている。（発言）

V 本事例を実施するに当たって

本事例は、全日制、定時制課程それぞれで取り組んだボランティア活動である。全日制と定時制課程の教員が連携を図り、お互いの取組を共有することにより、それぞれの取組をより工夫、発展していく可能性を秘めている。高校生については、ボランティアマインドを醸成して、東京2020大会で自分がどのように関わることができるかを考えさせていくことが特に重要である。

全校生徒が同時期に同一のボランティアに参加することは難しいので、様々なボランティアの機会を用意することが必要である。

(6) 興味・関心を高めるための校内環境の工夫

① 小学校 「オリンピックについてたくさん知ろう！」

I 取組・活動のねらい

- (1) スポーツ選手が「どれほどすばらしい記録」をもっているのか、実際の記録を様々な方法で再現することで、体験することができるようにする。
- (2) 校内を環境整備することで、オリンピックの「精神」や「歴史」について学ぶことができるようにする。
- (3) 「児童の記録」や「学校での取組」を、色彩鮮やかに効果的に掲示し、校内をオリンピックミュージアムとすることで、児童のオリンピックに対する関心を高めるようにする。

II 本取組・活動の内容



「本物の記録を体験しよう」

- 画像右下にハンマー投げのハンマーと同じ重さの砂袋（緑色）があり、児童はこれを持ち上げることで実際のハンマーの重さを体感することができる。
- 走り幅跳びや走り高跳びの実際の記録を校内に表示した。
- ウサイン・ボルト選手が100メートル走で走る歩幅を、体育館内に足跡で表現した。
- 児童は、その歩幅の大きさに驚きの表情を見せていた。



「オリンピックについて知ろう」

- 階段に「歴代オリンピック開催国と開催年度」を表示した「歴代オリンピック階段」を作成した。
- たくさんの国旗が連なる「オリンピック参加国旗廊下」も作成した。
- 児童が学校生活の中で話題にできるよう、国旗や開催都市を表示し、オリンピックの歴史について理解しようとするきっかけとなった。



「オリンピック・パラリンピック クイズに挑戦しよう」

- 校内の様々な場所に「オリンピッククイズ」を設置した。
- クイズの書かれたカードをめくると、「答え」と「画像」が示されている。
- 子供たちは校舎内を巡って順番にクイズに挑むようにした。



「学校のアスリートを知ろう」

- 児童の自尊感情を高め、運動への意欲が増すよう、廊下の「スポーツ記録コーナー」には様々な種目で素晴らしい成績をあげた児童を学年別に掲示した。児童は「自分の記録」と「掲示されている記録」を比べながら「よし、次の体力テストでは、もっと頑張るぞ!」と話し合っていた。

Ⅲ 環境を整備することによって得られた児童・生徒や保護者等の反応

- (1) カラフルな掲示物や展示品で、学校内が明るく生き生きとした雰囲気包まれた。児童の笑顔が多くなり、学校公開日に来校する保護者からの評価も高い。
- (2) 選手の記録を様々な方法で示したコーナーは、児童だけでなく保護者や地域の方も驚いていた。例えば、走り幅跳びの世界記録は、マイク・パウエル選手の「8m95cm」であるが、本校体育館には、この足跡が再現されている。はるか遠くにある着地点の「足跡」を見て、大人ですらも驚愕する。「スポーツ」のテーマに関連した掲示により、オリンピック選手の卓越性を実際に知ること、児童も保護者も、そして教員も「世界の祭典であるオリンピック」のすばらしさを再認識することができている。
- (3) 掲示物を通して、東京2020大会のいくつかの種目が、自分たちの暮らしている地域でも開催されることを児童たちは知った。「世界の人々と友達になりたい」「4年後には自分も運営にボランティアとして大会に関わりたい」という気持ちが、多くの子供たちの心に芽生えており、「世界ともだちプロジェクト」につながっている。

② 小学校 「世界の国々の紹介（パネル展示）」

I 取組・活動のねらい

- (1) 本校にはアジア諸国を母国とする児童が在籍している。PTA会員で構成している国際交流係は、子供たちに外国の文化や行事などを紹介することによって、様々な違いがあることに気付いてもらうとともに、互いの文化を尊重し合うことの大切さを伝えようと考え、外国の生活や文化を伝えるパネルを作成した。外国人の保護者が、それぞれの国の言葉で書き、日本出身の保護者が日本語を書いた。作成している間も、写真の説明をしてもらったり、料理のレシピを聞いたり、保護者同士が楽しく過ごし、交流を深めた。
- (2) 上記のPTAの活動を、オリンピック・パラリンピック教育と関連付け、出来上がったパネルを児童に紹介するため、校舎内に、「オリンピック・パラリンピック教育に関する展示コーナー」を設け、その一角に全7枚のパネルを掲示した。



II 本取組・活動の内容



取り上げた国は、日本、大韓民国、中華人民共和国、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国である。これらの国々は本校に通う児童の保護者の母国である。

中華人民共和國 (China/CHN)			
正式	People's Republic of China	地域	アジア
首都	ベキン (北京)	人口	13億3,140万人
言語	中国語	通貨	元
 比率2:3			
<small>●国旗の意味／中国の国旗は「五星紅旗（ごせいこうき）」ともいわれ、赤は共産主義のシンボルの色。大きな星は中国共産党を、小さな4つの星は労働者、農民、知識階級、愛国的資本家を表している。</small>			
<small>●備考／中華人民共和國は革命によって創設。1949年10月1日成立。中国共産党の指導のもとに、全国人民代表大会を国家権力の最高機関とする。1966年に始まった文化大革命の後、「四つの近代化」をスローガンに社会主義建設を進める。</small>			
<small>●面積／約960万平方km（日本の約25倍）。</small>			
<small>リンク ■中国大使館 ■香港政府観光局</small>			

パネルの内容 ①

<取り上げた6か国の概要>

国の正式名称、地域、首都、人口、言語、通貨、国旗等を紹介している。



パネルの内容 ②

<各国の文化や行事>

国別に1枚ずつパネルを作成。正月の行事、風習、食文化等を紹介。説明については、現地語と日本語を併記している。次頁はモンゴル国に関する資料の一部である。



【正月】

正月を祝っている子供たち。正月は、モンゴル語で「ツアガンサル」（白い月）と言う。モンゴルでは伝統的に旧暦で正月を祝う。



【正月の料理】

正月のお祝い料理は、羊肉と小麦粉、乳を主な食材とし、オーツ、ポーズ、ヘビンポーズといった料理を作る。オーツは、羊の尾の付いた胴体部分を丸ゆでにしたものである。



【競馬】

正月の競馬。モンゴル式の競馬は、柵もレーンもない大草原・雪原で行われる。小学校低学年くらいの子供たちが騎手を行う。

この取組をきっかけに、本校ではモンゴル国を含む「世界ともだちプロジェクト」の対象国について調べ学習等を行うこととなった。今年度末には、地域在住の馬頭琴奏者を招き、「スーホの白い馬」に登場する楽器の音色を聞かせてもらう予定である。

Ⅲ 環境を整備することによって得られた児童・生徒や保護者等の反応

このような事例を参考に、保護者や地域の方の参加を促す取組や学校と家庭とが連携できる学習方法を工夫したい。

本事例は、保護者（PTA）が積極的に学校に協力し、児童の学習環境を整えている。

- (1) 子供たちは、様々な国の言語や文化を知ることができ、「将来、行ってみたい。」「世界の国の人たちと話をしてみたい。」という感想が聞かれた。「世界ともだちプロジェクト」につながる掲示となっている。
- (2) 本校に通っている児童の母国のことを取り上げることで、「世界ともだちプロジェクト」の一環としてよくまとめられていると、保護者から評価を受けた。
- (3) 校舎内に「オリンピック・パラリンピック教育」の壁面コーナーを設置することにより、教員にとっても、国際理解教育を推進する貴重な内容となっている。

③ 中学校 「オリンピック・パラリンピック掲示板の取組」

I 取組・活動のねらい

- (1) オリンピック年表を自分たちで分担して作成し、工夫して掲示することで、オリンピックの歴史や変容について学び合い、興味・関心を高める。
- (2) ポスターデザインやロゴに込められたメッセージからユニバーサルデザインについて考えられるようにする。
- (3) N I Eの取組と合わせて、近代オリンピックにおいて活躍した日本人選手の生き方を通して「自己の弱さの克服」「継続することの大切さ」という道徳的価値を位置付け、オリンピックの文化的・平和的な意義について深く考える。

II 本取組・活動の内容



●夏季オリンピック、冬季オリンピックを並列させて第1回大会から順に掲示したことで、変容や技術革新の様子などを分かりやすくした。

●ポスターデザインやロゴに込められたメッセージを調べる中で、ユニバーサルデザインについても考える機会となった。



●人見絹枝（陸上）や西竹一（馬術）、東洋の魔女（女子バレーボール）、金栗四三（マラソン）の活躍や生き方を学ぶことで、オリンピック教育に道徳的な価値を位置付けることができた。



●最新のオリンピック・パラリンピックの開催地の情報を掲示することで、文化や歴史などへの興味・関心を高めることができている。そして、東京 2020 大会で自分たちに何ができるのかを考える機会となっている。

Ⅲ 環境を整備することによって得られた児童・生徒や保護者等の反応

- (1) N I Eと関連して、新聞記事等を掲示することにより、生徒が掲示板の前で立ち止まり、オリンピック・パラリンピックに関する話題で楽しく会話をする場面が多く見受けられるようになるなど、オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心が高まっている。
- (2) 体育理論の学習への関心・意欲が高まり、4つのテーマ全てに関連し、「オリンピック・パラリンピックが社会に果たす役割についてよく分かった。」「もっと活躍した日本人選手を調べてみたいと思った。」「北島康介選手とか内村航平選手とか、どんな練習をしたのか知りたい。」「オリンピックが国同士（国家間）の問題に影響するのは、どうしてだろう。」といった疑問や感想が挙げられ、更に生徒が進んで調べようとする意欲を促している。

④ 特別支援学校 「オリンピック花壇を作ろう！」

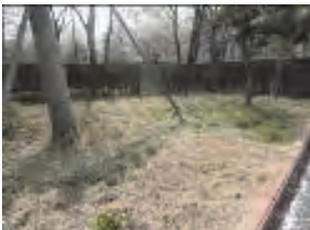
I 取組・活動のねらい

- (1) オリンピックシンボルの意味を知り、季節に合った花を使って、オリンピック花壇を作ろうとする。
- (2) 活動の全体像を理解して、自分の役割を主体的に果たそうとする。
- (3) 仲間と一緒に活動し、協力して目標を達成しようとする。
- (4) 努力して花壇を完成させることで、達成感と充実感を味わうとともに、互いを認め合い、ともに生きる関係を培う。

II 本取組・活動の内容



(イメージ図)



生徒：知的教育部門 高等部3学年

教科：生活単元学習

作業工程：雑草で生い茂った場所の除草作業と耕起
(5月・6月)

工夫：・授業の導入では、パワーポイントを用いて
前回までの振り返りと本日の作業内容の確認を行うようにした。

- ・完成イメージを見せることで授業に見通しを持って活動できるようにした。



作業工程：花壇の枠組み作成と竜のひげ植え
(9月・10月)

工夫：・初めて行う作業については、必ず教員
がどのように行うかの手本を見せる。

- ・すずらんテープで均等な長さのひもを作り、
それを用いてポットの穴を開け、竜のひげの間隔を均等にする。



作業工程：パンジーの苗植えと看板作製

(10月・11月)

- 工夫：
- ・生徒自身が自分でポットの穴を空け、植えることができるように、パンジーの苗を植える場所に置いた。
 - ・看板作製は作業班の木工班に所属している生徒が行うこととし、得意分野を生かしてスムーズにできるようにした。



作業工程：看板の取り付けと生徒によるプレゼンテーション(12月)

- 工夫：
- ・生徒自身が工程ごとのプレゼンテーションを行うことで今までの過程を振り返ることができるようにした。
 - ・発表の場を作ることによって、生徒それぞれが達成感や自己肯定感をもてるようにした。

Ⅲ 環境を整備することによって得られた児童・生徒や保護者等の反応

- (1) 生徒がオリンピック、パラリンピックに関心をもち、自分たちもなんらかの形で関与していこうとする意欲をもって取り組むことができた。
- (2) 卒業学年の生徒であったこともあり、卒業制作の一部として、共同制作できたことは子供たちの意欲喚起にもつながり、とてもよかったという保護者からの声が寄せられた。
- (3) 力を合わせて花壇を完成させることで生徒が互いに認め合い、自分たちの共同の成果として喜び合うことができる。
- (4) 授業参観や学校公開等で完成した花壇を校内・外の人に見てもらうことにより、全校児童・生徒や保護者、地域の方にオリンピック・パラリンピックへの関心を高めることにつながった。



実践事例協力校一覧

【幼稚園】

江東区立大島幼稚園

【小学校】

台東区立上野小学校

世田谷区立赤堤小学校

杉並区立方南小学校

北区立西が丘小学校

(旧 北区立第三岩淵小学校)

北区立王子第五小学校

練馬区立旭町小学校

足立区立東綾瀬小学校

江戸川区立南葛西第二小学校

調布市立緑ヶ丘小学校

東村山市立八坂小学校

武蔵村山市立第三小学校

多摩市立連光寺小学校

多摩市立多摩第一小学校

西東京市立保谷小学校

【中学校】

品川区立戸越台中学校

世田谷区立駒沢中学校

渋谷区立広尾中学校

練馬区立上石神井中学校

立川市立立川第二中学校

日野市立日野第一中学校

東久留米市立下里中学校

【高等学校】

都立葛飾野高等学校

都立三田高等学校

都立雪谷高等学校

都立小山台高等学校

都立赤羽商業高等学校

都立石神井高等学校

都立翔陽高等学校

【特別支援学校】

都立葛飾ろう学校

都立光明特別支援学校

都立練馬特別支援学校

都立府中けやきの森学園

□ オリンピック・パラリンピック教育 参考図書

A オリンピック・パラリンピック全般

「新しいスポーツマンシップの教科書」	広瀬 一郎 学研教育出版
「あの一瞬 アスリートが奇跡を起こす『時』」	門田 隆将 角川書店
「オリンピック 1300 年・スキー 5000 年—スポーツ小読本」	本郷 透徹 北國新聞社
「オリンピック大百科（『知』のビジュアル百科）」	クリス・オクスレード、デーヴィッド・ボールハイマー あすなる書房
「オリンピックトリビア！—汗と涙と笑いのエピソード」	満園 文博 新潮社
「オリンピックと商業主義」	小川 勝 集英社
「オリンピックの『意外』な真実」	武田 知弘 大和書房
「オリンピックのすべて—古代の理想から現代の諸問題まで—」	ジム・パリー、ヴァシル・ギルギノフ、舛本 直文 大修館書店
「オリンピックはなぜ、世界最大のイベントに成長したのか」	マイケル ペイン サンクチュアリ出版
「オリンピックは社会に何を遺せるのか」	杉山 茂、園田 碩哉、上柿 和生 創文企画
「オリンピック・パラリンピック大百科」(全7巻)	日本オリンピック・アカデミー 小峰書店
「オリンピックまるわかり事典」	PHP 研究所
「オリンピック・レガシー：2020 年東京をこう変える！」	間野 義之 ポプラ社
「近代スポーツマンシップの誕生と成長」	阿部 生雄 筑波大学出版会
「心のにこるオリンピック・パラリンピックの読みもの」(全3巻)	大野 益弘 学校図書
「心を動かす！『伝える』技術 五輪招致7人のプレゼンターから学ぶ」	荒井 好一 SB クリエイティブ
「こどもオリンピック新聞 アテネからロンドンまで」	世界文化社
「これならわかるオリンピックの歴史 Q&A」	石出 法太、石出 みどり 大月書店
「時代背景から考える日本の6つのオリンピック」(全3巻)	稲葉 茂勝 ベースボール・マガジン社
「写真で見るオリンピック大百科」(全6巻)	舛本 直文 ポプラ社
「16 歳から知る オリンピックの軌跡」	清水 ひろし 彩流社
「数学でわかるオリンピック 100 の謎」	ジョン・D・バロウ 青土社

「すごいぞ！オリンピック・パラリンピックの大記録（世の中への扉）」	講談社
「地図と写真で見る東京オリンピック 1964」	ブルーガイド編集部 実業之日本社
「完全復刻アサヒグラフ 東京オリンピック」	週刊朝日編集部 朝日新聞出版
「東京オリンピックと新幹線」	江戸東京博物館、行吉 正一、米山 淳一 青幻舎
「東京オリンピックの社会経済史」	老川 慶喜 日本経済評論社
「東京オリンピック 文学者の見た世紀の祭典」	講談社
「TOKYO オリンピック物語」	野地 秩嘉 小学館
「TOKYO1/4 と考える オリンピック文化プログラム 2016 から未来へ」	東京文化資源会議 勉誠出版
「なぜ東京五輪招致は成功したのか？」	松瀬 学 扶桑社
「ヒトラーのオリンピックに挑んだ若者たち：ボートに託した夢」	ダニエル・ジェイムズ・ブラウン 早川書房
「ポケット版オリンピック事典」	日本オリンピック・アカデミー
「ほんとうにあった オリンピック ストーリーズ」	日本オリンピック・アカデミー 講談社
「幻の東京オリンピック 1940 年大会 招致から返上まで」	橋本 一夫 講談社
「『幻の東京オリンピック』の夢にかけた男：日本近代スポーツの父・岸清一物語」	古城庸夫 春風社
「みんなで創るオリンピック・パラリンピック ロンドンに学ぶ『ごみゼロ』への挑戦」	崎田裕子、鬼沢良子、足立夏子 環境新聞社
「私を変えたオリンピック メダルの色では語れない物語」	佐藤 岳 廣済堂出版

B パラリンピック・障害者スポーツ

「あきらとジョニーの『めざせパラリンピック』」	作：佐々木 大輔 絵：田中 伸介 文芸社
「終わらない挑戦 パラリンピックを制したテナー歌手」	ローナン・タイナン、塩野 美奈 YMM
「パラリンピックスポーツ／ルールとテクニク」（絵とDVDでわかるスポーツ 第10巻）	中村 和彦 学研教育出版
「障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」	（公財）日本障害者スポーツ協会 ぎょうせい
「障害者（アダプテッド）スポーツの世界」	藤田 紀昭 角川学芸出版
「障がい者が東京の街を歩けるかー 2020 年東京パラリンピック開催に向けてー」	陶山 哲夫 全日本病院出版会

「障害のある人のスポーツガイド」(全3巻)	(公財) 日本障害者スポーツ協会 汐文社
「身体障がい者スポーツ完全ガイド」	土田 和歌子 東邦出版
「とぶ! 夢に向かって: ロンドンパラリンピック陸上日本代表・佐藤真海物語」	佐藤 真海 学研マーケティング
「まるわかり! パラリンピック」(全5巻)	(公財) 日本障がい者スポーツ協会 文研出版
「みんなで楽しむ! 障害者スポーツ」(全5巻)	(公財) 日本障害者スポーツ協会 学習研究社
「夢を跳ぶーパラリンピック・アスリートの挑戦」	佐藤 真海 岩波書店
「夢をあきらめない 全盲のランナー・高橋勇市物語」	池田 まき子 岩崎書店
「夢をつなぐー全盲の金メダリスト河合純ー物語」	澤井希代治 ひくまの出版

C ボランティア

「オリンピックボランティアになるための本」	市居 愛 インプレス
「Q&A でわかる! はじめてのスポーツボランティア」(全4巻)	日本スポーツボランティアネットワーク ベースボール・マガジン社
「スポーツボランティア・ハンドブック」	日本スポーツボランティア学会 明和出版
「スポーツ・ボランティアへの招待」	山口 泰雄 世界思想社
「世界の人々をお迎えする『おもてなし』の心とスキル」	水谷 智美 セルバ出版

D その他

「英語落語で世界を笑わす!ーシッダウン・コメディによろこそー」	大島 希巳江、立川 志の輔 研究社
「国際儀礼の基礎知識ープロトコルー」	寺西千代子 全国官報販売協同組合
「すぐに使える接客英会話 大特訓」	柴山 かつの Jリサーチ出版
「ドーピングの現状・現実を語る」	岡田 晃、黒田 善雄 ブックハウス・エイチディ
「なぜ、スポーツ選手は不正に手を染めるのかーアスリート不正列伝ー」	マイク・ローボトム エクスナレッジ
「なぜぼくが新国立競技場をつくるのか」	隈研吾 日経 BP 社
「はじめての英語落語」	桂 あさ吉、大矢 智子、渡辺 克義 国際語学社

オリンピック・パラリンピック教育
実践事例集

東京都教育委員会印刷物登録
平成 28 年度 第 39 号

平成 28 年 7 月 発行
編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 0 3 - 5 3 2 0 - 7 7 8 7

印刷会社名 株式会社太陽美術

